レンズ交換式デジタルカメラ取扱説明書および付属ソフトウェアの最新サポート情報（製品に関するQ&A、パソコンとの接続方法、使用可能なメモリーカード、アクセサリー互換情報など）は下記のホームページから

『α』専用サポートサイト
http://www.sony.co.jp/DSLR/support/

『α』オフィシャルサイト
http://www.sony.jp/ichigan-a/
レンズ交換式デジタルカメラの最新情報、撮影テクニック、アクセサリーなどに関する情報を掲載しています。英語の取扱説明書のダウンロードもできます。
(English manual download service is available.)
付属ソフトウェアのサポート情報
http://www.sony.co.jp/support-disoft/

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。 **http://www.sony.jp/support/**

使い方相談窓口
フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・0466-31-2511

修理相談窓口
フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・0466-31-2531
※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「402」+「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

FAX（共通）0120-333-389

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

http://www.sony.co.jp/

この説明書は、古紙70%以上の再生紙と、VOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

4436247020

α99

SONY

4-436-247-**02** (1)

レンズ交換式デジタルカメラ
α99

取扱説明書

Aマウント

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。本書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

α

SLT-A99V

⚠警告 安全のために

→ 265～268ページも
あわせてお読みください。

誤った使いかたをしたときに生じる**感電や傷害など人への危害**、また**火災などの財産への損害**を未然に防止するため、次のことを必ずお守りください。

「安全のために」の注意事項を守る

定期的に点検する

1年に1度は、電源プラグ部とコンセントの間にほこりがたまっていないか、電源コードに傷がないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

カメラやACアダプター、バッテリーチャージャーなどの動作がおかしくなったり、破損していることに気がついたら、すぐに相談窓口へご相談ください。

万一、異常が起きたら

変な音・ においがしたら 煙が出たら	➡	❶ **電源を切る** ❷ **電池をはずす** ❸ **相談窓口に連絡する**

裏表紙に**相談窓口の連絡先**があります。

⚠危険 万一、電池の液漏れが起きたら

❶ **すぐに火気から遠ざけてください。漏れた液や気体に引火して発火、破裂の恐れがあります。**

❷ **液が目に入った場合は、こすらず、すぐに水道水などきれいな水で充分に洗ったあと、医師の治療を受けてください。**

❸ **液を口に入れたり、なめた場合は、すぐに水道水で口を洗浄し、医師に相談してください。**

❹ **液が身体や衣服についたときは、水でよく洗い流してください。**

警告表示の意味

この取扱説明書や製品では、次のような表示をしています。

⚠危険

この表示のある事項を守らないと、極めて危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生します。

⚠警告

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生することがあります。

⚠注意

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、けがや財産に損害を与えることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

プラグをコンセントから抜く

指示

電池について

安全のためにの文中の「電池」とは、「バッテリーパック」も含みます。

目次

はじめに

機能一覧

準備する

基本撮影/再生

撮影モードを変える

画面の表示を変える

ピントを合わせる

明るさを調整する

ドライブ機能を使う

応用撮影

動画撮影の設定

再生機能を使う

カメラをカスタマイズする

パソコンで見る

困ったときは/本機について

機能別目次

ここでは、撮影でよく使う機能や、本機の特徴的な機能をピックアップして紹介します。
詳細は、(　)内のページをご覧ください。

よく使う撮影機能

露出補正（113）

露出を補正して、画像全体の明るさを補正します。
本機では、露出モード「M」でも、ISOがオートなら露出補正が可能です。

ISO設定（133）/マルチショットノイズリダクション（134）

明るさに対する感度を設定します。
ISO50 ～ 25600の範囲で調整可能です。
マルチショットノイズリダクションにすると、最大ISO感度よりも感度を上げることができます。

ホワイトバランス（143）

色合いの調整を行います。
光源に適した色合いにしたり、色温度・カラーフィルターの組み合わせによる微調整も可能です。

ドライブモード（117）

1枚撮影、連写、ブラケット、リモコン撮影などの目的に合わせて撮影方法を変えることができます。

本機の特徴的な機能

AFレンジコントロール（104）

AF作動距離範囲を設定する機能です。意図しないフォーカシングを防止します。

DRO/オートHDR（135）

Dレンジオプティマイザーでは、被写体や背景の明暗の差を細かな領域に分けて分析し、最適な明るさと階調の画像にします。
オートHDRでは、露出の異なる3枚の画像を撮影し、画像を合成することにより階調豊かな画像にします。

クリエイティブスタイル（140）

画像の仕上がりを13種類の画像スタイルから選べます。
選んだスタイルをベースにして、露出補正などの変更も可能です。

手持ち夜景（77）

三脚を使わずにノイズが少ない夜景を撮影します。

マニュアル動画（164）

P、A、S、Mモードでは動画撮影中も露出を自由に調整できます。

本機の操作方法/カスタマイズ

表示情報（92）

本機はファインダーに目を近づけるとファインダー表示になり、離すと液晶モニター表示になります。DISPボタンを押すことで、表示方法を変えることができます。

クイックナビ（30）

ファインダー撮影用画面のときにFnボタンを押すと、液晶モニターが設定画面に移行します。直感的な操作が可能です。

サイレントマルチコントローラー（32）

ダイヤル操作音に配慮したサイレントマルチコントローラーを使うと、ダイヤル操作音を抑えて、フォーカスモードや録音レベルを設定できます。

カスタマイズ（45、189）

本機にはお好みの機能を割り当てられるカスタムボタンがあります。
また、AELボタン、ISOボタンなどにも、お好みの機能を割り当てられます。

お使いになる前に必ずお読みください

表示言語について

本機では日本語のみに対応しています。その他の言語には変更できません。

撮影方法について

本機は液晶モニターを使用して撮影する液晶モニターモードと、ファインダーを使用して撮影するファインダーモードの2通りの撮影方法が可能です。

本機搭載の機能について

- 本機は1080 60i対応機です。
- 本機は1080 60pの動画に対応しています。従来の標準的な記録モードがインターレースで記録するのと異なり、1080 60pではプログレッシブで記録します。これにより解像度が増え、滑らかでよりリアルな映像を撮影することができます。

DTレンズでの撮影について

本機は35mmフルサイズのCMOSを搭載していますが、DTレンズ（レンズ名称に"DT"と付くレンズ）を使った撮影では、自動的にAPS-Cサイズで記録され、画像サイズは小さくなります（147ページ）。

撮影内容の補償はできません

万一、カメラやメモリーカードなどの不具合により撮影や再生がされなかった場合、画像などの記録内容の補償については、ご容赦ください。

バックアップのおすすめ

万一の誤消去や破損にそなえ、必ず予備のデータコピー（バックアップ）をおとりください。

液晶モニター、およびファインダー、レンズ、イメージセンサーについてのご注意

- 液晶モニターやファインダーは、有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えないことがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されません。
- 液晶モニターを持って本機を持ち運ばないでください。
- 長時間、太陽に向けて撮影または放置しないでください。カメラの内部が故障することがあります。また、太陽光が近くの物に結像すると、火災の原因となります。
- 液晶モニターの裏や回転軸付近には、磁石が設置されています。フロッピーディスクやクレジットカードなど磁気の影響を受ける物をはさまないでください。
- 寒いところで使うと、画像が尾を引いて見えることがありますが、故障ではありません。また、初めは画面が通常よりも少し暗くなります。本機内部の温度が上がってくると、通常の明るさになります。
- 撮影する前に確認する画像は、実際の撮影結果と異なることがあります。

長時間撮影についてのご注意

- 長時間、連続して撮影しつづけると、本機の温度が上昇します。一定以上の温度になると、[!] マークが表示され自動的に本機の電源が切れます。電源が切れた場合は、本機の温度を充分下げるために、10分以上そのまま放置してください。

- 気温の高い場所では本機の温度上昇が早くなります。
- 本機の温度が上昇すると、画質が低下する場合があります。温度が下がるのを待って撮影されることをおすすめします。
- 本機の表面が熱くなる場合がありますが、故障ではありません。

AVCHD動画のパソコンへの取り込みについて

AVCHD動画をパソコンに取り込むときは、Windowsの場合はCD-ROM（付属）に収録されているソフトウェア「PlayMemories Home」を使用してください。

他機での動画再生に際してのご注意

- 本機は、AVCHD方式の記録にMPEG-4 AVC/H.264のHigh Profileを採用しております。このため、本機でAVCHD方式で記録した動画は次の機器では再生できません。
  - High Profileに対応していない他のAVCHD規格対応機器
  - AVCHD規格非対応の機器

  また、本機は、MP4方式の記録にMPEG-4 AVC/H.264のMain Profileを採用しております。このため、本機でMP4方式で記録した動画はMPEG-4 AVC/H.264の対応機器以外では再生できません。
- ハイビジョン画質（HD）で記録したディスクはAVCHD規格対応機器でのみ、再生できます。
  DVDプレーヤーやDVDレコーダーはAVCHD規格に非対応のため、ハイビジョン画質（HD）で記録したディスクを再生できません。また、これらの機器にAVCHD規格で記録したハイビジョン画質（HD）のディスクを入れた場合、ディスクの取り出しができなくなる可能性があります。
- 1080 60pの動画は、対応機器以外では再生できません。

GPS機能について

- GPS機能は、ご利用になる国や地域の規制に従ってお使いください。
- 位置情報を記録しない場合は[GPS機能]を[切]にしてください（199ページ）。
- 飛行機の中では機内の案内に従って、本機の電源をお切りください。

著作権について

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

本書中の画像について

画像の例として本書に掲載している写真はイメージです。本機を使って撮影したものではありません。

本書中のデータについて

性能、仕様に関するデータは特に記載のある場合を除き、すべて常温（25℃）下でのものです。バッテリーについては、CHARGEランプ消灯後、約1時間充電した状態のバッテリーを使用したときのものです。

ファインダーでの撮影について

高解像度、高コントラストのXGA・有機ELファインダーを搭載しています。視認性の良いファインダーを実現するため、様々な要素のバランスを重視した設計を行い、広い視野角と、長いアイポイントを実現しています。

- ファインダーの周辺部分の画像が少し歪んで見える場合がありますが、故障ではありません。構図の隅々まで確認して撮影したいときは、液晶モニターも使用してください。
- ファインダーをのぞきながらパンしたり、視線を上下左右に動かすと、ファインダーの画像が歪んだり、色合いが変わって見える場合があります。これはレンズや表示デバイスの特性によるもので、故障ではありません。なるべくファインダーの中央付近を見るようにして撮影してください。

付属品を確認する

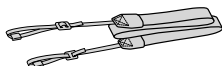
万一、不足の場合はお買い上げ店にご相談ください。
（　）内は個数

- カメラ（1）
- バッテリーチャージャー BC-VM10A（1）

- リチャージャブルバッテリーパックNP-FM500H（1）

- シューアダプター（1）/端子保護キャップ（1）（シューアダプターに装着）

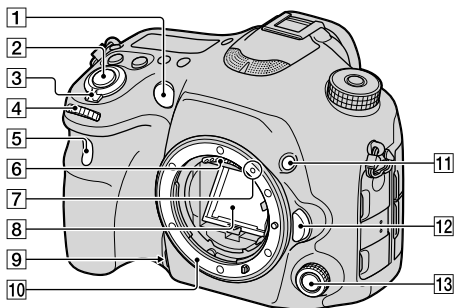
- USBケーブル（1）

- ショルダーストラップ（1）

- ボディキャップ（1）（本機に装着）

- シューキャップ（1）（本機に装着）
- アイピースカップ（1）（本機に装着）
- CD-ROM（1）
  - αアプリケーションソフトウェア
  - αハンドブック
- 取扱説明書（1）（本書）
- 保証書（1）

各部のなまえ

( )の数字は、参照ページです。

本体前面

1 AF補助光発光部(106) /セルフタイマーランプ(118)

2 シャッターボタン(67)

3 電源スイッチ(61)

4 前ダイヤル

5 リモコン受光部(121)

6 レンズ信号接点*

7 マウント標点(59)

8 ミラー *

9 プレビューボタン(46、84、188)

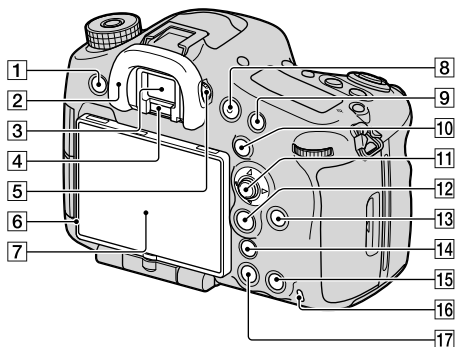
10 マウント

11 カスタムボタン(45、131、189)

12 レンズ取りはずしボタン(60)

13 サイレントマルチコントローラー (32)

***の付いたところは、直接手で触れないでください。**

本体後面

1 MENUボタン(38)

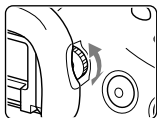
2 アイピースカップ (66)

3 ファインダー *

- ファインダーに目を近づけるとファインダー表示に切り換わり、離すと液晶モニター表示に戻ります。

4 アイセンサー (66)

5 視度調整ダイヤル

- ファインダー内の画像表示がはっきり見えるように、視力に合わせてダイヤルを回します。

6 明るさセンサー (189)

7 液晶モニター (24、63、92、176)

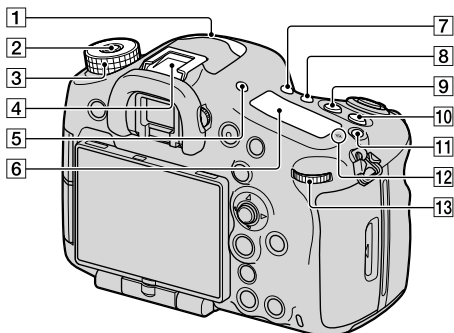
8 MOVIE (動画)ボタン(46、69)

9 撮影時：AF/MFボタン(オートフォーカス/マニュアルフォーカス)ボタン(45、111、188)
再生時：(拡大)ボタン(172)

10 撮影時：AEL (AEロック)ボタン(44、88、115、188) / SLOW SYNC (スローシンクロ)ボタン(126)
再生時：(一覧表示)ボタン(173)

11 マルチセレクター
12 撮影時：Fn（ファンクション）ボタン（34、35）
再生時：（再生画像回転）ボタン（174）
13 DISP（ディスプレイ）（表示切り換え）ボタン（92、176）
14 （スマートテレコンバーター）ボタン（46、157）/ズームボタン（158）/ピント拡大ボタン（109）
15 撮影時：AF RANGE（レンジ）ボタン（104）
再生時：（削除）ボタン（71）
Fn画面、メニュー画面オン時：カメラ内ガイドボタン（53）
16 アクセスランプ（56）
17 （再生）ボタン（70）

*の付いたところは、直接手で触れないでください。

本体上面

1 マイク*（170）

2 モードダイヤルロック解除ボタン（72）

3 モードダイヤル（72）

4 マルチインターフェースシュー **（23、123）
- 一部のアクセサリーでは接続時にマルチインターフェースシュー後方からはみ出る場合がありますが、先端まで入っていれば取り付けできています。

5 FINDER（ファインダー）/LCD切り換えボタン（191）

6 表示パネル（28）

7 (ドライブ)ボタン（117）

8 WB（ホワイトバランス）ボタン（143）

9 (露出補正)ボタン（113）

10 ISOボタン（44、133、188）

11 表示パネル照明ボタン（28）

12 イメージセンサー位置表示（99）

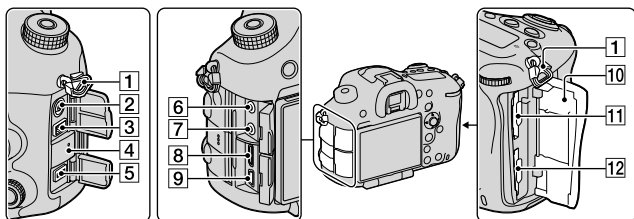
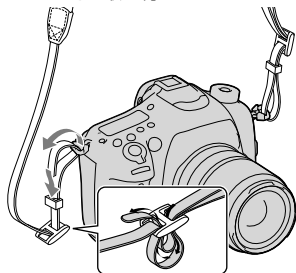
13 後ダイヤル

***動画撮影時は手でふさがないようにしてください。ノイズや音量低下の原因になります。**

****マルチインターフェースシュー対応アクセサリーについて詳しくは、専用サポートサイトでご確認ください。**
http://www.sony.co.jp/DSLR/support/
アクセサリーシュー対応のアクセサリーも使用できます。他社のアクセサリーを付けた場合の動作は保証できません。

Multi Interface Shoe

Accessory Shoe

本体側面

1 ショルダーストラップ取り付け部
- ストラップの両方の先端をそれぞれ取り付けます。

2 (シンクロ)ターミナル(127)

3 REMOTE（リモート）端子
- リモートコマンダー RM-L1AM(別売)を本機とつなぐ場合は、リモートコマンダーのターミナルを、コードが前方に向くようにしてREMOTE端子のガイド溝に合わせて差し込んでください。

4 スピーカー

5 DC IN端子
- ACアダプター AC-PW10AM(別売)を本機とつなぐときは、本機の電源を切り、ACアダプターの接続コードのプラグをDC IN端子に差し込んでください。

6 （マイク）端子
- 外部マイクを接続すると自動的に外部マイクに切り換わります。
  プラグインパワー対応の外部マイクを使うと、マイクの電源は本機から供給されます。

7 （ヘッドホン）端子(169)

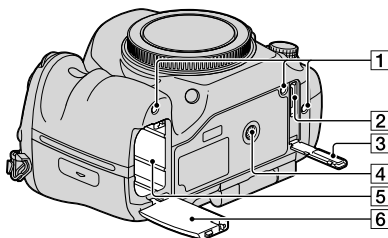
8 HDMI端子(184)

9 (USB)端子(218)

10 メモリーカードカバー (55)

11 SLOT1（メモリーカードスロット1）(55)
- SDカード、"メモリースティック PRO デュオ"対応

12 SLOT2（メモリーカードスロット2）(55)
- SDカード専用

本体底面

1 縦位置グリップ用ガイド穴
- 縦位置グリップ（別売）と本機を接続するときに使用します。ごみ、汚れなどでふさがないようにしてください。

2 縦位置グリップ接続端子

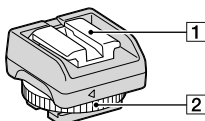
3 縦位置グリップ端子カバー

4 三脚ネジ穴
- 三脚を取り付けるときは、ネジの長さが5.5 mm未満の三脚を使う。
  ネジの長さが5.5 mm以上の三脚ではしっかり固定できず、本機を傷つけることがあります。

5 バッテリー挿入口（55）

6 バッテリーカバー （55）

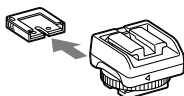
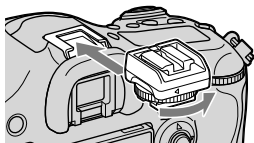
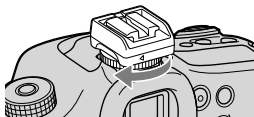
シューアダプター

従来のα用アクセサリーシュー（オートロックアクセサリーシュー）に対応したアクセサリーを取り付けるときは、本機に装着されているシューキャップをはずし、シューアダプターを本機に取り付けます。

Auto-lock Accessory Shoe

1 オートロックアクセサリーシュー

2 固定つまみ

取り付けかた

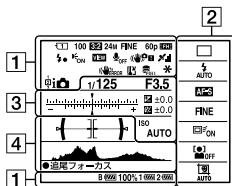
① 端子保護キャップをはずす。

② 固定つまみをゆるめ、本機に取り付ける。

③ 固定つまみを締める。

- 固定つまみは無理に回しすぎないでください。
- シューアダプターを本機に取り付けるときは、しっかりと奥まで差し込んでください。
- シューアダプターを本機からはずしたあとは、端子保護キャップを取り付けて保管してください。

画面表示一覧

液晶モニターの画面表示

お買い上げ時はファインダー撮影用（ファインダーを見ながら撮影するときの液晶モニターの表示）になっています。
DISPボタンを押すと、液晶モニターを見ながら撮影するときの表示になります。水準器やヒストグラムも表示できます（92ページ）。

ファインダー撮影用

オートモード/シーンセレクション時

テレコン連続撮影優先AE/P/A/S/M/スイングパノラマ時

液晶モニター撮影用

再生時（基本情報画面）

1

表示	意味
i i+ T10 T8 P P* A S M AUTO P A S M	撮影モード(72)
1 2 3	登録番号(202)
	シーン認識マーク(74)
1 2 1JPEG 2RAW OFF	メモリーカード(55、248)/アップロード(197)
100	撮影可能枚数
3:2 16:9	静止画の画像横縦比(149)
24M 10M 4.6M 20M 8.7M 3.9M 10M 4.6M 2.0M 8.7M 3.9M 1.7M WIDE STD	静止画の画像サイズ(147)
RAW RAW+J X.FINE FINE STD	静止画の画質(149)
60p 60i 24p	動画のフレームレート(166)

表示	意味
FX FH PS 1080 VGA	動画の記録設定(166)
B 1 2 100%	バッテリー容量(57)
	フラッシュ充電表示(123)
	APS-Cサイズ撮影(191)
VIEW	設定効果反映Off (94)
OFF	動画音声記録オフ(170)
	風音低減オン(170)
OFF	手ブレ補正/手ブレ警告(64)
ERROR	GPS測位状況(199)
ERROR	手ブレ補正エラー(235)
	温度上昇警告(13)
FULL ERROR	管理ファイルフル警告(237)/管理ファイルエラー警告(237)
L	AEロック(115)/FELロック(131)
MP4 AVCHD	ビューモード(171)
100-0003	フォルダー番号−ファイル番号(219)
	プロテクト(178)

表示	意味
DPOF	DPOF（プリント）指定（179）
	バッテリー残量警告（57）

2

表示	意味
Hi 10 BRK C 0.3EV BRK S 0.3EV BRK WB Lo BRK DRO Lo	ドライブモード（117）
AUTO REAR WL HSS	フラッシュモード（123）/赤目軽減（42）
AF-A AF-S AF-C AF-D MF DMF	フォーカスモード（96）
	フォーカスエリア（100）
ON OFF	被写体追尾（101）
OFF ON ON OFF ON ON	顔検出（151）/スマイルシャッター（155）
	測光モード（116）
AWB -1 0 +1 +2 WB 7500K A5 G5	ホワイトバランス（オート、プリセット、カスタム、色温度、カラーフィルター）（143）
D-R OFF DRO AUTO HDR AUTO	Dレンジオプティマイザー（135）/オートHDR（136）

表示	意味
Std. Vivid Ntrl Clear Deep Light Port. Land. Sunset Night Autm B/W Sepia +3 +3 +3	クリエイティブスタイル（140）/コントラスト、彩度、シャープネス
Toy Norm Pop Pos Pos Rtro SftH key Part R Part G Part B Part Y HC BW Soft Mid Pntg Mid Rich BW Mini AUTO OFF	ピクチャーエフェクト（138）
AUTO OFF	オートポートレートフレーミング（153）

3

表示	意味
–5··4··3··2··1··0··1··2··3··4··5+	測光インジケーター（87、113、120）
	露出補正（113）/メーターマニュアル（87）
	調光補正（129）
録画 0:12	動画の記録時間（分：秒）
	フォーカス（67、99）
1/250	シャッタースピード（85）
F3.5	絞り値（83）
ISO400 ISO AUTO	ISO感度（133）
	AEロック（115）/FELロック（131）

表示	意味
	GPS情報
35° 37' 32"N 139° 44' 31"W	緯度・経度表示
	オートHDR画像警告（136）
	ピクチャーエフェクトエラー（139）
	ヒストグラム(94)
2012 - 1 - 1 10:37PM	撮影日時
3/7	画像番号/ビューモード内画像枚数

4

表示	意味
	スポット測光サークル（116）
	フォーカスエリア（100）
	アシストエリア(98)
	水準器(93)
	ヒストグラム(94)
	スマートテレコンバーター（157）
	スマートズーム/全画素超解像ズーム/デジタルズーム
	シャッタースピードインジケーター（93）

表示	意味
	絞りインジケーター（93）
	AFレンジコントロール(104)
●追尾フォーカス	追尾フォーカス(101)
	音声レベル(168)

表示パネルの表示

シャッタースピードと絞り、露出補正、調光補正、ISO、ホワイトバランス、ドライブモード、画質は上面の表示パネルを見ながら設定できます。

シャッタースピード（85）/絞り（83）	125 F5.6	露出補正（113）/調光補正（129）	+1.0
ISO（133）	ISO 1600	ホワイトバランス（143）	AWB 0 0
ドライブモード（117）	F 07 3 BRK S	画質（149）	FINE
バッテリー容量（57）		撮影可能枚数（255）*	[1000]

* 9,999枚より多いときでも、表示パネルには「9999」と表示されます。

表示パネルのバックライトをつけるには

上面の表示パネル照明ボタンを押します。
もう一度押すと消えます。

表示パネル照明ボタン

ボタン/ダイヤルで選ぶ機能

下記のボタンを使って、それぞれの機能を設定、または操作できます。各ボタンの配置は「各部のなまえ」をご覧ください(17ページ)。

ボタン(117)	ドライブモードを選ぶ。
WB**ボタン(143)**	ホワイトバランスを設定する。
ボタン(113)	露出を補正する。
ISO**ボタン(133)**	ISO感度を設定する。
モードダイヤル(72)	撮影モードを切り換える。ダイヤルの中央のモードダイヤルロック解除ボタンを押しながら回す。
FINDER/LCD**切り換えボタン(191)**	液晶モニター表示とファインダー表示を切り換える。
表示パネル照明ボタン(28)	表示パネルのバックライトをつける。
MENU**ボタン(38)**	メニュー画面を表示する。
MOVIE**ボタン(46、69)**	動画を撮影する。
AEL**ボタン(115)** / SLOW SYNC**ボタン(126)** / **ボタン(173)**	画面全体の露出を固定する/シャッタースピードを遅くしてフラッシュ撮影する/画像を一覧表示する。
AF/MF**ボタン(111)** / **ボタン(172)**	オートフォーカスとマニュアルフォーカスを一時的に切り換える/再生時に画像を拡大する。
Fn**ボタン(30、34、35)** / **ボタン(174)**	Fnボタンを使って設定する機能の設定画面を表示する。ファインダーモード時は、クイックナビ画面に入る/画像を回転する。
DISP**ボタン(92、176)**	ファインダーと液晶モニターに表示される撮影情報を切り換える。

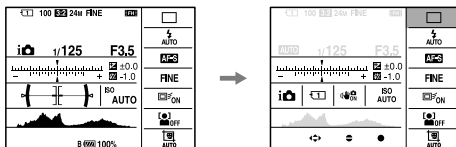
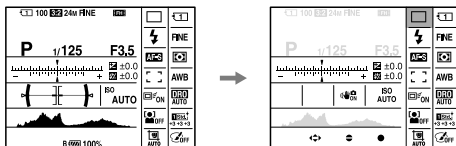
ボタン(157)/ズームボタン(158)/ピント拡大ボタン(109)	画像の中央部分を拡大表示する/解像感を保ったままズームする/撮影前に画像を拡大してピントを合わせる。
ボタン(70)	画像を再生する。
AF RANGEボタン(104)/カメラ内ガイドボタン(53)/ ボタン(71)	オートフォーカスの作動範囲を限定する/カメラ内ガイドを表示する/画像を削除する。
プレビューボタン(84)	背景のぼかし具合いを確認して撮る。
カスタムボタン(45、131、189)	よく使う機能のボタンにする。お買い上げ時はFELロックボタンが割り当てられている。
サイレントマルチコントローラー(32)	操作時の音を出さずに、設定を変更できる。

クイックナビの使いかた

ファインダー撮影用画面のとき、変更したい項目をダイレクトに操作できます(クイックナビ)。

1 DISPボタンを押して、[ファインダー撮影用]画面にする(92ページ)。

2 Fnボタンを押してクイックナビ画面にする。

オートモード/シーンセレクション時

テレコン連続撮影優先AE/P/A/S/M/スイングパノラマ時

3 マルチセレクターの▲/▼/◀/▶で設定したい項目を選ぶ。

4 前ダイヤルまたは後ダイヤルで操作する。

- 前ダイヤルで設定の変更を行い、後ダイヤルで調整を行う。
- 項目を選んでいるときに中央の●を押すと、その項目設定用の専用画面になる。
- もう一度Fnボタンを押すと、クイックナビ画面から元の画面に戻る。

クイックナビで選択可能な機能

オートモード/シーンセレクション/テレコン連続撮影優先AE/記録メディア選択/画質/手ブレ補正（静止画）/ドライブモード/フラッシュモード/フォーカスモード/フォーカスエリア/被写体追尾/顔検出/スマイルシャッター /測光モード/ホワイトバランス/DRO/オートHDR/クリエイティブスタイル/ピクチャーエフェクト/オートポートレートフレーミング/露出補正/調光補正/ISO

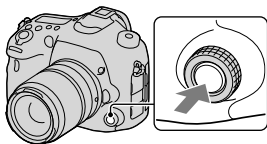
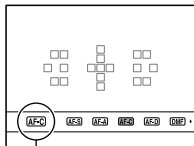
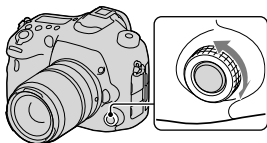
ご注意

- クイックナビ画面でグレーになっている項目は、変更できません。
- クリエイティブスタイル（140ページ）では、専用画面に入らないと操作できない設定もあります。

サイレントマルチコントローラーの使いかた

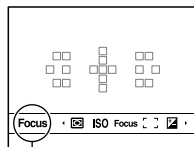
サイレントマルチコントローラーを使って変更したい項目を撮影画面のまま操作できます。ダイヤル操作音に配慮しているため、動画記録中でもダイヤル操作音を抑えて調整できます。
割り当てる機能は、静止画撮影用と動画撮影用を個別に設定できます（33ページ）。

1 ボタンを押して、設定画面にする。

- お買い上げ時は、静止画撮影では［フォーカスモード］、動画撮影では［録音レベル］が割り当てられている。

2 ダイヤルを回して希望の設定にする。

現在の設定

3 ボタンを押して決定する。

他の機能を割り当てるには

ボタンを長押しすると、サイレントマルチコントローラーに割り当てる機能を選ぶ画面になります。
ダイヤルを回して機能を選びます。
MENUボタン → 3 → [サイレントコントローラーの機能]または
MENUボタン → 1 → [サイレントコントローラーの機能]でも選べます。

現在の機能

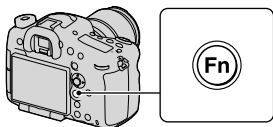
選択可能な機能

静止画：フォーカスモード/フォーカスエリア/フォーカスエリア選択/露出補正/測光モード/ISO感度
動画：録音レベル/フォーカスモード/フォーカスエリア/フォーカスエリア選択/露出補正/測光モード/ISO感度/シャッタースピード/絞り

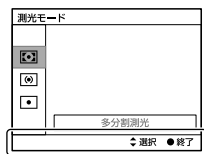
Fn（ファンクション）ボタンで選ぶ

クイックナビ画面以外のとき、撮影時に比較的使用頻度が高い設定、機能を実行します。

1 DISPボタンを押して、[ファインダー撮影用画面]以外にする（92ページ）。

2 Fnボタンを押す。

3 設定したい項目を、マルチセレクターの▲/▼/◀/▶で選択、●（中央ボタン）で決定する。

設定画面が表示される。

4 希望の機能を、操作ガイドにしたがって選択、決定する。

操作ガイド

撮影情報画面のまま設定するには

手順3で、●（中央ボタン）を押さずに前ダイヤルを回すと、撮影情報画面のまま機能を設定できます。一部の機能は、後ダイヤルで微調整値の設定もできます。

Fn（ファンクション）ボタンで選ぶ機能

Fnボタンで設定する機能は以下の通りです。

オートモード（73）	オート撮影の方法を選ぶ。 （おまかせオート/プレミアムおまかせオート）
シーンセレクション（75）	撮影状況に合わせて用意されたモードを選ぶ。 （ポートレート/スポーツ/マクロ/風景/夕景/夜景/手持ち夜景/夜景ポートレート）
動画（164）	撮りたい被写体や効果に合わせて、動画の露出モードを選んで撮影する。 （P/A/S/M）
テレコン連続撮影優先AE（80）	連続撮影の枚数を選ぶ。 （T10/T8）
ドライブモード（117）	連続撮影などの撮影方法を設定する。 （1枚撮影/連続撮影/セルフタイマー /連続ブラケット/1枚ブラケット/ホワイトバランスブラケット/DROブラケット/リモコン）
フラッシュモード（123）	フラッシュ（別売）の発光方式を設定する。 （発光禁止/自動発光/強制発光/後幕シンクロ/ワイヤレス）
フォーカスモード（96）	フォーカスモードを選ぶ。 （シングルAF/AF制御自動切り換え/コンティニュアスAF/デプスマップアシストコンティニュアスAF/DMF/マニュアルフォーカス）

フォーカスエリア（100）	ピント合わせの位置を選ぶ。 （ワイド/ゾーン/中央に固定/ローカル）
被写体追尾（101）	被写体を追尾してピントを合わせ続ける。 （切/入/入（シャッター半押し追尾フォーカス））
顔検出/スマイルシャッター（151、155）	人の顔を自動でとらえ、ピントや露出を最適にする。/笑顔をとらえるたびに、自動撮影する。 （顔検出 切/顔検出 入（登録顔優先）/顔検出 入/スマイルシャッター）
オートポートレートフレーミング（153）	人物撮影時にシーンを分析して、印象の異なる構図で画像を保存する。 （オート/切）
ISO感度（133）	明るさに対する感度を設定する。数値が大きいほど、シャッタースピードをより速くすることができる。 （マルチショットノイズリダクション/ISO AUTO/ISO 50 ～ 25600）
測光モード（116）	明るさを測る方法を選ぶ。 （多分割測光/中央重点平均測光/スポット測光）
調光補正（129）	フラッシュ（別売）の発光量を調整する。 （＋3.0EV ～ 0 ～－3.0EV）
ホワイトバランス（143）	画像の色あいを調整する。 （オートホワイトバランス/太陽光/日陰/曇天/電球/蛍光灯: 温白色/蛍光灯: 白色/蛍光灯: 昼白色/蛍光灯: 昼光色/フラッシュ /色温度・カラーフィルター /カスタム1 ～ 3）

DRO/オートHDR（135）	明るさ、コントラストを自動補正する。（切/Dレンジオプティマイザー /オートHDR）
クリエイティブスタイル（140）	お好みの画像の仕上がりを選ぶ。（スタンダード/ビビッド/ニュートラル/クリア/ディープ/ライト/ポートレート/風景/夕景/夜景/紅葉/白黒/セピア/スタイルボックス1 ～ 6）
ピクチャーエフェクト（138）	好みの効果を選んで、より印象的な表現の画像を撮影できる。（切/トイカメラ/ポップカラー /ポスタリゼーション/レトロフォト/ソフトハイキー /パートカラー /ハイコントラストモノクロ/ソフトフォーカス/絵画調HDR/リッチトーンモノクロ/ミニチュア）

MENU（メニュー）ボタンで選ぶ設定

撮影、再生、操作方法などカメラ全体に関する基本設定を変更したり、機能の実行を行えます。
MENUボタンを押して、マルチセレクターの▲/▼/◀/▶で選び、マルチセレクターの中央を押します。

メニューのページを選ぶ　　メニューの項目を選ぶ

静止画撮影メニュー

1 2 3 4

画像サイズ（147）	静止画のサイズを選択する。 （L/M/S）
横縦比（149）	静止画の横縦比を選択する。 （3：2/16：9）
画質（149）	静止画の画質を設定する。 （RAW/RAW+JPEG/エクストラファイン/ファイン/スタンダード）
パノラマ：画像サイズ（148）	パノラマ画像のサイズを選択する。 （標準/ワイド）
パノラマ：撮影方向（80）	パノラマの撮影方向を設定する。 （右/左/上/下）

1 2 3 4

全画素超解像ズーム（160）	デジタルズームよりも高画質でズームする。 （入/切）

デジタルズーム（160）	全画素超解像ズーム以上の倍率でズームできる。 （入/切）
長秒時ノイズリダクション（161）	シャッタースピードを1秒以上にした場合のノイズ軽減処理を設定する。 （入/切）
高感度ノイズリダクション（161）	高感度撮影した場合のノイズ軽減処理を設定する。 （標準/弱/切）
調光モード（130）	フラッシュ（別売）の発光量を決める方法を設定する。 （ADI調光/P-TTL調光）
AF補助光（106）	暗い場所でピントを合わせるために使う補助光の設定をする。 （オート/切）

1 2 **3** 4

手ブレ補正（64）	静止画の手ブレ補正の設定をする。 （入/切）
AF駆動速度	オートフォーカス時のピント合わせの速度を切り換える。マクロ撮影時に[低速]にするとピントが合いやすくなる。 （高速/低速）
色空間（162）	再現できる色の範囲を変更する。 （sRGB/AdobeRGB）
サイレントコントローラーの機能（33）	静止画撮影時のサイレントマルチコントローラーに割り当てる機能を選ぶ。 （フォーカスモード/フォーカスエリア/フォーカスエリア選択/露出補正/ISO感度/測光モード）

機能一覧

1 2 3 4

露出値ステップ幅	シャッタースピード、絞り値、露出補正値の設定幅を設定する。 （0.5段/0.3段）
フォーカス/レリーズ優先	オートフォーカスのときに、ピントが合っていなくてもシャッターを切れるようにするかどうかの設定をする。 （フォーカス優先/レリーズ優先）
シャッター半押しAF	シャッターボタンを半押ししたときに、オートフォーカスによるピント合わせを行うかどうかを設定する。ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効。 （入/切）
シャッター半押しAEL	シャッターボタンを半押ししたときに、露出決定を行うかどうかを設定する。ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効。 （入/切）
登録（202）	よく使うモードや数値の組み合わせを登録して、モードダイヤルで簡単に呼び出す。 （1/2/3）

動画撮影メニュー

1 2

記録方式（166）	動画の記録方式を選択する。 （AVCHD/MP4）
記録設定（166）	動画の画質、サイズを選択する。 （60i 24M（FX）/60i 17M（FH）/60p 28M（PS）/24p 24M（FX）/24p 17M（FH）/1440×1080 12M/VGA 3M）

手ブレ補正（64）	動画の手ブレ補正の設定をする。 （入/切）
AF追従感度（164）	動画撮影時のオートフォーカスの追従感度を設定する。 （高/中/低）
オートスローシャッター（165）	動画撮影時、被写体が暗いときに自動でシャッタースピードを遅くするかどうかを設定する。 （入/切）
サイレントコントローラーの機能（32、33）	動画撮影時のサイレントマルチコントローラーに割り当てる機能を選ぶ。 （録音レベル/フォーカスモード/フォーカスエリア/フォーカスエリア選択/露出補正/ISO感度/測光モード/シャッタースピード/絞り）

1 2

音声記録（170）	動画撮影時、音声記録を行うかどうかを設定する。 （入/切）
風音低減（170）	動画撮影時、風音を低減する。 （入/切）
録音レベル（168）	録音レベルを調整する。 （0 ～ 31）
音声レベル表示（168）	音声レベルを表示するかどうかを設定する。 （入/切）
音声出力タイミング（169）	撮影時のエコー対策を設定する。 （ライブ/リップシンク）

カスタムメニュー

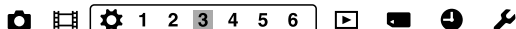
1 2 3 4 5 6

アイスタートAF	ファインダーをのぞくと同時にオートフォーカスするかどうかを設定する。（入/切）
FINDER/LCD切換設定（191）	ファインダーと液晶モニターの切り換え方法を設定する。（オート/マニュアル）
赤目軽減発光	フラッシュ撮影時に目が赤く写るのを抑えるかどうかを設定する。（入/切）
レンズなし時のレリーズ（187）	レンズを取り付けていない状態でシャッターが切れるかどうかを設定する。（許可/禁止）
プレミアムオート連続撮影（74）	「プレミアムおまかせオート」時に連続撮影するかどうかを設定する。（オート/切）
プレミアムオート画像抽出（74）	「プレミアムおまかせオート」時に連続撮影した画像をすべて保存するかどうかを設定する。（オート/切）

1 2 3 4 5 6

グリッドライン（187）	構図合わせのための補助線であるグリッドライン表示の設定をする。（3分割/方眼/対角＋方眼/切）
オートレビュー（187）	撮影したあと、撮った画像を自動的に表示する時間を設定する。（10秒/5秒/2秒/切）

DISPボタン（背面モニター）（92）	DISPボタンを押して液晶モニターに表示する情報の種別を設定する。 （グラフィック表示/全情報表示/情報表示なし/水準器/ヒストグラム/ファインダー撮影用）
DISPボタン（ファインダー）（92）	DISPボタンを押してファインダーに表示する情報の種別を設定する。 （グラフィック表示/全情報表示/情報表示なし/水準器/ヒストグラム）

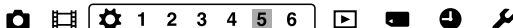
1 2 3 4 5 6

AF RANGEボタンの機能（104）	AF RANGEボタンに割り当てる機能を選択する。 （AFレンジコントロール/カメラ内ガイド）
AFレンジコントロールアシスト	AFレンジコントロール中に被写体が設定距離範囲内かどうかをアシストエリアで画面上に表示する（AF-D対応レンズ装着時のみ）。 （入/切）
ピーキングレベル（109）	ピントが合った部分の輪郭を指定された色で強調表示する設定をする。 （高/中/低/切）
ピーキング色（109）	輪郭を強調表示するピーキング表示の色を設定する。 （レッド/イエロー /ホワイト）
ライブビュー表示（94）	画面の見えかたに、露出補正などの設定値を反映するかどうかを設定する。 （設定効果反映On/設定効果反映Off）

1 2 3 4 5 6

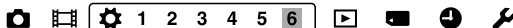
AELボタンの機能 **（188）**	AELボタンにお好みの機能を割り当てる。（露出補正/ドライブモード/フラッシュモード/フォーカスモード/フォーカスエリア/顔検出/スマイルシャッター /オートポートレートフレーミング/ISO感度/測光モード/調光補正/ホワイトバランス/DRO/オートHDR/クリエイティブスタイル/ピクチャーエフェクト/画像サイズ/画質/押す間AEL/再押しAEL/押す間スポットAEL/再押しスポットAEL/押す間FELロック/再押しFELロック/被写体追尾/押す間AF/MFコントロール/再押しAF/MFコントロール/AFロック/AFオン/絞りプレビュー /撮影結果プレビュー /ピント拡大/登録）
ISOボタンの機能 **（188）**	ISOボタンにお好みの機能を割り当てる。（露出補正/ドライブモード/フラッシュモード/フォーカスモード/フォーカスエリア/顔検出/スマイルシャッター /オートポートレートフレーミング/ISO感度/測光モード/調光補正/ホワイトバランス/DRO/オートHDR/クリエイティブスタイル/ピクチャーエフェクト/画像サイズ/画質/押す間AEL/再押しAEL/押す間スポットAEL/再押しスポットAEL/押す間FELロック/再押しFELロック/被写体追尾/押す間AF/MFコントロール/再押しAF/MFコントロール/AFロック/AFオン/絞りプレビュー /撮影結果プレビュー /ピント拡大/登録）

AF/MFボタンの機能（188）	AF/MFボタンにお好みの機能を割り当てる。（露出補正/ドライブモード/フラッシュモード/フォーカスモード/フォーカスエリア/顔検出/スマイルシャッター /オートポートレートフレーミング/ISO感度/測光モード/調光補正/ホワイトバランス/DRO/オートHDR/クリエイティブスタイル/ピクチャーエフェクト/画像サイズ/画質/押す間AEL/再押しAEL/押す間スポットAEL/再押しスポットAEL/押す間FELロック/再押しFELロック/被写体追尾/押す間AF/MFコントロール/再押しAF/MFコントロール/AFロック/AFオン/絞りプレビュー /撮影結果プレビュー /ピント拡大/登録）
カスタムキーの機能（189）	カスタムボタンにお好みの機能を割り当てる。（露出補正/ドライブモード/フラッシュモード/フォーカスモード/フォーカスエリア/顔検出/スマイルシャッター /オートポートレートフレーミング/ISO感度/測光モード/調光補正/ホワイトバランス/DRO/オートHDR/クリエイティブスタイル/ピクチャーエフェクト/画像サイズ/画質/押す間AEL/再押しAEL/押す間スポットAEL/再押しスポットAEL/押す間FELロック/再押しFELロック/被写体追尾/押す間AF/MFコントロール/再押しAF/MFコントロール/AFロック/AFオン/絞りプレビュー /撮影結果プレビュー /ピント拡大/登録）

プレビューボタンの機能（188）	プレビューボタンにお好みの機能を割り当てる。 （露出補正/ドライブモード/フラッシュモード/フォーカスモード/フォーカスエリア/顔検出/スマイルシャッター /オートポートレートフレーミング/ISO感度/測光モード/調光補正/ホワイトバランス/DRO/オートHDR/クリエイティブスタイル/ピクチャーエフェクト/画像サイズ/画質/押す間AEL/再押しAEL/押す間スポットAEL/再押しスポットAEL/押す間FELロック/再押しFELロック/被写体追尾/押す間AF/MFコントロール/再押しAF/MFコントロール/AFロック/AFオン/絞りプレビュー /撮影結果プレビュー /ピント拡大/登録）
スマートテレコンバーターボタン（109、157）	ボタンに割り当てる機能を選択する。 （スマートテレコンバーター /ピント拡大/ズーム）
フォーカスホールドボタンの機能	レンズのフォーカスホールドボタンの機能を設定する。［プレビューボタン］を選んだ場合は、［プレビューボタンの機能］で割り当てられている機能になる。 （フォーカスホールド/プレビューボタン）

1 2 3 4 5 6

MOVIE（動画）ボタン	MOVIEボタンが有効になるモードを設定する。 （常に有効/動画モードのみ有効）

前後ダイヤルの設定	露出モードが「M」のとき、前ダイヤルと後ダイヤルに、シャッタースピードと絞り値のどちらを割り当てるか設定する。 （前ダイヤル：シャッター 後ダイヤル：絞り/前ダイヤル：絞り 後ダイヤル：シャッター）
ダイヤル露出補正（114）	前ダイヤルまたは後ダイヤルで露出補正ができるように設定する。 （切/ 前ダイヤル/ 後ダイヤル）
露出補正の影響	露出補正値をフラッシュの調光に反映するかどうかを設定する。 （定常光＋フラッシュ /定常光のみ）
ブラケット順序	露出ブラケット、ホワイトバランスブラケットの撮影順序を設定する。 （0 → − → +/− → 0 → +）

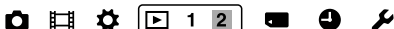
1 2 3 4 5 6

レンズ補正（周辺光量）（192）	レンズに起因する画面周辺が暗くなる現象を補正する。 （オート/切）
レンズ補正（倍率色収差）（192）	レンズに起因する画面周辺部の色のずれを軽減する。 （オート/切）
レンズ補正（歪曲収差）（192）	レンズに起因する画面の歪みを補正する。 （オート/切）
電子先幕シャッター（189）	電子先幕シャッター機能を使用するかどうかを設定する。 （入/切）

顔優先追尾（103）	被写体追尾時に人の顔を優先して追尾するかどうかを設定する。 （入/切）
個人顔登録（152）	優先してピントを合わせる人物の登録・編集を行う。 （新規登録/優先順序変更/削除/全て削除）

再生メニュー

▶ 1 2

静止画/動画 切換（171）	再生する画像のグルーピング方法を設定する。 （フォルダービュー（静止画）/フォルダービュー（MP4）/AVCHDビュー）
削除（182）	画像を削除する。 （画像選択/フォルダー内全て/AVCHDビュー動画全て）
スライドショー（174）	スライドショーをする。 （リピート/間隔設定/画像種別）
一覧表示（173）	一覧表示画面の枚数を設定する。 （4枚/9枚）
プロテクト（178）	画像の保護/解除の設定をする。 （画像選択/静止画全て解除/動画（MP4）全て解除/AVCHDビュー動画全て解除）
プリント指定（179）	プリントする画像の指定と解除をする。 （DPOF指定/日付プリント）

▶ 1 2

再生メディア選択（171）	再生するメモリーカードのスロットを選ぶ。 （スロット1/スロット2）

コピー（181）	メモリーカードの画像をコピーする。
音量設定	動画再生の音量を設定する。 （0 ～ 7）
縦記録画像の再生 （175）	縦記録画像の再生方法を設定する。 （縦向き/横向き）

メモリーカードツールメニュー

1 2

記録メディア選択（56）	記録するメモリーカードのスロットを選ぶ。 （スロット1/スロット2）
記録モード（193）	メモリーカードへの記録方法を選ぶ。 （標準/同時記録（静止画のみ）/同時記録（動画のみ）/同時記録（静止画動画）/振り分け（JPEG/RAW）/振り分け（静止画/動画））
フォーマット（194）	メモリーカードを初期化する。
ファイル番号（195）	静止画とMP4動画のファイル番号の付けかたを設定する。 （連番/リセット）
フォルダー形式（195）	静止画を記録するフォルダーの形式を設定する。 （標準形式/日付形式）
記録フォルダー選択 （196）	静止画とMP4動画を記録するフォルダーを設定する。
フォルダー新規作成 （196）	静止画とMP4動画を記録する新しいフォルダーを作成する。

1 2

管理ファイル修復 （197）	画像の管理ファイル修復を行い、記録・再生できるようにする。

メモリーカード残量表示	現在撮影可能な動画の時間と静止画の枚数を表示する。

時計設定メニュー

1

日時設定（62）	日時を設定する。
エリア設定（62）	使用する場所を設定する。

セットアップメニュー

1 2 3 4

メニュー呼び出し先	メニューの呼び出し先を変更する。リストの先頭、または最後に選んだ項目を呼び出すことができる。 （先頭/前回位置）
削除確認画面	削除の確認画面で、「削除」と「キャンセル」のどちらを選択された状態にするかを設定する。 （「削除」が先/「キャンセル」が先）
モードダイヤルガイド	撮影モードの説明を表示し、他のモードを選ぶこともできる。 （入/切）
モニター明るさ（189）	液晶モニターの明るさを設定する。 （オート/マニュアル/屋外晴天）
ファインダー明るさ（190）	ファインダーの明るさを設定する。 （オート/マニュアル）
ファインダー色温度	ファインダーの色温度を設定する。＋側にすると寒色に、－側にすると暖色になる。 （＋2 ～ 0 ～－2）

1 **2** 3 4

GPS設定（199）	GPS機能についての設定をする。
パワーセーブ（190）	パワーセーブモードにする設定をする。（強/標準）
パワーセーブ開始時間（191）	パワーセーブモードになる時間を設定する。（30分/5分/1分/20秒/10秒）
HDMI解像度（184）	HDMI対応テレビ接続時の解像度を設定する。（オート/1080p/1080i）
HDMI機器制御（186）	ブラビアリンク対応テレビから本機を操作するための設定をする。（入/切）
HDMI情報表示（185）	HDMI対応テレビ接続時、情報表示なしの画像をテレビに表示する。（あり/なし）

1 2 **3** 4

アップロード設定*（197）	Eye-Fiカードを利用した本機のアップロード機能を設定する。（入/切）
USB接続（217）	接続するパソコンやUSB機器に合わせて設定する。（オート/マスストレージ/MTP/PCリモート）
USB LUN 設定（218）	USB接続時、両方のメモリーカードをパソコンに認識させるかどうかを設定する。（マルチ/シングル）

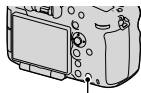
電子音	AF合焦時や、セルフタイマー作動時の電子音の有り無しを設定する。 （入/切）
APS-Cサイズ撮影（191）	APS-Cサイズ相当の範囲を記録するかどうかを設定する。 （入/オート）
AF微調整（107）	レンズごとに、ピント合わせの位置を微調整する。 （AF微調整設定/調整値/調整値クリア）

* メモリーカードスロット1に、Eye-Fiカードが入っているときのみ表示されます。

1 2 3 4

バージョン表示（210）	本機のソフトウェアのバージョンを表示する。
クリーニングモード（239）	イメージセンサーの清掃をするためのクリーニングモードにする。
デモモード	動画のデモンストレーションの入/切を設定する。 （入/切）
設定リセット（203）	設定を初期値に戻す。 （設定値リセット/撮影モードリセット/カスタム設定リセット）

カメラ内ガイドを見る

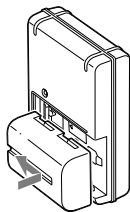
AF RANGEボタンは、画像削除の他にカメラ内ガイド機能も持っています。Fn画面やメニュー画面を表示中にボタンを押すと、選んだ機能、設定に関する説明を表示します。

AF RANGEボタン

MENUボタン → ✿3 → [AF RANGEボタンの機能] → [カメラ内ガイド]を選ぶ。

バッテリー（電池）を充電する

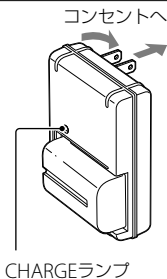
初めてお使いになるときは、"インフォリチウム"バッテリー NP-FM500H（付属）を、必ず充電してください。
"インフォリチウム"バッテリーは、使い切らない状態でも充電できます。また、充電が完了していない状態で使用することもできます。
充電したバッテリーは、使わなくても少しずつ放電しています。撮影機会を逃さないためにも、ご使用前に充電してください。

1 バッテリーをバッテリーチャージャーに入れる。

カチッと音がするまで軽く押す。

2 電源プラグを引き起こし、コンセントに取り付ける。

点灯：充電中
消灯：充電完了

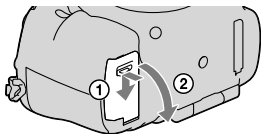
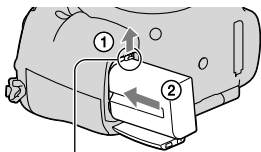
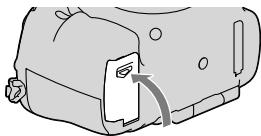
充電時間の目安	約175分

- バッテリーを使い切ってから、温度25℃の環境下で充電した場合。
- 充電が完了すると、CHARGEランプが消える。

ご注意

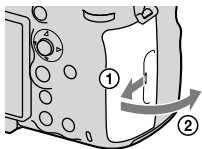
- バッテリーの残量や、充電環境によって、充電時間は異なります。
- 周囲の温度が10℃～30℃の環境で充電してください。これ以外では、効率のよい充電ができないことがあります。
- バッテリーチャージャーを取り付けるときは、お手近なコンセントをお使いください。
- 充電が完了してCHARGEランプが消えても電源からは遮断されません。使用中、不具合が生じたときはすぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。

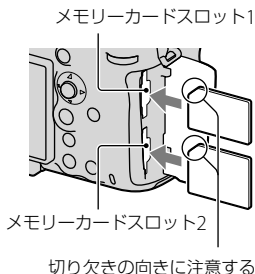
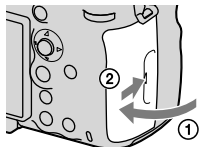
バッテリー/メモリーカード(別売)を入れる

本機には2つのメモリーカード用スロットがあります。
スロット1では、"メモリースティック PRO デュオ"とSDカードのどちらでも使用でき、スロット2ではSDカードのみ使用できます。

1 バッテリーカバーのオープンレバーを押し、カバーを開ける。

2 バッテリーの端でロックレバーを押しながら入れ、バッテリーがロックされるまで押し込む。

3 カバーを閉じる。

4 メモリーカードカバーをスライドして、カバーを開ける。

準備する

5 メモリーカードを入れる。

- 切り欠き部をイラストの向きに合わせ、「カチッ」と音がするまで奥に差し込む。

6 カバーを閉じる。

記録するメモリーカードを選ぶには

お買い上げ時は[スロット1]に設定されています。設定を変えずに1枚だけ使用する場合は、スロット1を使用してください。

MENUボタン → ■1 → [記録メディア選択] → 希望のスロットを選ぶ。

- [記録メディア選択]は、クイックナビ(30ページ)からも設定できる。

同時に2つのメモリーカードに記録するには

同じ画像を同時に2つのメモリーカードに記録したり、静止画/動画の種類によって記録先を変えることもできます(193ページ)。

MENUボタン → ■1 → [記録モード] → 希望の設定を選ぶ。

メモリーカードを取り出すには

アクセスランプ(18ページ)が点灯してないことを確認し、メモリーカードカバーを開けて、メモリーカードを1度押します。

バッテリー残量を確認するには

付属のバッテリーは、本機との間で、使用状況に関するデータを通信する機能を持っているInfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーです。本機の使用状況に応じたバッテリー残量を%単位で表示します。

残量						「電池がなくなりました」
	多				少	撮影できません

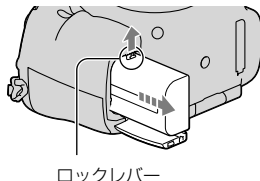
本機に縦位置グリップ(別売)を装着すると、縦位置グリップにバッテリーを2つ入れて使うことができます。本機に入れたバッテリー残量と合わせて3個のバッテリーを自動で切り換えて使用できます。
このとき、本機の画面でも縦位置グリップに入っているバッテリー残量を確認できます。

B：本機のバッテリー残量

1 / **2**：縦位置グリップのバッテリー残量

縦位置グリップについて詳しくは、縦位置グリップの取扱説明書をご覧ください。

本機からバッテリーを取り出すには

電源を切ったあとの振動(アンチダスト機能)の終了と、液晶モニター、アクセスランプの消灯を確認してからバッテリーを引き出します。このとき、バッテリーが落下しないよう、注意してください。

使用できるメモリーカード

本機で使用できるメモリーカードは、以下の通りです。ただし、すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。

対応メモリーカード	静止画	動画	動画(同時記録)	本書での表現
メモリースティック PRO デュオ	○	○*1	×	メモリースティックPROデュオ
メモリースティック PRO-HG デュオ	○	○	○	
SDメモリーカード	○	○*2	○*3	SDカード
SDHCメモリーカード	○	○*2	○*3	
SDXCメモリーカード	○	○*2	○*3	

- マルチメディアカードは使用できません。

*1 Mark2のみ対応

*2 Class4以上で対応

*3 Class10以上もしくはUHS-I (UHSスピードクラス1)規格のみ対応

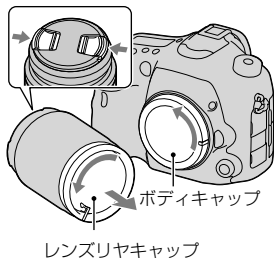
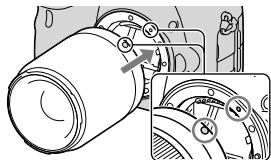
ご注意

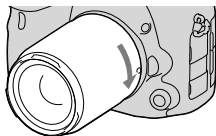
- "メモリースティック PRO デュオ"は、スロット2では使用できません。
- SDXCメモリーカードに記録した映像は、exFATに対応していないパソコンやAV機器などに、本機とUSBケーブルで接続して取り込んだり再生することはできません。接続する機器がexFATに対応しているかを事前にご確認ください。

  対応していない機器に接続した場合、フォーマット(初期化)を促す表示が出る場合がありますが、決して実行しないでください。内容がすべて失われます。(exFATは、SDXCメモリーカードで使用されているファイルシステムです。)

レンズを取り付ける

1 本機のボディキャップとレンズの後ろのレンズリヤキャップをはずす。

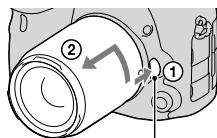
- カメラ内部にゴミやほこりが入らないように、ほこりの少ない場所で素早く行う。
- 撮影するときは、レンズ前面のレンズフロントキャップもはずす。

2 レンズと本機の2つのオレンジ色の点（マウント標点）を合わせてはめ込む。

3 レンズを軽く本機に押し付けながら、「カチッ」と音がするまで矢印の方向にゆっくり回す。

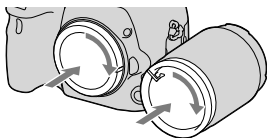
- レンズを斜めに差し込まない。

ご注意

- レンズを取り付けるときは、レンズ取りはずしボタンを押さないでください。
- レンズに無理な力を加えないでください。
- Eマウントレンズには対応していません。
- DTレンズが装着されている、または セットアップメニューの［APS-Cサ

イズ撮影]が[入]のときは、APS-Cの画角でライブビュー画像が液晶モニター全体に表示されます。ファインダーの表示も同様に切り換わり、画面全体で構図、効果確認ができます。
- フルサイズでの撮影は、フルサイズ対応のレンズを使用してください。
- 三脚座を備えたレンズを使用するときは、重量のバランスをとるためにレンズ側の三脚座を三脚に取り付けて使用してください。
- レンズを取り付けてカメラを持ち運ぶときは、カメラとレンズの両方をしっかり持ってください。
- ズームやピント合わせなどで繰り出たレンズ部分を持って、カメラを保持しないでください。

レンズを取りはずすには

1 レンズ取りはずしボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に止まるまで回して取りはずす。

2 本機にボディキャップを、レンズの前後にキャップを取り付ける。

- キャップは、ほこりを落としてから取り付ける。

レンズ交換時のご注意

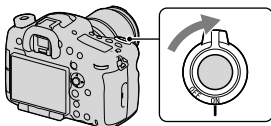
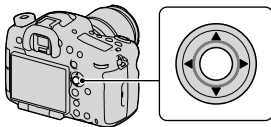
レンズ交換の際に、カメラ内にゴミやほこりが入ってイメージセンサー（光を電気信号に変える部分）表面に付着すると、撮影条件によっては、ゴミやほこりが画像に写り込むことがあります。
本機はアンチダスト機能によりゴミやほこりが付きにくくなっておりますが、レンズの取り付け/取りはずしを行う際には、ほこりの少ない場所で素早く行ってください。

日付と時刻を設定する

初めて電源を入れたときや設定値リセットを行ったあとは、日時設定の画面が表示されます。

1 電源スイッチを「ON」にして、電源を入れる。

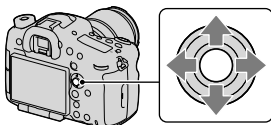
日時設定を要求する画面になる。

- 電源を切るときは、「OFF」にする。

2 液晶モニターの表示で[実行]が選ばれていることを確認し、マルチセレクターの中央を押す。

3 [東京/ソウル]が選ばれていることを確認し、マルチセレクターの中央を押す。

4 ◀/▶で設定する項目を選び、▲/▼で数値を設定する。

[サマータイム：]：日本では、サマータイムは[OFF]にする。

[表示形式：]：日付表示順を選ぶ。

- 真夜中は12:00AM、正午は12:00PMとなる。

5 4の手順を繰り返して、すべて設定し、マルチセレクターの中央を押す。

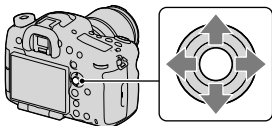
6 [実行]が選ばれていることを確認し、マルチセレクターの中央を押す。

日時設定を中止するには

MENUボタンを押します。

日時やエリアを合わせ直す

日時設定画面は、初めて電源を入れたときのみ自動で開きます。2回目以降はメニューで設定してください。

MENUボタン → ◕ 1 → [日時設定]または[エリア設定]を選ぶ(50ページ)。

設定した日時の保持について

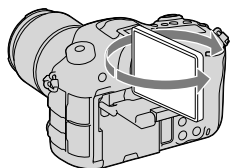
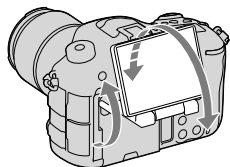
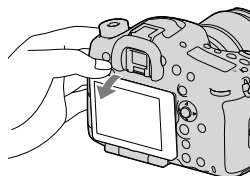
本機は日時や各種の設定を電源の入/切やバッテリーの有無に関係なく保持するために、充電式バックアップ電池を内蔵しています(242ページ)。

液晶モニターの角度を変えて撮る

液晶モニターを見やすい角度に調節する。

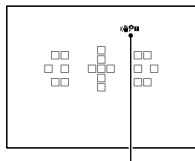
- 右図のように、液晶モニターの左上部に指をかけて、手前に引き出してください。
- 上に140°、手前に180°開きます。
- 引き出した状態で、さらに右に180°、左に90°回ります。
- 使用しないときは、液晶モニターをカメラの内側に向けて収納することをおすすめします。

ご注意

- 液晶モニターを開いている場合は、ローポジションの撮影を考慮してアイセンサーが無効になる場合があります。ファインダーをのぞいても表示が液晶モニターからファインダーに自動で切り換わらないときは、FINDER/LCD切り換えボタンを押してください。

手ブレを抑えてきれいに撮る

「手ブレ」とは、撮影時にカメラが動き、不鮮明な画像になる現象のことです。
手ブレを抑えるには、以下の方法があります。

手ブレ警告表示について

手ブレの恐れがある場合は、(手ブレ警告)表示が点滅します。この場合は、三脚、またはフラッシュを使ってください。

(手ブレ警告)表示

ご注意

- 手ブレ警告表示は、下記の場合は表示されません。
  – 撮影モードが「M」、「S」、動画撮影時
  – 画面表示が[情報表示なし]、[水準器]、[ヒストグラム]のとき(92ページ)

手ブレ補正機能を使う

本機は、本体内に手ブレ補正機能を搭載しており、手ブレを抑制します。機能の入/切は、静止画撮影時、動画撮影時それぞれで設定でき、お買い上げ時は、静止画撮影は[入]、動画撮影では[切]になっています。

MENUボタン → 3または 1 → [手ブレ補正] → 希望の設定を選ぶ。

- 静止画撮影での手ブレ補正は、クイックナビ(30ページ)からも設定できる。

ご注意

- 電源スイッチを「ON」にした直後やカメラを構えた直後、シャッターボタンを半押しせずに一気に押し込んだときは、手ブレ補正の効果が得られにくいことがあります。
- 三脚を使う場合には、手ブレ補正機能が誤動作する恐れがあるため、手ブレ補正機能を[切]にしてください。

正しく構える

上半身を安定させて、カメラが動かないように構える。

ファインダーモード時

ファインダーモード時（縦位置）

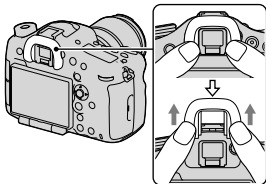
液晶モニターモード時

ポイント①
片手でカメラのグリップを持ち、もう片方の手でレンズの下側を支える。
ポイント②
両足を肩幅に広げて、下半身を安定させる。
ポイント③
脇を軽く締める。
低い姿勢で撮影するときは、膝のうえに、肘などを乗せるなどして、上半身を安定させる。

アイピースカップを取りはずす

アングルファインダー FDA-A1AM（別売）を取り付けるときなどは、アイピースカップを取りはずします。

アイピースカップを取りはずす。

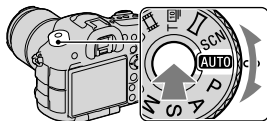
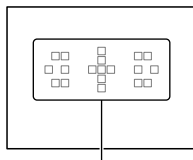
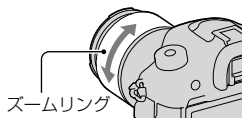
- アイピースカップの下部に指をおき、上方向にスライドさせる。

ご注意

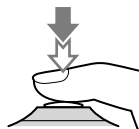
- アングルファインダー FDA-A1AM（別売）を取り付けるときは、✿ カスタムメニューの[FINDER/LCD切換設定]を[マニュアル]にして、FINDER/LCD切り換えボタンを押してファインダーと液晶モニターの表示を切り換えてください。ファインダーの下のアイセンサーが作動することがあるため、[アイスタートAF]を[切]にして使用することをおすすめします。

静止画を撮る

「オートモード」では、本機が適切だと判断した値で設定され、被写体や環境を選ばずに、手軽に撮影できます。

1 モードダイヤルを AUTO（オートモード）にする。

- ダイヤル中央のモードダイヤルロック解除ボタンを押しながら、モードダイヤルを回す。

2 ファインダーをのぞいて、本機を構える。

3 ズームレンズの場合は、ズームリングを回して、被写体の大きさを決める。

4 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる。

ピントが合うと、●または(●)（フォーカス表示）が点灯する（99ページ）。

5 シャッターボタンを深く押し込んで、撮影する。

動画を撮る

MOVIE（動画）ボタン

1 MOVIE（動画）ボタンを押して、撮影を開始する。

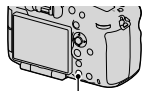
- すべての撮影モードから動画撮影を開始できる。
- オートフォーカスの場合は、[コンティニュアスAF]でピントを合わせ続ける（96ページ）。
- シャッタースピードと絞りは自動で設定される。希望の値に設定したいときは、モードダイヤルを 🎞（動画）にしてから設定する（164ページ）。

2 もう一度MOVIE（動画）ボタンを押して、撮影を終了する。

ご注意

- 動画撮影中はレンズやカメラの作動音などが記録されてしまうことがあります。サイレントマルチコントローラーを使うと、ダイヤルの操作音を抑えて調整ができます（33ページ）。[音声記録]を[切]にすると、音声が記録されないようにできます（170ページ）。
- 1回の連続撮影時間は環境温度や本機の使用状態により、撮影可能時間が短くなる場合があります。「動画の連続撮影についてのご注意」（258ページ）を確認してください。
- [!] が表示された場合は、本機の温度が上がっています。本機の電源を切り、温度が下がるのを待ってから撮影してください。

再生する

1 ▶ボタンを押す。

▶ボタン

2 マルチセレクターの◀/▶で画像を選ぶ。

- 動画を再生する場合はマルチセレクターの中央を押す。

動画再生中にできること	マルチセレクター、後ダイヤル操作、DISPボタン
一時停止/再生	●
早送り	▶
早戻し	◀
正方向スロー再生	一時停止中に後ダイヤルを右に回す
逆方向スロー再生	一時停止中に後ダイヤルを左に回す • コマ送りになる。
音量	▼ → ▲/▼
情報表示	DISP（表示切り換え）ボタン

ご注意

- 本機以外で撮影された動画ファイルは再生できない場合があります。

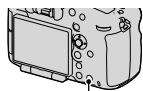
静止画と動画を切り換える

静止画を再生するには、[静止画/動画切換]を[フォルダービュー（静止画）]に、動画を再生するには、[フォルダービュー（MP4）]または[AVCHDビュー]にする必要があります。

MENUボタン → ▶ 1 → [静止画/動画切換] → 希望のモードを選ぶ。

削除する

一度削除した画像は、元に戻せません。削除してよいか、事前に確認してください。

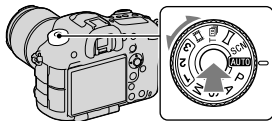
1 削除したい画像を表示して、🗑 ボタンを押す。

🗑 ボタン

2 マルチセレクターの▲で[削除]を選び、中央を押す。

ご注意

- プロテクトされている画像は削除できません。

撮影モードを変える

ダイヤル中央のモードダイヤルロック解除ボタンを押しながら、モードダイヤルを回す。

本機には、以下の撮影モードがあります。

AUTO（オートモード）（73）	本機が適切だと判断した値で設定され、被写体や環境を選ばずに、手軽に撮影できる。
P（プログラムオート）（82）	露出（シャッタースピードと絞り）は本機が自動設定するが、その他の設定は自分で調整できる。
A（絞り優先）（83）	絞りを前/後ダイヤルで手動設定する。
S（シャッタースピード優先）（85）	シャッタースピードを前/後ダイヤルで手動設定する。
M（マニュアル露出）（86）	露出（シャッタースピードと絞り）を前/後ダイヤルで手動設定する。
1/2/3（202）	静止画撮影メニューの［登録］であらかじめ登録した設定を選んで呼び出す。
SCN（シーンセレクション）（75）	撮りたい被写体や環境に合ったモードを選ぶと、被写体に適した設定で撮影できる。
（スイングパノラマ）（78）	画像を合成してパノラマ画像を撮影できる。
（テレコン連続撮影優先AE）（80）	シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影する。毎秒最高約10枚、または8枚の速度で連続して撮影する。
（動画）（69、163）	露出（シャッタースピードと絞り）を手動設定して動画を撮影する。

• 選んだ撮影モードの中の機能を変えたいときは、Fnボタンを押して変えることができる(30、34ページ)。

モードダイヤルを回したときに希望のモードを選べるようにする

モードダイヤルを回したときに撮影モードの説明を表示して、その撮影モード内の項目を変えることもできます。

1 MENUボタン → 🔧1 → [モードダイヤルガイド] → [入]を選ぶ。

2 モードダイヤルで希望の撮影モードを選ぶ。

選んだ撮影モードのガイドが表示される。

3 マルチセレクターの中央を押す。

4 マルチセレクターの▲/▼で希望のモードを選ぶ。

AUTO オートモード

1 モードダイヤルを AUTO (オートモード)にする(72ページ)。

• 他のモードにしたいときは、Fnボタンを押して選び直す。

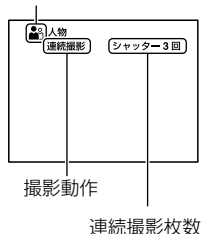
2 被写体にカメラを向け、ピントを合わせて撮影する。

i📷 (おまかせオート)	本機が適切だと判断した値で撮影する。
i📷+ (プレミアムおまかせオート)	本機が撮影状況を認識して、自動的に設定を行う。必要に応じて連続撮影し、合成や抽出によって最適な画像を保存する。

シーン認識

カメラがシーンを認識すると、シーン認識マークと連続撮影枚数が表示される。[プレミアムおまかせオート]時は、認識したシーンに最適な撮影動作も表示される。

認識シーン：（夜景）、（手持ち夜景）、（風景）、（逆光＆人物）、（人物）、（三脚夜景）、（逆光）、（マクロ）、（夜景＆人物）、（スポットライト）、（低照度）、（赤ちゃん）

撮影動作：連続撮影、スローシンクロ、オートHDR、日中シンクロ、スローシャッター、手持ち夜景

プレミアムおまかせオート時に連続撮影を設定するには

MENUボタン → 1 → [プレミアムオート連続撮影] → 希望の設定を選ぶ。

プレミアムおまかせオート時に連続撮影した画像の保存方法を設定するには

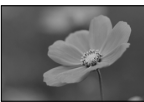
連続撮影した場合に、本機が判断した最適な画像を保存するか、すべての画像を保存するか設定できます。

MENUボタン → 1 → [プレミアムオート画像抽出] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 認識シーンで[手持ち夜景]が選択された場合は、[プレミアムオート画像抽出]を[切]にしても、保存される画像は合成された1枚になります。
- [画質]が[RAW]、[RAW+JPEG]のときは撮影動作が制限されます。

SCN シーンセレクション

こんなときに適しています

●撮影状況に合わせて用意された設定で撮る。

1 モードダイヤルを SCN（シーンセレクション）にする（72ページ）。

- 他のシーンにしたいときは、Fnボタンを押して選び直す。

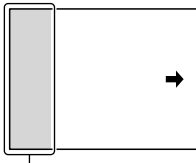
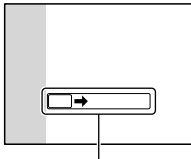
2 ピントを合わせて撮影する。

（ポートレート）	背景をぼかして、人物を際立たせる。肌をやわらかに再現する。 • 背景をよりぼかすには、レンズを望遠側にする。 • レンズに近い方の目にピントを合わせると、いきいきした印象になる。 • 逆光のときは、レンズフードをつけて撮る。 • フラッシュで目が赤くなってしまうときは、赤目軽減機能（42ページ）を使う。
（スポーツ）	高速なシャッタースピードで動く物が止まったように撮れる。シャッターボタンを押し続けると連続撮影する。 • シャッターボタンを半押ししたままシャッターチャンスを待つ。

（マクロ）	花や料理などに近づいて撮るときに適している。 • マクロレンズ（別売）を使えば、より近づいて撮影できる。 • 1 m以内で撮る場合は、フラッシュモードを発光禁止にする。 • 近距離撮影では、手ブレ補正の効果を得にくい。補正の効果が得られないときは三脚を使用する。 • ピントが合う最短距離は変わらない。
（風景）	風景を手前から奥までくっきりと鮮やかな色で撮る。 • 風景の広大さをより強調するには、レンズを広角側にする。
（夕景）	夕焼けや朝焼けなどの赤を美しく撮る。
（夜景）	暗い雰囲気を損なわずに、夜景を撮る。 • シャッタースピードが遅くなるので、三脚を使う。 • 明かりの少ない全体的に暗い夜景のときは、写真がうまく仕上がらないことがある。

(手持ち夜景)	三脚を使わずにノイズが少ない夜景を撮る。連写を行い、画像を合成して被写体ブレや手ブレ、ノイズを軽減して記録する。 • 以下の場合はノイズを軽減する効果が弱くなる。 – 動きの大きな被写体 – 主要被写体とカメラの距離が近すぎる – 空、砂浜、芝生など、似たような模様が続く被写体 – 波や滝など、常に模様が変化する被写体 • 蛍光灯など、ちらつきのある光源がある場合、ブロック状のノイズが発生することがある。
(夜景ポートレート)	夜景を背景に手前の人物を撮る。フラッシュを取り付けて使う。 • シャッタースピードが遅くなるので、三脚を使う。

撮影のテクニック

• より画像の仕上がりにこだわって撮影したい場合は、モードダイヤルを「P」、「A」、「S」、「M」にしてクリエイティブスタイル(140ページ)を使用すると、露出やISOなどの機能を自分で設定して撮影できる。

ご注意

• 露出やISOなど、多くの機能がカメラまかせになり設定変更できなくなります。
• フラッシュは各シーンセレクションモードごとに自動発光/発光禁止が設定されています。この設定を変更することもできます(123、128ページ)。

▭スイングパノラマ

こんなときに適しています

●広大な景色や高層の建築物をそのままの迫力で撮る。

1 モードダイヤルを ▭（スイングパノラマ）にする。

2 明るさ、ピントを合わせたい被写体にカメラを向け、シャッターボタンを半押しする。

3 シャッターを半押しした状態で、構図の端にカメラを向ける。

撮影されない部分

4 シャッターボタンを深く押し込む。

5 画面に表示されている矢印の方向に、カメラをガイドの終わりまで動かす。

ガイド

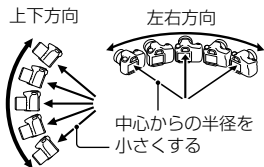
ご注意

- 一定時間内にパノラマ撮影画角に満たなかった場合、足りない部分はグレーで記録されます。この場合はカメラを速く動かすと最後まで記録されます。

- 複数の画像を合成するため、つなぎ目がなめらかに記録できない場合があります。カメラを前後や左右に傾けないで、まっすぐに動かして撮影してください。
- 暗いシーンでは画像がブレたり、撮影ができない場合があります。
- 蛍光灯など、ちらつきのある光源がある場合、合成された画像の明るさや色合いが一定ではなくなります。
- パノラマ撮影される画角全体と、AE/AFロックしたときの画角とで、明るさや色合い、ピント位置などが極端に異なる場合、うまく撮影できないことがあります。このようなときは、AE/AFロックする場所を変えて撮影してください。
- 以下の場合はパノラマ撮影に適していません。
  – 動いている被写体
  – 主要被写体とカメラの距離が近すぎる
  – 空、砂浜、芝生など、似たような模様が続く被写体
  – 波や滝など、常に模様が変化する被写体
  – 太陽や電灯など、周囲との明るさの差が大きい被写体
- 以下の場合はパノラマ撮影が中断されることがあります。
  – カメラを動かす速度が速すぎる、または遅すぎる場合
  – ブレすぎた場合
- パノラマ撮影中は連続撮影となり、シャッター音が撮影終了まで鳴り続けます。
- [オートポートレートフレーミング]、本体側のズームは使用できません。

スイングパノラマ撮影のポイント

一定の速度で円を描くように画面の矢印方向に動かしてください。パノラマ撮影は、止まっている被写体の撮影に適しています。

- パノラマ撮影には、広角レンズのご使用をおすすめします。
- 焦点距離が長いレンズを使用する場合は、広角レンズ使用時よりもゆっくりと動かしてください。
- シャッターボタンを半押しして、ピントや露出、ホワイトバランスをロックしてから、カメラを動かしてください。
- 複雑な形状や景色が画面の端に偏っていると、うまく合成できないことがあります。その場合は、それらが画面の中央になるように構図を調整して撮影してください。

画像サイズを変更するには

画像サイズは、MENUボタン → 📷1 → [パノラマ：画像サイズ]で希望の設定を選べます。

撮影方向を変更するには

カメラを動かす方向を設定します。

MENUボタン → 📷1 → [パノラマ：撮影方向] → 希望の設定を選ぶ。

パノラマ画像を見るには（スクロール再生）

パノラマ画像を選び、マルチセレクターの中央を押す。

• もう一度中央を押すと一時停止する。一時停止中に▲/▼/◀/▶を押して手動でスクロール再生できる。

T⑩ テレコン連続撮影優先AE

画像中央部の限られた範囲を撮影することで、高速の連続撮影ができます。

こんなときに適しています

●動きの速い被写体を連続して撮り、瞬間をおさめる。

●刻々と変わる子供の表情を連続して撮り、お気に入りの画像を選ぶ。

1 モードダイヤルを T⑩（テレコン連続撮影優先AE）にする（72ページ）。

• 他のモードにしたいときは、Fnボタンを押して選び直す。

2 ピントを合わせて撮影する。

• シャッターボタンを深く押し込んでいる間、撮影が続く。

T⑩ (テレコン連続撮影優先AE)	フルサイズ撮影では約2.3倍、APS-Cサイズ撮影では約1.5倍にズームして、毎秒最高約10枚で連写できる。
T⑧(テレコン連続撮影優先AE)	フルサイズ撮影では約1.5倍にズームして、毎秒最高約8枚で連写できる。APS-Cサイズ撮影ではそのままの画角で連写できる。

撮影のテクニック

- [フォーカスモード]を[シングルAF]以外にすると、絞り値はF3.5(開放絞り値がF3.5以上のレンズの場合は開放絞り値)に固定されるが、ISOは希望の設定にできる。また撮影している間フォーカスと露出を合わせ続ける。
- マニュアルフォーカスモード、またはオートフォーカスモードの[シングルAF]のときは、ISO感度と絞り値を設定できる。[シングルAF]のときのフォーカスは1枚目で固定される。

ご注意

- 倍率が約2.3倍のときは、画像サイズはSサイズになり、倍率が約1.5倍のときは画像サイズはMまたはSサイズのみ設定できます。
- ISO感度や絞り値の設定によっては、シャッタースピードが遅くなるため、連続撮影の速度が遅くなる場合があります。
- 顔検出は行いません。
- [オートHDR]に設定しているときは、一時的にDROの設定に従った処理が行われます。
- T⑩ 設定のときは、[画質]の[RAW]、[RAW+JPEG]は選択できません。

P プログラムオート

こんなときに適しています

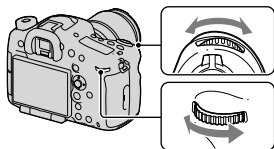
●露出はカメラにまかせ、ISO感度、クリエイティブスタイル、Dレンジオプティマイザーなど、好みの設定に変更したい。

1 モードダイヤルを「P」にする。

2 撮影機能を希望の設定にする（96 ～ 162ページ）。

3 ピントを合わせて撮影する。

プログラムシフト

カメラが設定した適性露出のまま、シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変更できます。
ピントを合わせた状態で前/後ダイヤルを回し、絞り値とシャッタースピードの組み合わせを選んでください。
撮影モード表示は、「P*」になります。

A 絞り優先

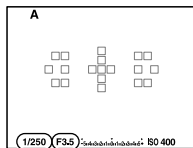
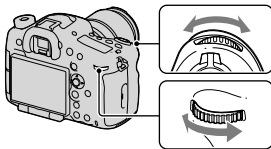
こんなときに適しています

●被写体だけをくっきりとさせて、前後をぼかしたい。絞りを開けるほど、ピントの合う範囲が狭くなる（被写界深度が浅くなる）。

●風景の奥行きを表したい。絞り込むほど、ピントの合う範囲が前後に広がる（被写界深度が深くなる）。

1 モードダイヤルを「A」にする。

2 前/後ダイヤルで、絞り値（F値）を選ぶ。

- 絞り値を小さくする：被写体の前後がぼける。
  絞り値を大きくする：被写体の前後までくっきりとピントが合う。
- 液晶モニター /ファインダーの画像は変化しない。撮影した画像を確認して、絞り値を調整する。
- 設定した絞り値で適正露出にならないと本機が判断した場合は、シャッタースピードが点滅する。この場合は、絞り値を変更する。

3 ピントを合わせて撮影する。

適正露出になるように、シャッタースピードは自動で設定される。

撮影のテクニック

- 設定した絞り値によっては、シャッタースピードが遅くなる場合がある。シャッタースピードが遅いときは、三脚を使用する。
- 背景をよりぼかしたいときは、望遠レンズや、開放絞り値の小さいレンズ（明るいレンズ）を使う。
- プレビューボタンを押すと撮影前にぼかし具合を確認できる。

背景のぼかし具合いを確認して撮るには（プレビューボタン）

プレビューボタン

液晶モニター /ファインダーには、絞りが一番開いた状態の画像が見えています。絞りが異なると被写体のぼけ具合も変わるため、実際に撮影した写真のぼけ具合は撮影前に見ていた画像とは異なります。
プレビューボタンを押している間、設定した絞り値まで絞り込まれ、撮影前にぼけ具合を確認できます。

- ピントを合わせたあと、プレビューボタンを押す。
- プレビュー中に絞りを変更できる。

プレビューにはDROの効果やシャッタースピードの値も反映される[撮影結果プレビュー]と、絞りの値だけが反映される[絞りプレビュー]（お買い上げ時）の2種類があります。
MENUボタン → ✿ 4 → [プレビューボタンの機能]で希望の設定を選ぶ。
（[AELボタンの機能] / [ISOボタンの機能] / [AF/MFボタンの機能] / [カスタムキーの機能]でも選べます。）

ご注意

- 設定したシャッタースピードによって、プレビューされた画像が暗くなる場合がありますが、撮影結果は設定どおりの明るさで撮影できます。

S シャッタースピード優先

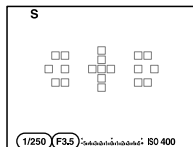
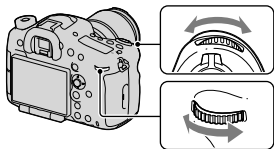
こんなときに適しています

●一瞬を静止させたように撮りたい。シャッタースピードが速いほど、一瞬の動きを捉える。

●動きの軌跡を写し、躍動感や流動感を表現したい。シャッター速度が遅いほど、軌跡が写せる。

1 モードダイヤルを「S」にする。

2 前/後ダイヤルでシャッタースピードを選ぶ。

- 設定したシャッタースピードで適正露出にならないと本機が判断した場合は、絞り値が点滅する。この場合は、シャッタースピードを変更する。

3 ピントを合わせて撮影する。

適正露出になるように、絞り値が自動的に設定される。

撮影のテクニック

- シャッタースピードを遅くして撮るときは、三脚を使う。
- 室内スポーツを撮影するときは、ISO感度を高くする。

ご注意

- シャッタースピード優先モードでは、(手ブレ警告)は表示されません。
- ISO感度は高くするほど、ノイズは増えます。
- シャッタースピードを、1秒または1秒より遅くして撮影(長時間露光)すると、シャッターを開けていた時間と同時間のノイズ軽減処理をします。処理中は撮影できません。

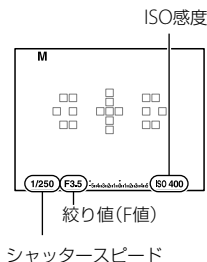
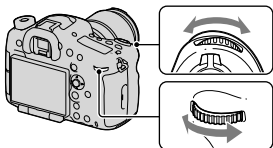
M マニュアル露出

こんなときに適しています

●絞り値とシャッタースピードの両方を調節して、自分の好みの露出で撮る。

1 モードダイヤルを「M」にする。

2 シャッタースピードを調整するときは前ダイヤルを回し、絞り値を選ぶときは後ダイヤルを回す。

- マニュアルモードでもISOを[AUTO]に設定できる。ISOを[AUTO]に設定したときには、設定した絞り値とシャッタースピードで適正露出になるようにISO感度が変化する。
- ISOが[AUTO]のとき、設定した値で適正露出にならないと本機が判断した場合は、ISO感度が点滅する。この場合はシャッタースピードまたは絞り値を変更する。

3 露出を合わせて撮影する。

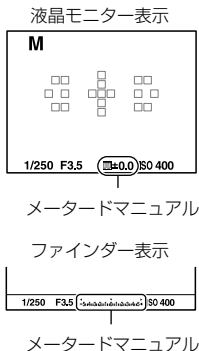
- ISO感度を[AUTO]以外にしたときは、メータードマニュアル*で露出値を確認する。
  +側：明るく写る
  −側：暗めに写る

* Mモード設定時、適正露光に対するアンダー /オーバーを示します。液晶モニターでは数値で、ファインダーでは測光インジケーターに表示される。

メータードマニュアル

ファインダー表示

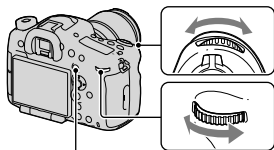
1/250 F3.5 ISO 400

メータードマニュアル

ご注意

- マニュアルモードでは、(手ブレ警告)は表示されません。

マニュアルシフト

設定した露出のまま、シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変更できます。

AELボタンを押しながら前/後ダイヤルを回し、絞り値とシャッタースピードの組み合わせを選んでください。

M バルブ撮影

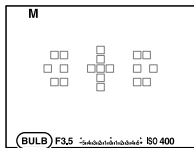
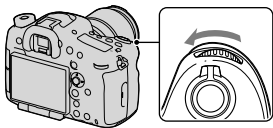
こんなときに適しています

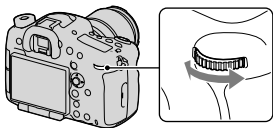
●花火の光が尾を引くような画像を撮る。

●星の軌跡を撮る。

1 モードダイヤルを「M」にする。

2 前ダイヤルを[BULB]が出るまで左に回す。

- ISOが[AUTO]のときは、[BULB]に設定するとISO100になる。

BULB

3 後ダイヤルで絞り値(F値)を選ぶ。

4 シャッターボタン半押しでピントを合わせる。

5 必要な時間、シャッターボタンを押し続けて撮影する。

シャッターボタンを押し続けている間、シャッターが開いたままになる。

撮影のテクニック

- 三脚に取り付けて撮影する。
- 打ち上げ花火などのときは、マニュアルフォーカスにしてピントを無限遠にする。無限位置が分からないレンズの場合は、同じような場所に上がる花火であらかじめピントを決めて撮影する。
- ワイヤレスリモコン(別売)を使う(121ページ)。リモコンのSHUTTERボタンを押すとバルブ撮影が始まり、もう一度押すと終了する。リモコンのSHUTTERボタンを押し続ける必要はない。

- シャッターボタンのロック機能を持つリモートコマンダー（別売）を使用すると、リモートコマンダーでシャッターを開けたままにできる。

ご注意

- 三脚を使う場合は、手ブレ補正機能を切にしてください(64ページ)。
- 露光時間が長いほど、画面内のノイズは目立ちやすくなります。
- 撮影後はシャッターが開いていた時間分だけ、ノイズ軽減処理(長秒時ノイズリダクション)が行われます。処理中は撮影できません。画質よりも撮影タイミングを優先する場合は、[長秒時ノイズリダクション]を[切]にしてください(161ページ)。
- スマイルシャッターまたはオートHDR、[ピクチャーエフェクト]の[絵画調HDR]、[リッチトーンモノクロ]を使用しているときは、シャッタースピードを[BULB]に設定できません。
- シャッタースピードを[BULB]に設定しているときに、[ピクチャーエフェクト]の[絵画調HDR]、[リッチトーンモノクロ]や、スマイルシャッター、オートHDRを使用すると、シャッタースピードは一時的に30秒になります。
- 画質を低下させずにバルブ撮影を行うためには、本機の温度が下がった状態で撮影を開始することをおすすめします。

撮影モードごとの設定可能機能

選んでいる撮影モードによって、設定できない機能があります。
○は選択可能、×は選択不可能を表しています。
設定できない機能はグレーで表示されます。

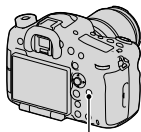
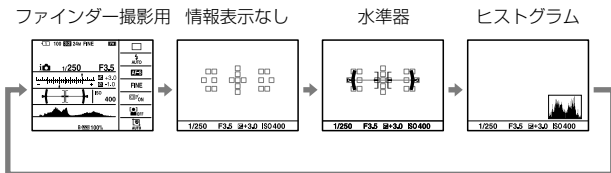
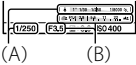
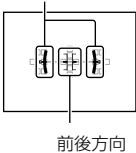
撮影モード		露出補正（113）	セルフタイマー（118）	連続撮影（118）	顔検出（151）	スマイルシャッター（155）	オートポートレートフレーミング（153）
i / i+(73)		×	○	○	○	○	○
SCN（75）		×	○	×	○	○	○
		×	○	○	○	○	×
		×	○	×	○	○	○
		×	○	×	○	○	○
		×	○	×	○	○	○
		×	○	×	○	○	○
		×	×	×	○	×	×
		×	○	×	○	○	○
(78)		○	×	×	×	×	×
T10 / T8(80)		○	×	×	×	×	×
P（82）		○	○	○	○	○	○
A（83）		○	○	○	○	○	○
S（85）		○	○	○	○	○	○
M（86）		×*	○	○	○	○	○
(69、163)		○*	○	○	○	×	×

* 撮影モード「M」のときは、ISOが［AUTO］のときのみ露出補正が可能です。

画面の表示を変える（DISP）

撮影情報画面の表示は、お買い上げ時はDISPボタンを押すたびに下記のように切り換わります。

DISPボタン

ファインダー撮影用　情報表示なし　水準器　ヒストグラム

- 全情報を表示したり、シャッタースピードと絞り値をグラフィカルに表現したグラフィック表示にすることもできます。

使用する画面表示を選ぶ

使用する画面表示を選ぶことができます。DISPボタンを押して画面を切り換えると、選択した画面のみが表示されます。液晶モニターとファインダーは別に設定できます。

1 MENUボタン → ✿2 → [DISPボタン（背面モニター）]または[DISPボタン（ファインダー）]を選ぶ。

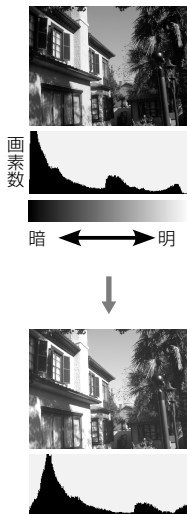
2 マルチセレクターの▲/▼/◀/▶で希望の画面を選んで、中央を押す。

3 MENUボタンを押す。

グラフィック表示	シャッタースピードと絞り値をグラフィカルに表現し、露出の仕組みを分かりやすくイメージ化して表現する。 シャッタースピードインジケーター（A）/絞りインジケーター（B）のバーが現在の値を指す。 1/250 F3.5 ISO400 （A）（B）
全情報表示	撮影画面にすべての情報を表示する。
情報表示なし	撮影画面に情報を表示しない。
水準器	カメラの前後左右の傾きを指標で示す。水平、平衡状態のときは、表示が緑色になる。 • 本機を前または後に大きく傾けると、水準器の誤差が大きくなる。 • 傾きがほぼ補正された状態でも±1°程度の誤差が生じることがある。 水平方向 前後方向
ヒストグラム	ヒストグラムを表示する（94ページ）。
ファインダー撮影用*	ファインダーをのぞいて撮影するスタイルに適した表示になる（24ページ）。

* ［DISPボタン（背面モニター）］時のみ選択可能。

ヒストグラム

ヒストグラムとは輝度分布のことで、どの明るさの画素がどれだけ存在するかを表します。
露出補正をかけると、ヒストグラムもそれに応じて変化します。
ヒストグラムの左右両端のデータは、白とび/黒つぶれした部分があることを表しています。このような部分は、撮影後、画像をパソコンで補正しても再現することはできません。必要に応じて露出補正をしてから撮影してください。

ご注意

- ヒストグラムは、撮影結果ではなく、画面で見ている画像のヒストグラムになります。絞り値などにより結果が異なります。
- 撮影時と再生時のヒストグラムは、下記のとき大きく異なります。
  - フラッシュ発光したとき
  - 夜景などの低輝度な被写体のとき

撮影情報画面を見たままの表示にする

露出補正、ホワイトバランス、クリエイティブスタイル、ピクチャーエフェクトの設定値を反映させず、見たままの画面表示にします。

MENUボタン → ✿ 3 → [ライブビュー表示] → [設定効果反映Off] を選ぶ。

- ［設定効果反映Off］を選択した場合は、「M」モードのライブビュー画像も常に適正な明るさで表示されます。

ご注意

- 撮影モード「オートモード」、「スイングパノラマ」、「動画」、シーンセレクション時は［設定効果反映Off］に設定できません。

ピントを合わせる

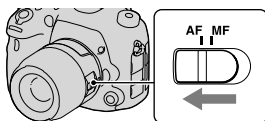
ピント合わせには、オートフォーカスを使う方法と手動で合わせる方法（マニュアルフォーカス）があります。
レンズによって、オートフォーカスとマニュアルフォーカスの切り換え方法が異なります。

レンズの種類	**切り換える場所**	**オートフォーカスにするには**	**マニュアルフォーカスにするには**
フォーカスモードスイッチあり	レンズ	レンズのフォーカスモードスイッチを「AF」にする。 （カメラの[フォーカスモード]を[マニュアルフォーカス]以外にする。）	レンズのフォーカスモードスイッチを「MF」にする。*
フォーカスモードスイッチなし	カメラ	カメラの[フォーカスモード]を[マニュアルフォーカス]以外にする。	カメラの[フォーカスモード]を[マニュアルフォーカス]にする。

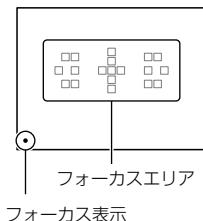
* SSMレンズとDMF対応のSAMレンズではレンズのフォーカスモードスイッチが「AF」のままでも、本体側からすべてのフォーカスモードを切り換えることができます。

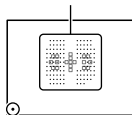
[デプスマップアシスト コンティニュアスAF]とAFレンジコントロールのアシストエリア表示対応レンズについては、専用サポートサイトでご確認ください。
http://www.sony.co.jp/DSLR/support/

オートフォーカス

1 レンズにフォーカスモードスイッチが付いている場合は、「AF」にする。

2 Fnボタン → AF-S（フォーカスモード） → DMF（DMF）、MF（マニュアルフォーカス）以外の設定を選ぶ。

3 シャッターボタンを半押しして、ピントの状態を確認して撮影する。

- ピントが合うと、フォーカス表示が●または(◉)になる（99ページ）。
- ピントが合ったフォーカスエリアが緑色になる。

AF-S（シングルAF）	シャッターボタンを半押ししてピントが合うと、ピントはそこで固定される。
AF-A（AF制御自動切り換え）	被写体の動きに応じて、シングルAFとコンティニュアスAFが切り換わる。 シャッターボタンを半押しすると、被写体が静止しているときはピント位置を固定し、被写体が動いているときはピントを合わせ続ける。
AF-C（コンティニュアスAF）	シャッターボタンを半押ししている間中、ピントを合わせ続ける。 • ピントが合ったときの電子音は鳴らない。 • フォーカスロックはできない。

AF-D（デプスマップアシストコンティニュアスAF）	[コンティニュアスAF]の機能に加え、アシストエリアを使ってピントを合わせ続ける。 対応レンズを装着しているときだけ選択可能。 • 19点のフォーカスエリアで合焦後、アシスト動作する。アシストエリア単独では動作しない。

撮影のテクニック

- 動きのない被写体では、[シングルAF]を使う。
- 動いている被写体にピントを合わせるときは、[コンティニュアスAF]または[デプスマップアシスト コンティニュアスAF]を使う。
- 19点のフォーカスエリア間を移動しながら上下左右に動く被写体にピントを合わせるときは、[デプスマップアシストコンティニュアスAF]を使う。
- ピント合わせに使うフォーカスエリアを選びたいときは、[フォーカスエリア]で設定する（100ページ）。
- ピント合わせの速度を変えるには[AF駆動速度]で設定する（39ページ）。

ご注意

- オートフォーカス作動中は、レンズによってはフォーカスリングが回転しますので触れないでください。
- 下記の場合は、[デプスマップアシストコンティニュアスAF]のアシストエリアが動作しにくいことがあります。
  - 光量が不足しているとき
  - ドライブモードが[連続撮影]のHiまたはブラケットのとき
  - 撮影モード「テレコン連続撮影優先AE」またはシーンセレクションの[スポーツ]のとき

フォーカス表示の意味

フォーカス表示	状況
●点灯	ピントが合って固定されている。撮影できる。
(●) 点灯	ピントが合っている。被写体の動きに合わせてピント位置が変わる。撮影できる。
( ) 点灯	ピント合わせの途中で、シャッターが切れない。
●点滅	ピントが合わず、シャッターが切れない。

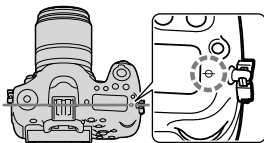
ピントが合いにくい被写体

下記のような被写体では、オートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。フォーカスロック撮影(100ページ)またはマニュアルフォーカス撮影(108ページ)を行ってください。

- 青空や白壁などコントラストのないもの
- フォーカスエリアの中に距離の異なるものが混じっているとき
- ビルの外観など、繰り返しパターンの連続するもの
- 太陽のように明るいものや、車のボディ、水面などきらきら輝いているもの
- 光量が不足しているとき

撮影距離を正確に測るには

本機上面の ⊖ マークがイメージセンサー *面の位置となります。本機から被写体までの距離を正確に測るには、この線の位置を参考にしてください。

* イメージセンサー：光を電気信号に変える部分

ご注意

- お使いのレンズの最短撮影距離よりも近いものにはピントが合いません。撮りたいものに近づきすぎていないか、確認してください。

フォーカスロック

1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスエリアを合わせ、シャッターボタンを半押しする。

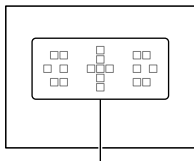
ピントが固定される。

- ［フォーカスモード］は［シングルAF］にする。

2 シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図に戻す。

3 シャッターボタンを押し込んで撮影する。

フォーカスエリア

撮影状況や好みに応じて、ピントを合わせやすいフォーカスエリアを選びます。ピントが合ったフォーカスエリアが緑色になり、それ以外のフォーカスエリアの表示が消えます。

フォーカスエリア

Fnボタン → ［ ］（フォーカスエリア）→ 希望の項目を選ぶ。

(ワイド)	19個のフォーカスエリアのうち、どこをピント合わせに使うかを自動的に決定する。
(ゾーン)	左側、中央付近、右側と3つに分けられたどのゾーンでピントを合わせるかをマルチセレクターで選ぶ。選んだゾーン中で使うフォーカスエリアを自動的に決定する。
(中央に固定)	常に中央部のフォーカスエリアでピントを合わせる。
(ローカル)	19個のフォーカスエリアからピントを合わせるフォーカスエリアをマルチセレクターで選ぶ。

ご注意

- 撮影モード「オートモード」、シーンセレクション時、または被写体追尾中、スマイルシャッター使用時は[ワイド]に固定され、他のフォーカスエリアに変更できません。
- 連続撮影時やシャッターボタンを一気に押し込んだときなどには、フォーカスエリアが点灯しないことがあります。
- 使用するアシストエリアは、本機が自動的に選択します。[ローカル]に設定していても、アシストエリアを選択することはできません。

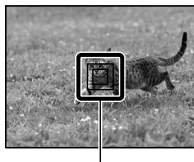
被写体追尾

被写体が動いても、被写体を追尾し続けます。お買い上げ時はフォーカスモードを[コンティニュアスAF]または[デプスマップアシストコンティニュアスAF]にすると、[被写体追尾　入(シャッター半押し追尾フォーカス)]が機能します。

1 フォーカスモードを[コンティニュアスAF]または[デプスマップアシスト コンティニュアスAF]にする(96ページ)。

2 Fnボタン → (被写体追尾) → [入(シャッター半押し追尾フォーカス)]を選ぶ。

3 **シャッターボタンを半押しすると、本機が自動的にターゲットをロックして追尾する。**

半押ししている間中、ピントを合わせ続ける。ピントが合うとターゲット枠が緑色になる。

ターゲット枠

4 **シャッターボタンを押し込み撮影する。**

フォーカスエリアが[ワイド]の場合、本機が自動的に決めたエリアから追尾を開始する。
追尾中は、すべてのエリアを使ってフォーカスを合わせる。
- フォーカスエリアを[ローカル]または[ゾーン]に設定すると、選択したエリアから追尾を開始することができる。

撮影のテクニック

- 人物を撮影する場合、被写体追尾[入(シャッター半押し追尾フォーカス)]、フォーカスエリア[ワイド]、顔検出[入]の組み合わせにすると人物の顔を検出し追尾することができる。
- ライブビュー上で被写体が小さい場合、被写体追尾[入(シャッター半押し追尾フォーカス)]、フォーカスエリア[ローカル]または[ゾーン]の組み合わせにして、被写体のエリアをあらかじめ指定することにより確実に追尾することができる。

他のモードにするには

Fnボタン → 回ON(被写体追尾) → [入]または[切]を選ぶ。

回彡ON（入）	撮影情報画面でマルチセレクターの中央を押すとターゲット枠が表示される。追尾する被写体に合わせてマルチセレクターの中央を押すと追尾が開始される。 ピントが合うと、ターゲット枠が緑色になる。追尾を解除する場合は、もう一度中央を押す。
回彡OFF（切）	被写体追尾機能を使わない。

ご注意

- 以下のときは、被写体追尾機能がうまく働かないことがあります。
  - 動きが速すぎる被写体
  - 小さすぎる、または大きすぎる被写体
  - 被写体と背景が同系色
  - 暗いシーン
  - 明るさが変わるシーン
- 撮影モード「スイングパノラマ」、「テレコン連続撮影優先AE」、シーンセレクションの[手持ち夜景]、またはスマートテレコンバーター使用時、マニュアルフォーカスのときは被写体追尾を行えません。
- 追尾している被写体が画面から消えると、被写体追尾は解除されます。
- [入（シャッター半押し追尾フォーカス）]は、[フォーカスモード]が[コンティニュアスAF]、[デプスマップアシスト コンティニュアスAF]時のみ設定できます。
- 被写体追尾を開始すると、フォーカスエリアは自動的に[ワイド]に切り換わります。

人の顔を優先して追尾するには

人を被写体追尾中に顔を検出した場合に、顔を優先して追尾するかどうか設定できます。

MENUボタン → ✿6 → [顔優先追尾] → [入]を選ぶ。

顔が見えないときは体を追尾し、顔が見えると顔を追尾します。

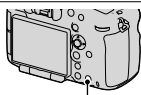
追尾中の人が画面から消えても、再び顔が画面に映った場合にはピントを合わせます。

- スマイルシャッター中に被写体追尾で顔を追尾させると、その顔だけがスマイル検出の対象になります。

- [顔優先追尾]が[切]の場合も、顔検出中の顔を被写体に設定すれば、顔が見えないときには体を追尾します。また、追尾中の人が画面から消えても再び顔が画面に映った場合はピントを合わせます。

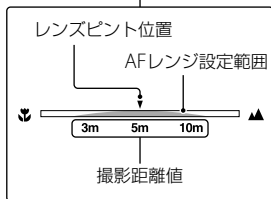
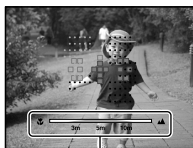
AFの作動範囲を限定する(AFレンジコントロール)

オートフォーカスの作動範囲を限定することができます。
背景や撮りたい被写体よりも前にある物に邪魔されずにピントを合わせることができます。

1 AF RANGE(AFレンジコントロール)ボタンを押す。

AF RANGEボタン

2 前ダイヤルで最大撮影距離を設定し、後ダイヤルで最短撮影距離を設定する。

- 設定したAFレンジ範囲内にある被写体と重なるフォーカスエリア、アシストエリア*が黄色く表示される。

* アシストエリアは対応レンズでのみ表示。

3 もう一度AF RANGEボタンを押して距離を確定する。

- リミット範囲表示は残る。
- 設定された範囲内の被写体に重なるフォーカスエリアとアシストエリアが黄色く表示される。

AF RANGE機能を終えるには

もう一度AF RANGEボタンを押す。

撮影のテクニック

- 撮影したい被写体にフォーカスを合わせたあと、レンズピント位置▼が範囲内に入るようにAFレンジ設定範囲を調整する。
- フォーカスエリアとアシストエリアの黄色い表示を見ながら、範囲内もしくは範囲外になるように設定する。

ご注意

- マニュアルフォーカス、動画のときは使用できません。
- レンズ交換すると、設定したAFレンジ範囲はリセットされます。
- フォーカスレンジリミッター機能があるレンズを使用している場合、本機のAFレンジコントロール機能と併用せず、どちらか一方をお使いください。
- 距離エンコーダー非搭載のレンズでは撮影距離値が表示されません。
- 撮影距離値は目安です。
- レンジ設定範囲、撮影距離値と実際のレンズピント位置はずれることがあります。
- 実際のAFレンジ設定範囲と、フォーカスエリアやアシストエリアの黄色い表示は合わないことがあります。
- ピントが合っていないとフォーカスエリア、アシストエリアが黄色く表示されないことがあります。
- 光量が不足しているときや単色の平面などコントラストのない被写体では、フォーカスエリア、アシストエリアが黄色く表示されにくいことがあります。被写体の輪郭部などを参考にしてください。
- レンズ内にモーターを持つレンズ（SSM、SAMレンズ*）以外ではダイレクトマニュアルフォーカスとの併用はできません。
  * ダイレクトマニュアルフォーカスに対応していないSAMレンズもあります。お使いのレンズの取扱説明書でご確認ください。
- レンズ内にモーターを持つレンズ（SSM、SAMレンズ*）以外ではAF/MFコントロールとの併用時、無限遠への初期動作が入ることがあります。
  * AF/MFコントロールに対応していないSAMレンズもあります。お使いのレンズの取扱説明書でご確認ください。
- アシストエリア表示の対応レンズは、専用サポートサイトでご確認ください。
  http://www.sony.co.jp/DSLR/support/

シャッターボタン以外でAFする（AFオン）

シャッターボタンを半押ししなくても、他のボタンでピント合わせができます。
オートフォーカスの設定は［フォーカスモード］で設定しているモードになります。

MENUボタン → ✿ 4 → 希望のボタンを選ぶ* → ［AFオン］を選ぶ。

* ［AELボタンの機能］［ISOボタンの機能］［AF/MFボタンの機能］［カスタムキーの機能］［プレビューボタンの機能］の中から選ぶ。

撮影のテクニック

- シャッターボタンでピント合わせをしたくない場合は、［AFオン］の設定の他に以下の設定をする。
  – ［シャッター半押しAF］を［切］にする。
  – ［シャッター半押しAEL］をお好みで設定する。

AF補助光

暗い場所でピントを合わせるために使う補助光を設定できます。

MENUボタン → 📷 2 → ［AF補助光］ → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- ［フォーカスモード］が［コンティニュアスAF］［デプスマップアシスト コンティニュアスAF］のとき、［AF制御自動切り換え］で被写体が動いているとき（フォーカス表示 (◉) または ( ) が点灯しているとき）は、AF補助光は発光しません。
- ［フォーカスエリア］を［ローカル］または［ゾーン］にして中央以外のエリアを選んでいるときは、AF補助光は発光しません。
- レンズの焦点距離が300 mm以上のときは、AF補助光は発光しないことがあります。
- AF補助光機能のあるフラッシュ（別売）を取り付けているときは、取り付けているフラッシュのAF補助光が発光します。

- スマイルシャッターを使用しているとき、AF補助光は発光しません。

AF微調整

レンズごとにピント合わせの位置を調整し、登録できます。
この操作は必要な場合のみ行ってください。誤って設定すると、適切にピントが合わせられなくなる場合がありますのでご注意ください。

MENUボタン → 🔧3 → [AF微調整] → [入] → [調整値] → 希望の調整値を選ぶ。

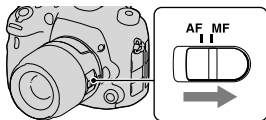
- 値を大きくすると、ピントが合う位置がカメラから遠ざかる。値を小さくすると、ピントが合う位置がカメラに近づく。

ご注意

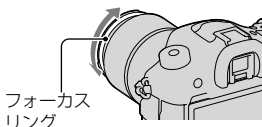
- 調整は実際に撮影する環境で行うことをおすすめします。
- 既に登録されたレンズを装着しているときには、登録された調整値が表示されます。未登録レンズの場合は「±0」が表示されます。調整値が「–」と表示される場合は、既に登録したレンズが30種になっており、これ以上登録はできません。新たに登録するには、登録削除するレンズを装着し、調整値を「±0」にするか、[調整値クリア]ですべての登録された調整値をリセットしてください。
- 非対応レンズをお使いの際にAF微調整を行うと、ソニーおよびミノルタ、コニカミノルタ製のレンズでの調整値に影響が出る場合があります。非対応のレンズでは使用しないでください。
- ソニー、ミノルタ、コニカミノルタで同じ仕様のレンズをお使いの場合、個々にAF微調整の設定はできません。

マニュアルフォーカス

オートフォーカスが効きにくいときは、手動でピントを合わせると便利です。

1 レンズのフォーカスモードスイッチを「MF」にする。

2 レンズにフォーカスモードスイッチがない場合は、Fnボタン → AF-S（フォーカスモード）→ MF（マニュアルフォーカス）を選ぶ。

- サイレントマルチコントローラーに[フォーカスモード]が設定されている場合は、サイレントマルチコントローラーでも設定できる（32ページ）。

3 レンズのフォーカスリングを左右に回して、被写体が最もはっきり見えるようにする。

ご注意

- [フォーカスエリア]が[ワイド]のときは中央のエリアが、[ゾーン]のときは選んだゾーンの中の代表エリアが、[ローカル]のときは選んだエリアがピント合わせに使用されます。
- テレコンバーター（別売）使用時などは、フォーカスリングの回転が重くなる場合があります。
- ファインダー使用時は、視度調整が正しくないと、ファインダー上の正確なピントが得られません（18ページ）。
- マニュアルフォーカスのときは、レンズ側のフォーカスモードスイッチを必ず「MF」にしてください。切り換えずにフォーカスリングを無理に操作すると、故障の原因になります（ダイレクトマニュアルフォーカス機能のあるレンズを除く）。

ピントが合った部分を強調表示する（ピーキング）

マニュアルフォーカス撮影のときに、ピントが合った部分の輪郭を指定した色で強調表示します。微細なピント合わせが必要とされるマクロやポートレート撮影に便利です。
ピーキングのレベルとピーキングの色を設定することができます。

MENUボタン → ✿3 → [ピーキングレベル] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 画像のシャープな部分をピントが合ったと判断するため、被写体やレンズによって強調表示効果が異なります。
- HDMI接続時はピーキングが表示されません。

ピーキングの色を設定するには

ピントが合った部分の輪郭を強調するピーキングの色を設定します。

MENUボタン → ✿3 → [ピーキング色] → 希望の設定を選ぶ。

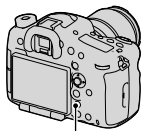
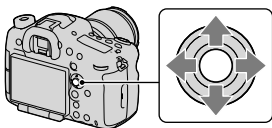
ご注意

- [ピーキングレベル]が[切]のときは設定できません。

ピント拡大

撮影前の画像を拡大してピントの確認ができます。

1 MENUボタン → ✿4 → [スマートテレコンバーターボタン] → [ピント拡大]を選ぶ。

2 **ピント拡大ボタンを押す。**

3 **さらにピント拡大ボタンを押して画像を拡大し、マルチセレクターの▲/▼/◀/▶で拡大位置を調整する。**

- ズーム倍率は、ピント拡大ボタンを押すたびに下記のように変わる。
  フルサイズ時：約5.9倍 → 約11.7倍
  APS-Cサイズ時：約3.8倍 → 約7.7倍

4 **ピントの確認、調整をする。**

- マニュアルフォーカス時は、フォーカスリングを回してピントの調整を行う。
- マルチセレクターの中央を押すと拡大位置が中央に戻る。
- シャッターボタンを半押しすると、拡大表示は解除される。

5 **シャッターボタンを押し込み撮影する。**

- 拡大表示中のときにシャッターボタンを押しても撮影できるが、記録される画像は全体表示の範囲になる。
- 撮影後、拡大表示は解除される。

ダイレクトマニュアルフォーカス（DMF）

オートフォーカスでピントを合わせたあと、手動で微調整できます（ダイレクトマニュアルフォーカス）。
最初からマニュアルフォーカスでピントを合わせるよりも素早くピント合わせができ、マクロ撮影などに便利です。

1 Fnボタン → AF-S（フォーカスモード）→ DMF（DMF）を選ぶ。

2 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる。

3 シャッターボタンを半押ししたまま、フォーカスリングを回してピントを調整する。

ご注意

- SAMレンズには、ダイレクトマニュアルフォーカスに対応しているレンズと、対応していないレンズがあります。お使いのSAMレンズがこの機能に対応しているかどうかについては、レンズの取扱説明書でご確認ください。

レンズ側でのダイレクトマニュアルフォーカスについて

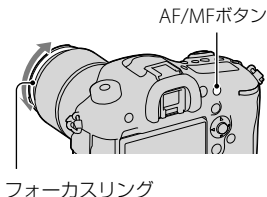
ダイレクトマニュアルフォーカス機能を搭載しているレンズを使用し、フォーカスモードが[シングルAF]または[AF制御自動切り換え]のときは、フォーカスロック後にフォーカスリングでピントの微調整を行えます（DT 16-50mm F2.8 SSMなど）。

AF/MFコントロール

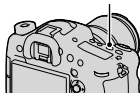
撮影中にカメラのホールディングを崩すことなく、オートフォーカスとマニュアルフォーカスを簡単に切り換えることができます（AF/MFコントロール）。

AF/MFボタンを押す。

オートフォーカスのとき：一時的にマニュアルフォーカスになる。
AF/MFボタンを押したまま、フォーカスリングを回してピントを合わせる。
マニュアルフォーカスのとき：AF/MFボタンを押している間、一時的にオートフォーカスになり、ピントが固定される。

- ✿ カスタムメニューの[AF/MFボタンの機能]で、ボタンを押し続けなくても変更したモードを維持できる（188ページ）。

露出補正

通常は、露出が自動的に設定されます（自動露出）。自動露出で設定された露出値を基準に、＋側に補正すると、画像全体を明るく、－側に補正すると、画像全体を暗くできます（露出補正）。

1 ☒ ボタンを押す。

2 マルチセレクターの◀/▶で希望の補正値を選ぶ。

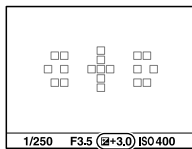
＋（オーバー）側：画像が明るくなる。
－（アンダー）側：画像が暗くなる。

- ファインダーモードのときは、測光インジケーターで露出を確認する。

液晶モニター表示

露出補正値

ファインダー表示

露出補正値

3 ピントを合わせて撮影する。

撮影のテクニック

- 撮影した画像を見て補正値を調整する。
- ブラケット撮影機能を使うと、露出値を前後にずらした複数枚の画像が撮影できる（119ページ）。

ご注意

- 撮影モード「オートモード」、シーンセレクション時は設定できません。
- 撮影モード「M」時は、ISO AUTOのときのみ露出補正が可能です。

前ダイヤルまたは後ダイヤルで露出を補正するには

ボタンを押さなくても、前ダイヤルまたは後ダイヤルで露出を補正できます。

MENUボタン → 5 → [ダイヤル露出補正] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 前ダイヤルまたは後ダイヤルに露出補正を割り当てると、元々割り当てられていた機能は、露出補正を割り当てていないダイヤルで操作できます。
- 撮影モード「M」でISO AUTOを選択している場合、[ダイヤル露出補正]は無効です。

露出補正の影響を変えるには

フラッシュの調光にも反映するか、定常光だけに反映するか設定する。

MENUボタン → 5 → [露出補正の影響] → 希望の設定を選ぶ。

AEロック

逆光や窓際などでの撮影で、背景と被写体に大きな明暗の差がある場合は、被写体が適正な明るさになる箇所で測光し、露出を固定して撮影します。被写体の明るさを抑えたいときは被写体よりも明るい箇所で測光し、被写体をより明るくしたいときは被写体よりも暗い箇所で測光し、画面全体の露出を固定します。
ここでは、測光モードを ◉（スポット測光）にして被写体をより明るく撮る例で説明します。

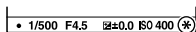
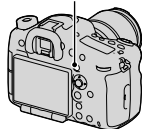
1 Fnボタン → ◎（測光モード）→ ◉（スポット測光）を選ぶ。

2 露出を合わせる箇所に、ピントを合わせる。

3 AELボタンを押して、露出を固定する。

✱（AEロックマーク）が点灯する。

- 測光インジケーターには、固定された露出を基準にしたスポット測光サークル内の測光値も表示される。

• 1/500 F4.5 ±0.0 ISO 400 ✱

4 AELボタンを押したまま、撮影したい被写体にピントを合わせ、撮影する。

- 露出値を一定に保ったまま連続で撮影するときは、撮影後もAELボタンを押したままにする。指を離すと露出固定は解除される。

測光モード

Fnボタン → (測光モード) → 希望の設定を選ぶ。

(多分割測光)	複数に分割した画面を各エリアごとに測光し、画面全体の最適な露出を決定する。
(中央重点平均測光)	画面の中央部に重点をおきながら、全体の明るさを平均的に測光する。
(スポット測光)	中央部のスポット測光サークル内のみで測光を行う。

撮影のテクニック

- 一般的な撮影では、[多分割測光]を使う。
- フォーカスエリア内に明暗の差が大きい被写体がある場合は、適正な明るさで写したい被写体の露出をスポット測光で測って、AEロック撮影をする(115ページ)。

ご注意

- 撮影モード「オートモード」、シーンセレクション時、本体側のズーム使用中、[多分割測光]に固定され、他の測光モードに変更できません。

ドライブモードを選ぶ

1枚撮影、連写、ブラケット撮影など、撮影の目的に合わせて使用してください。

ボタン → 希望のモードを選ぶ。

(1枚撮影)(118)	通常の撮影方法。
(連続撮影)(118)	連続して撮影する。
(セルフタイマー)(118)	10秒セルフタイマーは撮影者も一緒に写真に入るときに、2秒セルフタイマーは、撮影の際のカメラブレを和らげるのに便利。
BRK C (連続ブラケット)(119)	露出を段階的にずらして、指定した枚数の画像を記録する。
BRK S (1枚ブラケット)(119)	露出を段階的にずらして、指定した枚数の画像を1枚ずつ撮影する。
BRK WB (ホワイトバランスブラケット)(121)	選択されているホワイトバランス・色温度/カラーフィルターの値を基準に、段階的にずらして、合計3枚の画像を記録する。
BRK DRO (DROブラケット)(121)	Dレンジオプティマイザーの値を段階的にずらして、合計3枚の画像を記録する。
(リモコン)(121)	ワイヤレスリモートコマンダー RMT-DSLR1(別売)、RMT-DSLR2(別売)のSHUTTERボタン、2SECボタン(2秒後にシャッターを切る)を使って静止画を撮影する。START/STOPボタンを使って、動画を撮影する(RMT-DSLR2のみ)。

1枚撮影

/ (ドライブ)ボタン → (1枚撮影)を選ぶ。

ご注意

- シーンセレクションの[スポーツ]を選んでいるときは、1枚撮影できません。

連続撮影

1 / (ドライブ)ボタン → (連続撮影) → マルチセレクターの◀/▶で希望の速度を選ぶ。

2 ピントを合わせて撮影する。

- シャッターボタンを深く押し込んでいる間、撮影が続く。

撮影のテクニック

- より高速で連写するには、撮影モードを「テレコン連続撮影優先AE」にする(80ページ)。

ご注意

- Hi のときは、連写のコマ間に撮影された画像が表示されます。
- シーンセレクションの場合、[スポーツ]以外のモードでは連続撮影できません。

セルフタイマー

1 / (ドライブ)ボタン → (セルフタイマー) → マルチセレクターの◀/▶で希望の設定を選ぶ。

- の横の数値は、現在選択されているセルフタイマーの設定。

2 ピントを合わせてシャッターボタンを押し込む。

- セルフタイマー作動中は、電子音とセルフタイマーランプで動作状況を知らせる。撮影直前になると、セルフタイマーランプの点滅と電子音が速くなる。

セルフタイマーを中止するには

ꝏ/⧉ ボタンを押します。

連続ブラケット/1枚ブラケット

基準となる露出　　−に補正　　+に補正

露出を段階的にずらして撮影することをブラケット撮影といいます。基準の露出に対して、上下にずらす値の幅(段数)を指定すると、自動的に露出値をずらして合計3枚または5枚の画像を撮影します。

1 ꝏ/⧉ (ドライブ)ボタン → BRK C (連続ブラケット)または BRK S (1枚ブラケット) → マルチセレクターの◀/▶で希望の段数、枚数を選ぶ。

2 ピントを合わせて撮影する。

基準の露出は1枚目で設定される。

- [連続ブラケット]の場合は、撮影が終わるまでシャッターボタンを押し続ける。
- [1枚ブラケット]の場合は、1枚ずつシャッターボタンを押して撮影する。

ご注意

- 撮影モード「M」でISO AUTO以外のときは、シャッタースピードを変化させて、露出値をずらします。ISOが[AUTO]のときは、ISO感度を変化させて露出値をずらします。
- 露出値を補正しているときは、補正している露出を基準に、露出をずらして撮影されます。
- 撮影モード「オートモード」、「スイングパノラマ」、「テレコン連続撮影優先AE」またはシーンセレクションを選んでいるときは、ブラケット撮影はできません。
- フラッシュ発光時は[連続ブラケット]を選んでいても調光量をずらして撮影するフラッシュブラケットになり、1枚ずつシャッターボタンを押して撮影します。

ブラケット撮影時の測光インジケーター

	定常光*ブラケット 段数0.3段　3枚 露出補正±0.0段	フラッシュブラケット 段数0.7段　3枚 調光補正－1.0段
ファインダー	–5··4··3··2··1··0··1··2··3··4··5+	–5··4··3··2··1··0··1··2··3··4··5+
液晶モニター（ファインダー撮影用のとき）	±0.0 –　+ （上段に表示）	±0.0 –　+　-1.0 （下段に表示）

* 定常光：自然光や電球・蛍光灯など、フラッシュ光以外の総称。フラッシュ光が一瞬だけ光るのに対し、常に一定して存在する光なのでこう呼ばれます。

- ブラケット撮影時には、ブラケット撮影枚数分の指標が測光インジケーターに表示されます。
- ブラケット撮影を開始すると、撮影済みの指標が順に消えていきます。

ホワイトバランスブラケット

1 ꟷ/ ▭（ドライブ）ボタン → BRK WB（ホワイトバランスブラケット）→ マルチセレクターの◀/▶で希望の設定を選ぶ。

- Loのときは10MK^{-1}*、Hiのときは20MK^{-1}の幅がずれる。

2 ピントを合わせて撮影する。

* MK^{-1}：色温度変換フィルターの色温度変換能力を示すために用いられる単位（ミレッドと同じ値）。

DROブラケット

1 ꟷ/ ▭（ドライブ）ボタン → BRK DRO（DROブラケット）→ マルチセレクターの◀/▶で希望の設定を選ぶ。

- LoのときはDROLv1、Lv2、L3の画像が撮影される。HiのときはDROLv1、Lv3、L5の画像が撮影される。

2 ピントを合わせて撮影する。

リモコン

1 ꟷ/ ▭（ドライブ）ボタン → （リモコン）を選ぶ。

2 ピントを合わせ、リモコン発光部を本機のリモコン受光部に向けて撮影する。

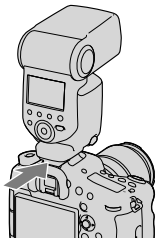
ご注意

- 動画撮影にリモコンRMT-DSLR1（別売）は使えません。RMT-DSLR2（別売）を使ってください。
- RMT-DSLR2でのSTART/STOP動作は、本機のセルフタイマーランプ点灯で確認できます。
- [MOVIE（動画）ボタン]が[動画モードのみ有効]のときは、モードダイヤルを にしているときのみ、リモコンのSTART/STOPボタンが有効です（RMT-DSLR2のみ）。
- リモコンの取扱説明書もあわせてご覧ください。

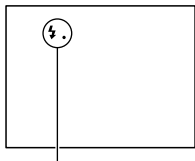
フラッシュ（別売）を使う

暗い場所での撮影では、フラッシュを使うと被写体を明るく写せ、手ブレを抑えるのにも役立ちます。また逆光などで被写体が暗くなる場合も、フラッシュにより、明るく写せます。フラッシュの使いかたについて詳しくは、フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

1 シューキャップをはずし、フラッシュ（別売）を取り付ける。

- マルチインターフェースシューにしっかり止まるまで、矢印の方向へ差し込む。ロックされていることを確認する。
- オートロックアクセサリーシューに対応したフラッシュを使用する場合は、シューアダプターを本機に取り付ける（23ページ）。

2 フラッシュの電源を入れ、フラッシュの充電が完了したら、撮影する。

ϟ● 点滅：フラッシュ充電中。
ϟ● 点灯：フラッシュの充電が完了。

- 暗所での撮影など、オートフォーカスでピントが合いにくい状況でシャッターボタンを半押しすると、フラッシュのAF補助光が発光する。

ϟ●（フラッシュ充電）表示

3 Fnボタン → ϟ（フラッシュモード） → 希望の設定を選ぶ。

- 撮影モードごとの選択可能なフラッシュモードについては、128ページをご覧ください。

ご注意

- フラッシュ光がレンズでさえぎられて、写真下部に影ができることがあります。レンズフードを取りはずしてください。

（発光禁止）	発光しない。
（自動発光）	光量不足/逆光と判断したとき発光する。
（強制発光）	必ず発光する。
（後幕シンクロ）	露光が終わる直前のタイミングで必ず発光する。
（ワイヤレス）	フラッシュを本機に取り付けて撮影したときよりも被写体に陰影が付いて立体感を出すことができる。

撮影のテクニック

- フラッシュ発光時は被写体から1 m以上離れて撮影する。
- 屋内での撮影や夜景撮影時、スローシンクロを使うと、人物と背景が明るく撮れる。
- 後幕シンクロを使って、走っている自転車など、動いている被写体を撮ると、動きの軌跡が自然な感じに撮れる。
- フラッシュ HVL-F60M（別売）/HVL-F58AM（別売）/HVL-F43AM（別売）を使うとシャッタースピード全域でフラッシュ撮影が可能なハイスピードシンクロ撮影ができる。詳しくは、フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

ワイヤレスフラッシュ

1 シューキャップをはずし、HVL-F60M、HVL-F58AM、HVL-F43AM、HVL-F20AMを取り付ける（123ページ）。

- HVL-F58AM、HVL-F43AM、HVL-F20AMを取り付けるときは、シューアダプターを本機に取り付ける（23ページ）。

2 取り付けたフラッシュをワイヤレスコントローラーに設定する。

3 Fnボタン → ⚡（フラッシュモード）→ ⚡WL（ワイヤレス）を選ぶ。

4 ワイヤレス設定した他のフラッシュを本機から離して設置する。

5 テスト発光する場合は、本機のAELボタンを押す。

ご注意

- ワイヤレスフラッシュ撮影している別のカメラの信号光を、ワイヤレスフラッシュが受信してフラッシュが発光してしまう場合は、フラッシュのチャンネルを変更してください。チャンネルの変更について詳しくは、フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

AELボタンの設定について

ワイヤレスフラッシュご使用の際には、⚙カスタムメニューの[AELボタンの機能]（188ページ）を、[押す間AEL]に設定しておくことをおすすめします。

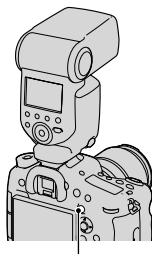
ワイヤレス光量比制御について

対応する複数のフラッシュと組み合わせて、ワイヤレス光量比制御も行えます。 詳しくはフラッシュ（HVL-F60M、HVL-F58AM、HVL-F43AM）の取扱説明書をご覧ください。

スローシンクロ

スローシンクロでシャッタースピードを遅くして撮ると、被写体だけでなく、背景も明るく撮れます。夜景を背景にしたフラッシュ撮影をする場合などに便利です。

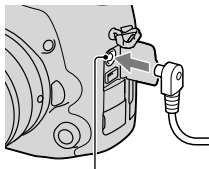
SLOW SYNCボタンを押しながら撮影する。

画面に ✱ が点灯し、露出値がロック（固定）されていることを知らせる。

SLOW SYNCボタン

ご注意

- 撮影モード「S」、「M」時は、SLOW SYNCボタンによるスローシンクロ撮影はできません。
- ［AELボタンの機能］にAEL以外の機能が割り当てられている場合は、SLOW SYNCボタンでスローシンクロ撮影できません。また、［ISOボタンの機能］、［AF/MFボタンの機能］、［カスタムキーの機能］、［プレビューボタンの機能］にAEL機能が割り当てられている場合は、そのボタンでスローシンクロ撮影ができます。

シンクロターミナルコード付きフラッシュを使う

ϟ（シンクロ）ターミナルのカバーを開け、コードを差し込む。

ϟ（シンクロ）ターミナル

- フラッシュのシンクロ端子の極性が逆のタイプでもご使用になれます。

ご注意

- 露出モードはマニュアル露出モード（ISO AUTO以外を推奨）にして、シャッタースピードは1/250秒またはフラッシュ側の推奨する値のどちらか遅い方、またはそれより低速側に設定してください。
- 暗くて構図を確認しにくい場合は、[ライブビュー表示]の設定を変え、常に適正な明るさで表示することもできます（94ページ）。
- シンクロ電圧が400V以下のフラッシュをご使用ください。
- シンクロコードをϟ（シンクロ）ターミナルに接続するときは、コードと接続したフラッシュの電源をオフにしてください。オンにしていると、コードを接続した瞬間にフラッシュが発光することがあります。
- フラッシュは、常にフル発光になります。フラッシュ調光補正（129ページ）はできません。
- オートホワイトバランスはおすすめできません。より正確なホワイトバランスを得るために、カスタムホワイトバランスをお使いください。
- ϟ（シンクロ）ターミナルに接続中は、フラッシュ表示が出ません。

使用可能なフラッシュモード

設定している撮影モードや機能によって、選べるフラッシュモードが異なります。
○は対応可能、×は対応不可能を表しています。
選べないフラッシュモードはグレーで表示されます。

撮影モード		（発光禁止）	（自動発光）	（強制発光）	（後幕シンクロ）	（ワイヤレス）
i / i+（73）		×	○	○	×	×
SCN（75）		×	○	○	×	×
		○	×	○	×	×
		×	○	○	×	×
		○	×	○	×	×
		○	×	○	×	×
		○	×	×	×	×
		○	×	×	×	×
		×	○	×	×	×
（78）		○	×	×	×	×
T10 / T8（80）		×	×	○	○	○
P（82）		×	×	○	○	○
A（83）		×	×	○	○	○
S（85）		×	×	○	○	○
M（86）		×	×	○	○	○
（69、163）		○	×	×	×	×

調光補正

フラッシュ撮影時は、露出補正とは別に、フラッシュの発光量を調整することで、フラッシュ光が届く主被写体の露出を変更できます。

Fnボタン → ⚡(調光補正) → 希望の数値を選ぶ。

＋側：発光量を増やす。
－側：発光量を減らす。

ご注意

- 撮影モード「オートモード」、「スイングパノラマ」、シーンセレクション時は設定できません。
- 被写体がフラッシュ光の最大到達距離(調光距離)付近より遠くにあるときは、オーバー側(＋側)の効果が出ないことがあります。また、近接撮影ではアンダー側(－側)の効果が出ないことがあります。

露出補正と調光補正の違い

露出補正では、シャッタースピード・絞り値・ISO感度(AUTOの場合)が変化することによって補正が行われます。
調光補正では、フラッシュの発光量のみが変化します。

調光モード

MENUボタン → [camera icon] 2 → [調光モード] → 希望の設定を選ぶ。

ADI調光	フォーカスの距離情報とプリ発光による光量測定結果を組み合わせてフラッシュ発光量制御を行う方式。被写体の反射率にほとんど影響されない正確な調光ができる。
P-TTL調光	プリ発光による光量測定結果だけでフラッシュ発光量制御を行う方式。被写体の反射による影響を受けやすい。

ADI：Advanced Distance Integrationの略
P-TTL：Pre-flash, Through the lensの略

- [ADI調光]で、距離エンコーダー搭載レンズを用いると、より正確な距離情報をもとに、高精度な調光ができる。

ご注意

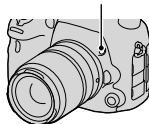
- 被写体とフラッシュ間の距離が定まらない場合（フラッシュでワイヤレスフラッシュ撮影・ケーブルを使ったオフカメラ撮影などを行う場合や、マクロツインフラッシュ使用時など）は、自動的にP-TTL調光になります。
- 以下の場合は[ADI調光]だと正しい調光が得られませんので、[P-TTL調光]に設定してください。
  - フラッシュ HVL-F36AMにワイドパネルを取り付けた場合
  - ディフューザー（拡散板）を使ってフラッシュ撮影した場合
  - 露出倍数のかかるフィルター（NDなど）使用時
  - クローズアップレンズ使用時
- ADI調光は距離エンコーダー内蔵レンズとの組み合わせで可能です。距離エンコーダー内蔵かどうかは、レンズの取扱説明書の主な仕様をご覧ください。
- 撮影モード「スイングパノラマ」、シーンセレクションの[夜景]、[手持ち夜景]時は設定できません。

FELロック

通常のフラッシュ撮影では被写体が最適露出になるようにフラッシュの発光量が自動的に調整されますが、あらかじめフラッシュの発光量を決めておくことができます。
FEL：Flash Exposure Level（フラッシュ露出レベル）の略

1 FELロックしたい被写体を中央にして、ピントを合わせる。

2 カスタムボタンを押して、発光量を固定する。

- フラッシュがプリ発光する。
- ϟL（FELロックマーク）が点灯する。

3 撮りたい構図にして撮影する。

- FELロックを解除する場合は、もう一度カスタムボタンを押す。

FELロック対応フラッシュ

- HVL-F60M、HVL-F43AMはクリップオン、ケーブル接続したオフカメラ、ワイヤレス（コントローラー /リモート）撮影で使えます。
- HVL-F58AM、HVL-F20AMはクリップオン、ケーブル接続したオフカメラ、ワイヤレス（コントローラー）撮影で使えます。

ご注意

- フラッシュが装着されていないと設定できません。
- FELロックに対応していないフラッシュを装着した場合は、エラー表示が出ます。
- AEとFELを両方固定している場合は、⚡* が点灯します。

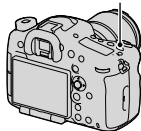
カスタムボタンの設定を変えるには

カスタムボタンを押している間だけ保持する([押す間FELロック])設定にしたり、他の機能を割り当てることもできます。

MENUボタン → ✿4 → [カスタムキーの機能] → 希望の設定を選ぶ。

ISO感度を設定する

光に対する感度は、ISO感度（推奨露光指数）で表します。数値が大きいほど高感度になります。

1 ISOボタンを押して、ISO感度画面を表示する。

2 マルチセレクターの▲/▼で希望の設定を選ぶ。

- ISO感度が高くなるほど、ノイズが増える。
- ［マルチショットノイズリダクション］を選んだ場合は、▶で設定画面を表示して、▲/▼で希望の数値を選ぶ。
- 後ダイヤルで選ぶとマルチセレクターと同様に1/3段ずつ数値を変更できる。前ダイヤルで選ぶと1段ずつ数値を変更できる。

ご注意

- ISO100未満の領域は、記録できる被写体輝度の範囲（ダイナミックレンジ）が少し狭くなります。
- 撮影モード「オートモード」、「スイングパノラマ」、シーンセレクション時は、ISO感度は［AUTO］に固定され、希望のISO感度に変更できません。
- 撮影モード「P」、「A」、「S」、「M」時、ISO感度を［AUTO］にすると、ISO 100 〜 6400の値で自動設定されます。

ISO感度［AUTO］時に自動設定される範囲を変更するには

［AUTO］を選択したときに▶を押して、［ISO AUTO 上限］［ISO AUTO 下限］を選んで希望の数値を設定する。

マルチショットノイズリダクション

自動的に複数枚の連写を行い、画像を合成し、ノイズを軽減して記録します。
マルチショットノイズリダクションでは最大ISO感度よりも感度を上げることができます。
記録される画像は合成された1枚のみです。

1 ISOボタンを押して、ISO感度画面を表示する。

2 マルチセレクターの▲/▼で ISO AUTO（マルチショットノイズリダクション）を選ぶ。

ご注意

- [画質]が[RAW]、[RAW+JPEG]のときは設定できません。
- フラッシュ、Dレンジオプティマイザー、[オートHDR]は使用できません。

明るさ、コントラストを自動補正する（Dレンジ）

Fnボタン → (DRO/オートHDR) → **希望の設定を選ぶ。**

(切)	DRO/オートHDR機能を使わない。
DRO (Dレンジオプティマイザー)	被写体や背景の明暗の差を細かな領域に分けて分析し、最適な明るさと階調の画像にする。
HDR (オートHDR)	露出の異なる3枚の画像を撮影し、適正露出の画像とアンダー画像の明るい部分、オーバー画像の暗い部分を合成することにより階調豊かな画像にする。 適正露出画像と、合成された画像の2枚が記録される。

Dレンジオプティマイザー

1 Fnボタン → (DRO/オートHDR) → DRO (Dレンジオプティマイザー)**を選ぶ。**

2 マルチセレクターの◀/▶で最適化レベルを選ぶ。

(オート)	本機が自動で調整する。
DRO (レベル設定) *	撮影画像の階調を、画像の領域ごとに最適化する。Lv1（弱）～ 5（強）で最適化レベルを選ぶ。

* DRO と一緒に表示されるLv_は、現在の設定値。

ご注意

- 撮影モード「スイングパノラマ」、または［マルチショットノイズリダクション］、［ピクチャーエフェクト］時は［切］に固定されます。
- シーンセレクションの［夕景］、［夜景］、［夜景ポートレート］、［手持ち夜景］では［切］に固定されます。これら以外のシーンセレクションでは［オート］に固定されます。
- Dレンジオプティマイザー動作時は、ノイズが目立つ場合があります。特に補正効果を強めるときは、撮影後の画像を確認しながらレベルを選んでください。

オートHDR

1 Fnボタン → (DRO/オートHDR) → (オートHDR)を選ぶ。

2 マルチセレクターの◀/▶で最適化レベルを選ぶ。

(露出差オート)	本機が自動で調整する。
(露出差レベル設定)＊	被写体の明暗差に応じて露出差を設定する。 1.0Ev（弱）～ 6.0Ev（強）で最適化レベルを選ぶ。 例：2.0Evでは－1.0Evの画像、適正露出の画像、＋1.0Evの画像の3枚が合成される。

＊ と一緒に表示される_Evは、現在の設定値。

撮影のテクニック

- 一度の撮影で3回シャッターが切られるため、以下に注意する。
  – 動きや点滅発光などがない被写体のときに設定する。
  – 構図が変わらないように撮影する。

ご注意

- RAW画像には設定できません。
- 撮影モード「オートモード」、「スイングパノラマ」、「テレコン連続撮影優先AE」、シーンセレクション、[マルチショットノイズリダクション]時は[オートHDR]を設定できません。
- 撮影後、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- 被写体の輝度差の状況や撮影環境によっては思い通りの効果を得られないことがあります。
- フラッシュ発光時は、効果がほとんど得られません。
- コントラストが低いシーンや、大きな手ブレ、被写体ブレが発生した場合は、良好なHDR画像が撮影できていないことがあります。カメラが検出できた場合は、再生画像に HDR ! を表示してお知らせします。必要に応じて、構図を変えたり、ブレに注意して撮影し直してください。

画像の仕上がりを設定する

ピクチャーエフェクト

好みの効果を選んで、より印象的でアーティスティックな表現の画像を撮影できます。

Fnボタン → (ピクチャーエフェクト) → 希望のモードを選ぶ。

- さらに詳細な設定ができるモードを選んだ場合は、マルチセレクターの◀/▶で希望の設定を選ぶ。

(切)	効果を使用しない。
(トイカメラ)	周辺が暗く、シャープ感を抑えた柔らかな仕上がりになる。◀/▶で色合いを設定できる。
(ポップカラー)	色合いを強調してポップで生き生きとした仕上がりになる。
(ポスタリゼーション)	原色のみ、または白黒のみで再現されるメリハリのきいた抽象的な仕上がりになる。◀/▶で[白黒]か[カラー]かを選択できる。
(レトロフォト)	古びた写真のようにセピア色でコントラストが落ちた仕上がりになる。
(ソフトハイキー)	明るく、透明感や軽さ、優しさ、柔らかさを持ったような仕上がりになる。
(パートカラー)	1色のみをカラーで残し、他の部分はモノクロに仕上がる。◀/▶で残す色を設定できる。
(ハイコントラストモノクロ)	明暗を強調することで緊張感のあるモノクロに仕上がる。

(ソフトフォーカス)	柔らかな光につつまれたような雰囲気の仕上がりになる。 ◀/▶で効果の強弱を設定できる。
(絵画調HDR)	絵画のように色彩やディテールが強調された仕上がりになる。3回シャッターが切れる。◀/▶で効果の強弱を設定できる。
(リッチトーンモノクロ)	階調が豊かでディテールも再現されたモノクロに仕上がる。3回シャッターが切れる。
(ミニチュア)	ミニチュア模型を撮影したようにボケが大きく、鮮やかな仕上がりになる。 ◀/▶でボケる位置を設定できる。

ご注意

- 光学以外のズームを使用するときは、[トイカメラ]、[ミニチュア]の効果は得られません。
- [パートカラー]のとき、被写体や撮影条件によっては設定した色が残らないことがあります。
- 撮影モード「オートモード」、「スイングパノラマ」、「テレコン連続撮影優先AE」または[画質]が[RAW]、[RAW+JPEG]のときは設定できません。
- [絵画調HDR]、[ミニチュア]、[リッチトーンモノクロ]、[ソフトフォーカス]のときは、撮影前に効果を確認できません。また、ドライブモードは設定できません。
- [絵画調HDR]、[リッチトーンモノクロ]ではコントラストが低いシーンや、大きな手ブレ、被写体ブレが発生した場合に良好な結果が得られない場合があります。カメラが検出できた場合は、再生画像に ! を表示してお知らせします。必要に応じて、構図を変えたり、ブレに注意して撮影し直してください。

クリエイティブスタイル

13種類の画像スタイルから画像の仕上がりを設定でき、各画像スタイルごとにコントラスト、彩度、シャープネスを微調整できます。
カメラまかせで撮影するシーンセレクションと異なり、露出（シャッタースピード/絞り）なども調整できます。

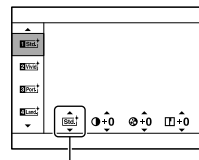
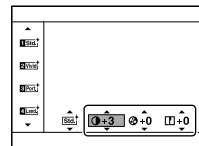
1 Fnボタン → Std.（クリエイティブスタイル）を選ぶ。

クリエイティブスタイル/スタイルボックス

- 13種類のクリエイティブスタイルと、任意に内容を登録できる6つのスタイルボックス（1 Std. のように左側に数字が入っているもの）が表示される。

2 マルチセレクターの▲/▼で希望のクリエイティブスタイルまたはスタイルボックスを選ぶ。

スタイルボックスを選んでいるときのみ表示

- スタイルボックスを選んだときは、▶で右側に移動し、希望のクリエイティブスタイルを選ぶ。
- スタイルボックスを使えば、同じスタイルでも微妙に設定を変えて呼び出すことができる。

3 ◑（コントラスト）、彩度アイコン（彩度）、シャープネスアイコン（シャープネス）を調整したいときは、◀/▶で希望の項目を選び、▲/▼で値を選ぶ。

Std.（スタンダード）	さまざまなシーンを豊かな階調と美しい色彩で表現する。
Vivid（ビビッド）	彩度・コントラストが高めになり、花、新緑、青空、海など色彩豊かなシーンをより印象的に表現する。
Ntrl（ニュートラル）	彩度・シャープネスが低くなり、落ち着いた雰囲気に表現する。パソコンでの画像加工を目的とした撮影にも適している。
Clear（クリア）	ハイライト部分の抜けがよく、透明感のある雰囲気に表現する。光の煌めき感などの表現に適している。
Deep（ディープ）	濃く深みのある色再現にする。重厚感、存在感など、重みのある表現に適している。
Light（ライト）	明るく、すっきりとした色再現にする。爽快感、軽快感など明るい雰囲気の表現に適している。
Port.（ポートレート）	肌をより柔らかに再現する。人物の撮影に適している。
Land.（風景）	彩度、コントラスト、シャープネスがより高くなり、鮮やかでメリハリのある風景に再現する。遠くの風景もよりくっきりする。
Sunset（夕景）	夕焼けの赤さを美しく表現する。
Night（夜景）	コントラストがやや低くなり、見た目の印象により近い夜景に再現する。
Autm（紅葉）	紅葉の赤・黄をより鮮やかに表現する。
B/W（白黒）	白黒のモノトーンで表現する。
Sepia（セピア）	セピア色のモノトーンで表現する。

◑（コントラスト）、◎（彩度）、◫（シャープネス）は、スタイルボックスごとに調整できます。

◑（コントラスト）	＋側に設定するほど明暗差が強調され、インパクトのある仕上がりになる。
◎（彩度）	＋側にするほど色が鮮やかになる。－側に設定すれば、控えめで落ち着いた色に再現される。
◫（シャープネス）	解像感を調整できる。＋側に設定すれば輪郭がよりくっきりし、－側に設定すればやわらかな表現になる。

ご注意

- 撮影モード「オートモード」、シーンセレクション、または［ピクチャーエフェクト］時は、［スタンダード］に固定され、他のクリエイティブスタイルに変更できません。
- ［白黒］、［セピア］を選択しているときは、彩度の調整はできません。

色合いを調整する（ホワイトバランス）

被写体の色合いは、被写体を照らしている光の特性によって異なります。太陽光のもとで白く見えるものを基準にすると、下図のように色合いが変化します。

天候や照明	晴れ	曇り	蛍光灯	電球
光の特性	白	青みがかる	緑がかる	赤みがかる

画像の色合いが思ったとおりにならなかったときや、意図して色合いを変化させて雰囲気を表現したいときにホワイトバランス機能を使います。

ご注意

- 撮影モード「オートモード」、シーンセレクション時は、[オートホワイトバランス]に固定され、他のホワイトバランスモードに変更できません。
- 水銀灯やナトリウムランプのみが光源の場合、光の特性上、正確なホワイトバランスが得られないため、フラッシュを発光して撮影してください。

WBボタン → 希望の設定を選ぶ。

AWB(オートホワイトバランス)	光源が自動判別され、適した色合いになる。
☀(太陽光)	被写体を照らしている光源を選ぶと、選んだ光源に適した色合いになる(プリセットホワイトバランス)。 • マルチセレクターの▶で、微調整画面が表示され、必要に応じて色合いを微調整できる。▲/▼/◀/▶で好みの色合いに設定する(145ページ)。
(日陰)	
(曇天)	
(電球)	
-1(蛍光灯: 温白色)	
0(蛍光灯: 白色)	
+1(蛍光灯: 昼白色)	
+2(蛍光灯: 昼光色)	
WB(フラッシュ)	

撮影のテクニック

- 選んだ設定では、思ったような色が出ないときは、ホワイトバランスブラケット撮影を行う(121ページ)。

色温度・カラーフィルター

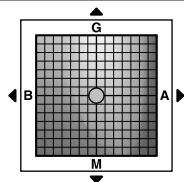
希望の色温度を選び、色温度とカラーフィルターの組み合わせで色合いの微調整ができます。

1 WBボタン → （色温度・カラーフィルター）→ マルチセレクターの▶を押す。

WBボタン

2 ▲/▼で色温度を設定する。

3 ▶を押して微調整画面を表示し、▲/▼/◀/▶で好みの色合いに設定する。

色温度：◀でブルー（B)方向、▶でアンバー（A)方向に微調整できる。
カラーフィルター：▲でグリーン(G)方向、▼でマゼンタ(M)方向に微調整できる。

ご注意

- カラーメーターは、フィルムカメラ用のため、蛍光灯/ナトリウム灯/水銀灯の光源下では、異なった値になります。カスタムホワイトバランスの使用、または試し撮りをおすすめします。

カスタムホワイトバランス

複数の種類の光源で照明されている場合などで、より正確に白さを表現したいときは、カスタムホワイトバランスの使用をおすすめします。3つの設定を登録できます。

1 WBボタン → [SET] → マルチセレクターの中央を押す。

2 白く写したいものが中央部のフォーカスエリア付近を覆うようにカメラを構えてシャッターボタンを深く押し込む。

シャッター音がして、取り込んだ値（色温度とカラーフィルター）が表示される。

3 マルチセレクターの◀/▶で登録番号を選び、中央を押す。

登録したカスタムホワイトバランス値が設定された状態で、撮影情報画面に戻る。

- この操作で登録したカスタムホワイトバランス値は、次に別の値が登録されるまで保持される。

ご注意

- 「カスタムWB設定エラー」というメッセージが表示されたときは、値が想定外であることを表します（近距離でフラッシュを発光させた場合や、鮮やかな色の被写体に向けた場合など）。値は登録され、撮影情報画面の 表示が黄色になります。撮影はできますが、設定し直すことをおすすめします。

登録したカスタムホワイトバランスを呼び出すには

WBボタン → 希望のカスタム登録番号を選ぶ。

- マルチセレクターの▶を押すと、微調整画面が表示され、色合いを微調整できる。

ご注意

- シャッターボタンを押すときにフラッシュを発光させると、フラッシュ光でカスタムホワイトバランスが登録されます。呼び出したあとの撮影でもフラッシュを発光させて撮影してください。

画像サイズを変える

静止画：画像サイズ

MENUボタン → 📷1 → [画像サイズ] → 希望のサイズを選ぶ。

[横縦比]が3：2のとき

画像サイズ		用途例
L：24M	6000×4000画素	最高画質で撮影したいとき
M：10M	3936×2624画素	A3ノビサイズまでの印刷
S：4.6M	2640×1760画素	A5サイズまでの印刷

[横縦比]が16：9のとき

画像サイズ		用途例
L：20M	6000×3376画素	ハイビジョンテレビでの再生
M：8.7M	3936×2216画素	
S：3.9M	2640×1488画素	

[APS-Cサイズ撮影]が[入]のとき

	[横縦比]が3：2のとき		[横縦比]が16：9のとき	
L	L：10M	3936×2624画素	L：8.7M	3936×2216画素
M	M：4.6M	2640×1760画素	M：3.9M	2640×1488画素
S	S：2.0M	1728×1152画素	S：1.7M	1728×976画素

ご注意

- [画質]でRAW画像を選ぶと、RAW画像の画像サイズはL相当となります。画面に画像サイズは表示されません。
- DTレンズを使用すると、自動的に[APS-Cサイズ撮影]での画像サイズになります。

- APS-Cサイズ撮影時に[画像サイズ]が[S：2.0M]で撮影された画像は、拡大再生できません。

パノラマ：画像サイズ

スイング撮影の画像サイズを設定します。「撮影方向」(80ページ)によって、サイズが異なります。

MENUボタン → 1 → [パノラマ：画像サイズ] → 希望のサイズを選ぶ。

標準	撮影方向[上][下]：3872×2160 撮影方向[左][右]：8192×1856
ワイド	撮影方向[上][下]：5536×2160 撮影方向[左][右]：12416×1856

画像の横縦比と画質を設定する

横縦比

MENUボタン → 1 → [横縦比] → 希望の比率を選ぶ。

3：2	通常の横縦比率。
16：9	ハイビジョンテレビ比率。

ご注意

- 撮影モード「スイングパノラマ」時は設定できません。

画質

MENUボタン → 1 → [画質] → 希望の設定を選ぶ。

RAW（RAW）	ファイル形式：RAW（圧縮Raw形式で記録します） デジタル処理などの加工をしていないファイル形式。専門的な用途に合わせて、パソコンで加工するときに選ぶ。 • 画像サイズは常に最大サイズで固定され、画面には画像サイズは表示されない。
RAW+J （RAW+JPEG）	ファイル形式：RAW（圧縮Raw形式で記録します）＋JPEG 上記RAW画像とJPEG画像が同時に記録される。閲覧用にはJPEG画像、編集用にはRAW画像というように、両方の画像を記録したい場合に便利です。

<table>
<tr><td>X.FINE（エクストラファイン）</td><td rowspan="3">ファイル形式：JPEG
画像がJPEG形式で圧縮されて記録される。「X.FINE」、「FINE」、「STD」の順で圧縮率が大きくなり、データ量が少なくなる。1枚のメモリーカードに記録できる枚数は増えるが、画質は劣化する。</td></tr>
<tr><td>FINE（ファイン）</td></tr>
<tr><td>STD（スタンダード）</td></tr>
</table>

ご注意

- 撮影モード「スイングパノラマ」時は設定できません。

RAWについて

- 本機で撮影したRAW画像を開くにはCD-ROM（付属）の「Image Data Converter」が必要です。このソフトウェアを使えば、RAW画像を開いたあと、JPEGやTIFFのような一般的なフォーマットに変換したり、ホワイトバランス、彩度、コントラストなどを再調整することができます。
  - RAW形式の画像は、DPOF（プリント）指定はできません。
  - RAW形式の画像には、[オートHDR]、[ピクチャーエフェクト]を設定できません。
- 本機で撮影したRAW画像は、1ピクセルに対して14ビットの分解能を持っています。ただし、以下の撮影時は、12ビットの分解能に制限されます。
  - 長秒時ノイズリダクション
  - バルブ撮影
  - 連続撮影時（プレミアムおまかせオート時の複数枚連写なども含む）

顔を検出する

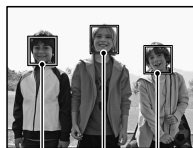
カメラが人物の顔を判別し、人物にあわせて、ピントや露出、画像処理、フラッシュの調整をします。

Fnボタン → (顔検出/スマイルシャッター) → 希望の設定を選ぶ。

(顔検出 切)	顔検出機能を使わない。
(顔検出 入(登録顔優先))	[個人顔登録]で登録した顔を優先して顔検出を行う(152ページ)。
(顔検出 入)	登録した顔を優先せずに顔検出を行う。
(スマイルシャッター)	笑顔を検出して自動撮影する。

顔検出枠について

顔を検出すると、灰色の顔検出枠が表示され、オートフォーカス可能と判断されると枠が白色になり、シャッターボタンを半押しすると緑色になります。

- シャッターを半押ししたときに、オートフォーカス可能エリアに顔が検出されないときは、ピントを合わせたフォーカスエリアが緑色に表示されます。
- 複数の顔を検出した場合は、優先的に調整する顔を自動で選択し、1か所の顔検出枠が白色になります。それ以外の登録されている顔の検出枠は赤紫色になります。

撮影のテクニック

- 顔検出枠とフォーカスエリアが重なるように構図を工夫する。

ご注意

- 撮影モード「スイングパノラマ」、「テレコン連続撮影優先AE」時は顔検出機能を使用できません。
- 最大8人の顔を検出できます。
- 状況によっては、顔が検出されなかったり、顔以外を誤検出することがあります。

個人顔登録

顔情報を登録しておくと、登録した顔を優先して顔検出を行うことができます。

1 MENUボタン → ✿6 → [個人顔登録] → [新規登録]を選ぶ。

2 登録したい顔をガイド枠内に合わせて、シャッターボタンを押して登録する顔を撮影する。

3 マルチセレクターの▲で[実行]を選び、中央を押す。

- 最大8人の顔を登録できる。
- 明るい場所で、正面を向いた顔を撮影する。帽子やマスク、サングラスなどで顔が隠れると、正しく登録できないことがある。

登録した顔の優先順を変更するには

複数の顔を登録したときは登録した順で優先順位が設定されます。優先順を変更することができます。

MENUボタン → ✿6 → [個人顔登録] → [優先順序変更] → 優先順を変更する顔と変更先を選ぶ。

登録した顔を削除するには

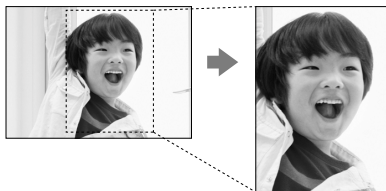
登録した顔を削除できます。

MENUボタン → ✿6 → [個人顔登録] → [削除] → 削除する顔を選ぶ。

- [全て削除]を選ぶと、すべての顔をまとめて削除できます。

ご注意

- [削除]を行っても、カメラ内に登録した顔のデータが残っています。カメラ内からも削除したい場合は、[全て削除]を行ってください。
- [設定値リセット]を行っても登録した顔は削除されません。

オートポートレートフレーミング

人物の顔を検出して撮影すると、自動的に最適な構図に切り出し（トリミング）された画像が記録されます。トリミング前の画像と、トリミングされた画像の2枚が記録されます。
トリミングされた画像は、オリジナル画像と同じ画像サイズで記録されます。

- ライブビュー中に切り出し可能になると、AUTO が緑に点灯する。
- 撮影後のオートレビューでは、トリミングされた領域を示す枠が表示される。

Fnボタン → AUTO（オートポートレートフレーミング）→ 希望の設定を選ぶ。

お買い上げ時は、[切]に設定されています。

ご注意

- 撮影モード「スイングパノラマ」、「テレコン連続撮影優先AE」、「動画」、シーンセレクションの[手持ち夜景]、[スポーツ]時は使用できません。
- 撮影状況によっては最適な構図でトリミングされない場合があります。
- [画質]が[RAW]、[RAW+JPEG]のときは設定できません。
- 連続撮影、連続ブラケット、[マルチショットノイズリダクション]、[オートHDR]、本体側のズーム、マニュアルフォーカス、ピクチャーエフェクトの[ソフトフォーカス]、[絵画調HDR]、[リッチトーンモノクロ]、[ミニチュア]時は使用できません。

スマイルシャッター

笑顔を検出すると自動で撮影します。

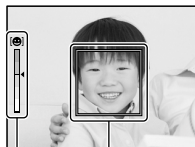
1 Fnボタン → (顔検出/スマイルシャッター) → [スマイルシャッター 入：普通の笑顔] → マルチセレクターの◀/▶で希望のスマイル検出感度を選ぶ。

(微笑み)、(普通の笑顔)、(大笑い)の3段階で、笑顔を検出する感度を変更できる。

- スマイルシャッター作動中は、画面にスマイル検出感度インジケーターが表示される。

2 笑顔を待つ。

笑顔を検出し、ピントが合い、スマイルレベルがインジケーターの◀を超えると、自動で撮影される。

- スマイルシャッターの対象となる顔を認識するとオレンジ色の顔検出枠が表示され、ピントの合っている顔検出枠が緑色になる。
- [オートポートレートフレーミング]を[オート]にしていると、最適な構図を決めて自動的にトリミングされる。

顔検出枠(オレンジ色)

スマイル検出感度インジケーター

3 終了するときは、Fnボタン → (顔検出/スマイルシャッター) → [スマイルシャッター]以外を選ぶ。

撮影のテクニック

- 笑顔にピントを合わせるには、顔検出枠とフォーカスエリアが重なるようにする。
- 前髪が目にかからないようにし、目は細めにする。
- 帽子やマスク、サングラスなどで顔が隠れないようにする。
- カメラに対して正面を向き、なるべく水平になるようにする。

- 口をあけてしっかり笑う。歯が見えているほうが笑顔を検出しやすくなる。
- スマイルシャッター中にシャッターボタンを押しても撮影できる。撮影後はスマイルシャッターに戻る。

ご注意

- 撮影モード「スイングパノラマ」、「テレコン連続撮影優先AE」、「動画」、シーンセレクションの[手持ち夜景]、マニュアルフォーカス時は使用できません。
- ドライブモードは[1枚撮影]または[リモコン]のみになります。
- スマイルシャッター使用時はAF補助光が作動しません。
- 笑顔が検出されない場合はスマイル検出感度を設定してください。
- 状況によっては笑顔が正しく検出できない場合があります。
- スマイルシャッター中に被写体追尾で顔を追尾させると、その顔だけがスマイル検出の対象になります（101ページ）。

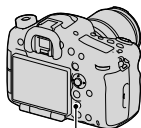
ズームする

レンズの光学ズームよりもさらにズームできます。

ワンプッシュでズームする（スマートテレコンバーター）

スマートテレコンバーターを使って画像の中央部分を拡大表示し、記録できます。

ボタンを押す。

• ズーム倍率は、ボタンを押すたびに、約1.4倍 → 約2倍 → オフに切り換わる。

ボタン

ズーム倍率によって、画像サイズは以下の設定値になります。

倍率	画像サイズ
約1.4倍	MまたはS
約2倍	S

ご注意

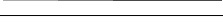
• 以下の場合は、スマートテレコンバーターは使用できません。
  – 撮影モード「スイングパノラマ」のとき
  – [画質]が[RAW]、[RAW+JPEG]のとき
• [ピント拡大]、[ズーム]機能にしている場合は、[スマートテレコンバーター]に戻してください（109、158ページ）。
• スマートテレコンバーター中は[測光モード]が[多分割測光]になります。
• 動画撮影中は、スマートテレコンバーターは使えません。

解像感を保ったままズームする（全画素超解像ズーム）

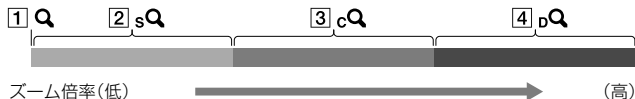
全画素超解像ズームを使うと、最大画素数のまま解像感を保持したままズームできます。
また、スマートズームやデジタルズームを併用すると、さらに倍率を上げることができます。

1 MENUボタン → ✿4 → ［スマートテレコンバーターボタン］ → ［ズーム］を選ぶ。

2 ⛶ ボタンを押す。

3 マルチセレクターの◀/▶で希望のズーム倍率まで拡大する。

- ▲/▼を押すと、より大きな設定幅で拡大できる。

本機で使用できるズーム

ズーム倍率によってモニターに表示されるアイコンが変わります。

1 🔍：本体側のズームなし（×1.0と表示される）。

2 s🔍 スマートズーム：画像を部分的に切り出して拡大する（画像サイズM、Sのときのみ）。

3 c🔍 全画素超解像ズーム：より高画質な画像処理により拡大する。

4 D🔍 デジタルズーム：画像処理により拡大する。

設定	画像サイズ	光学ズームに組み合わせるズーム倍率（上段フルサイズ撮影時/下段APS-C撮影時）	
画像を切り出せる範囲でズームする（画質は劣化しない）。 全画素超解像ズーム：切 デジタルズーム：切	L	ー	
	M	約1.5倍 約1.5倍	sQ
	S	約2.3倍 約2.3倍	sQ
画質を優先してズームする。 全画素超解像ズーム：入 デジタルズーム：切	L	約2倍 約2倍	cQ
	M	約3倍 約3倍	sQ cQ
	S	約4.5倍 約4.6倍	sQ cQ
ズーム倍率を優先してズームする。 全画素超解像ズーム：入 デジタルズーム：入	L	約4倍 約4倍	cQ DQ
	M	約6.1倍 約6倍	sQ cQ DQ
	S	約9.1倍 約9.1倍	sQ cQ DQ

ご注意

- 以下の場合は、本体側のズームは使用できません。
  - 撮影モード「スイングパノラマ」のとき
  - [画質]が[RAW]、[RAW+JPEG]のとき
- 以下の場合は、[全画素超解像ズーム]は使用できません。
  - 撮影モード「テレコン連続撮影優先AE」
  - ドライブモードが連続撮影、または連続ブラケットのとき
- 動画撮影中は、スマートズーム、[全画素超解像ズーム]は使えません。

- 本体側のズームを使用しているときは、[測光モード]が[多分割測光]になります。

全画素超解像ズームの設定を変更するには

お買い上げ時の設定は[入]になっています。

MENUボタン → 2 → [全画素超解像ズーム] → 希望の設定を選ぶ。

デジタルズームの設定を変更するには

お買い上げ時の設定は[切]になっています。画質が劣化しても画像を拡大したい場合は[入]にしてください。

MENUボタン → 2 → [デジタルズーム] → 希望の設定を選ぶ。

画像ノイズを減らす

長秒時ノイズリダクション

シャッタースピードを、1秒または1秒より遅くして撮影する（長時間露光）と、シャッターを開けていた時間と同時間のノイズ軽減処理をします。長時間露光時に目立つ粒状ノイズを軽減するためです。処理中はメッセージが表示され、撮影できません。画質を優先するには［入］を、撮影タイミングを優先するには［切］を選びます。

MENUボタン → 📷 2 → ［長秒時ノイズリダクション］ → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 撮影モード「スイングパノラマ」、「テレコン連続撮影優先AE」、連続撮影および連続ブラケット撮影、シーンセレクションの［スポーツ］、［手持ち夜景］、ISO感度が［マルチショットノイズリダクション］時は、［入］にしていてもノイズリダクションは行われません。
- 撮影モード「オートモード」、シーンセレクション時はノイズ軽減処理［切］の設定はできません。
- 撮影条件によっては、シャッタースピードが1秒以上でもノイズ軽減処理を行わない場合があります。

高感度ノイズリダクション

すべてのISO感度で作動しますが、特に高感度時に目立つノイズを効果的に低減します。通常は［標準］に設定されており、［弱］、［切］を選ぶこともできます。

MENUボタン → 📷 2 → ［高感度ノイズリダクション］ → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 撮影モード「オートモード」、「スイングパノラマ」、シーンセレクション時は設定できません。
- RAW画像にはノイズリダクションは行われません。

色空間を設定する

色を数値の組み合わせによって表現するための方法、あるいは表現できる色の範囲のことを色空間といいます。画像の用途によって色空間を変更できます。

MENUボタン → 3 → ［色空間］ → 希望の設定を選ぶ。

sRGB	デジタルカメラの標準となっている色空間。画像調整を行わずに印刷する場合など、一般的な撮影ではsRGBを使う。
AdobeRGB	より広い色再現範囲を持っている色空間。鮮やかな緑色や赤色の多い被写体をプリントする場合に効果がある。 • 撮影した画像のファイル名は、"_DSC"で始まる。

ご注意

- Adobe RGBは、カラーマネジメントおよびDCF2.0オプション色空間に対応したアプリケーションソフト、プリンター用です。非対応のソフト、プリンターでは、正しい色での表示、印刷ができないことがあります。
- Adobe RGBで撮影した画像は、Adobe RGB非対応機器で表示すると、低彩度となります。

動画撮影の設定

ここでは、動画の応用的な撮影方法を紹介します。

撮影のテクニック

- ピントを合わせてから、録画を開始する。
- 以下の設定は、静止画撮影のときの設定値を使える。
  ISO/ホワイトバランス/クリエイティブスタイル/露出補正/フォーカスエリア/測光モード/顔検出/被写体追尾/Dレンジオプティマイザー /レンズ補正(周辺光量) /レンズ補正(倍率色収差) /レンズ補正(歪曲収差) /ピクチャーエフェクト
- ISO、露出補正、被写体追尾、フォーカスエリアは撮影中に設定を変更できる。
- AELボタンまたはISOボタン、 AF/MFボタン、カスタムボタン、プレビューボタンに[AFロック]を割り当てると、オートフォーカスでの撮影中にボタンを押して、フォーカスを固定することができる。
- デジタルズームを使うと、動画撮影中でもズームできる(158ページ)。
- [HDMI情報表示]を[なし]にすると、動画記録中でも撮影情報表示なしで記録画像を出力できます(185ページ)。

ご注意

- 動画撮影時に手ブレ補正が[入]の場合は、静止画撮影時より撮影範囲(画角)が狭くなります。16:9の静止画と同じ画角で撮影するには、[手ブレ補正]を[切]にして撮影してください(64ページ)。
- 液晶モニターの表示がファインダー撮影用の場合、動画撮影を開始すると全情報表示に切り換わります。
- カメラを太陽など強い光源に向けて撮影しないでください。カメラの内部が故障する恐れがあります。
- AVCHD方式で記録した動画をパソコンに取り込むときは、「PlayMemories Home」を使用してください(212ページ)。
- 長時間、連続して撮影しつづけると、本機の温度が上昇し、画質が低下する場合があります。
- 絞りとシャッタースピードは自動で設定されるため、明るい環境下で高速

シャッターとなり、被写体の動きが滑らかに写らない場合があります。マニュアルフォーカスにして、絞りやシャッタースピードを調整することで、より滑らかに撮影できる場合があります（108ページ）。
- 動画撮影時のISO感度は、ISO100 ～ 6400まで選べます。ISO6400よりも大きい設定値の状態で動画撮影を始めると、ISO6400に切り換わります。ISO100よりも小さい設定値の状態で動画撮影を始めると、ISO100に切り換わります。動画撮影を終えると元の設定値に戻ります。
- ISO感度を[マルチショットノイズリダクション]に設定しているときは、一時的に[AUTO]になります。
- [ピクチャーエフェクト]の[ソフトフォーカス]、[絵画調HDR]、[リッチトーンモノクロ]、[ミニチュア]は設定できません。動画撮影が開始されると一時的に[切]になります。

動画撮影時のオートフォーカスの追従感度を変更する

動きの早い被写体を撮影するときは[高]を、多くの被写体が交差するときは[低]を選ぶと便利です。

MENUボタン → 動画1 → [AF追従感度] → 希望の設定を選ぶ。

絞りとシャッタースピードを設定して動画を撮影する

絞りやシャッタースピードを設定して、背景のぼかし具合や流動感を思い通りにコントロールした動画を撮影できます。

1 Fnボタン → AF-S（フォーカスモード）→ MF（マニュアルフォーカス）を選ぶ（108ページ）。

2 モードダイヤルを 動画（動画）にする（72ページ）。
- 他のモードにするときは、Fnボタンを押して選び直す。

3 前/後ダイヤルで絞り値とシャッタースピードを設定する。

- サイレントマルチコントローラーに[シャッタースピード]または[絞り]が設定されている場合は、サイレントマルチコントローラーでも設定できる(32ページ)。

4 ピントを合わせ、MOVIE(動画)ボタンを押して、撮影する。

P(プログラムオート)(82)	露出(シャッタースピードと絞り)は本機が自動設定するが、その他の調整は自分で調整でき、設定した値は保持される。
A(絞り優先)(83)	絞りを前/後ダイヤルで手動設定する。
S(シャッタースピード優先)(85)	シャッタースピードを前/後ダイヤルで手動設定する。
M(マニュアル露出)(86)	露出(シャッタースピードと絞り)を前/後ダイヤルで手動設定する。

オートスローシャッターについて

[オートスローシャッター]を[入]にすると、暗いところまでノイズを抑えた撮影ができます。
[切]にすると暗いところでは[入]のときよりも画像が暗くなりますが、被写体のブレが少なく、動きがよりなめらかに撮影できます。

MENUボタン → 1 → [オートスローシャッター] → 希望のモードを選ぶ。

ご注意

- 撮影モードが「M」「S」以外でISO感度が[AUTO]のときのみ有効です。

記録方式

MENUボタン → 1 → [記録方式] → 希望のモードを選ぶ。

AVCHD	AVCHD規格の60i動画、24p動画、60p動画を記録する。ハイビジョンテレビで見るために適した記録方式。 付属のソフトウェア「PlayMemories Home」を使ってブルーレイディスク、またはAVCHDディスク、DVD-Videoディスクを作成できる。 • 60iは、約60フィールド/秒、インターレース、Dolby Digital音声、AVCHD方式で記録される。 • 24pは、約24フレーム/秒、プログレッシブ、Dolby Digital音声、AVCHD方式で記録される。 • 60pは、約60フレーム/秒、プログレッシブ、Dolby Digital音声、AVCHD方式で記録される。
MP4	mp4(AVC)動画を記録する。WEBアップロードやメールに適した記録方式。 • MPEG-4、約30フレーム/秒、プログレッシブ、AAC音声、mp4形式で記録される。 • [記録方式]を[MP4]にして撮影した動画からは付属のソフトウェア「PlayMemories Home」を使っても、ディスクを作成することはできません。

記録設定

平均ビットレートが高いほど、画質は向上します。

MENUボタン → 1 → [記録設定] → 希望の設定を選ぶ。

[記録方式]が[AVCHD]のとき

記録設定	ビットレート	説明
60i 24M（FX）	最大24 Mbps	1920×1080（60i)の高画質で撮影する。
60i 17M（FH）	平均約17 Mbps	1920×1080（60i)の標準画質で撮影する。
60p 28M(PS)	最大28 Mbps	1920×1080（60p)の最高画質で撮影する。
24p 24M(FX)	最大24 Mbps	1920×1080（24p)の高画質で撮影する。映画のような雰囲気で記録できる。
24p 17M（FH）	平均約17 Mbps	1920×1080（24p)の標準画質で撮影する。映画のような雰囲気で記録できる。

[記録方式]が[MP4]のとき

記録設定	平均ビットレート	説明
1440×1080 12M	約12 Mbps	1440×1080で撮影する。
VGA 3M	約3 Mbps	VGAサイズで撮影する。

ご注意

- [記録設定]を[60p 28M（PS)]または[60i 24M（FX)]、[24p 24M（FX)]にして撮影した動画は、「PlayMemories Home」でのAVCHDディスク作成時に変換され、そのままの画質でディスクを作成することはできません。変換には時間がかかります。そのままの画質で保存したいときは、ブルーレイディスクに保存してください。
- 60p、24pの動画をテレビで見るときは、60p、24pに対応したテレビが必要です。対応していないテレビの場合、60iとして出力されます。

録音レベル

レベルメーターを見ながら録音レベルを調整できます。

MENUボタン → 2 → [録音レベル] → マルチセレクターの◀/▶で希望のレベルを選ぶ。

＋側：録音レベルが上がる。
－側：録音レベルが下がる。
リセット：録音レベルを初期値に戻す。

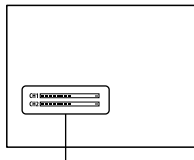
撮影のテクニック

- ヘッドホンをつけて、レベルを確認しながら操作する。
- 大きな音を撮影し続ける場合は、レベルを低めに設定すると臨場感のある音声が記録できる。小さな音を撮影し続ける場合は、レベルを高めに設定することで聞きやすい音声を記録できる。

ご注意

- 録音レベルの設定値に関わらず、リミッターは常に作動しています。
- 撮影モード「動画」時のみ選べます。
- 録音レベルの調整は、内蔵マイクと（マイク）端子入力に対して有効です。

音声レベル表示

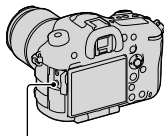
音声レベルを画面に表示するかどうかを選びます。

音声レベル

MENUボタン → 2 → [音声レベル表示] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 以下の場合は音声レベルが表示されません。
  - [音声記録]が[切]のとき
  - 画面表示が[情報表示なし]になっているとき
- 撮影モードは「動画」にしてください。動画時のみ、記録前に音声レベルの表示ができます。

音声出力をヘッドホンで確認する

1 ∩（ヘッドホン）端子にヘッドホンをつなぐ。

∩（ヘッドホン）端子

2 モードダイヤルを 🎞（動画）にする。

動画記録時や再生時の音声を確認できる。

音声出力タイミング

ヘッドホン使用時、撮影時のエコー対策を設定できます。

MENUボタン → 🎞2 → [音声出力タイミング] → 希望の設定を選ぶ。

ライブ	動画録音時の音を遅延なしで出力する。音声モニタリング時、音のずれが気になるときに選択する。
リップシンク	動画撮影時に映像と音声を同期させて出力する。映像と音声のずれによる違和感を防ぐ。

音声の記録について

動画撮影中はカメラやレンズの作動音、操作音などが記録されてしまうことがあります。音声を記録しないように設定できます。

MENUボタン → 2 → ［音声記録］ → ［切］を選ぶ。

風音を低減するには

内蔵マイクからの入力音声の低域音をカットして、風音を低減できます。

MENUボタン → 2 → ［風音低減］ → ［入］を選ぶ。

ご注意

- ［入］に設定すると低い音の一部も低減されてしまう場合があります。風音がない場合は［切］にしてください。
- 別売りのマイク使用時は効果が得られません。

カメラの操作音を記録しないようにするには

サイレントマルチコントローラーを使うと、前ダイヤル、後ダイヤルを使わないでも設定の変更ができます（32ページ）。

MENUボタン → 1 → ［サイレントコントローラーの機能］ → 設定したい機能を選ぶ。

また、フォーカスモードをマニュアルフォーカスにすると、オートフォーカスの作動音を記録しないようにできます（108ページ）。

再生時の機能を使う

再生するメモリーカードを選ぶ

MENUボタン → ▶ 2 → [再生メディア選択] → 希望のスロットを選ぶ。

ご注意

- 選択しているスロットにメモリーカードが入っていない場合、何も再生されません。メモリーカードが入っているスロットを選択してください。

静止画と動画を切り換える(ビューモード)

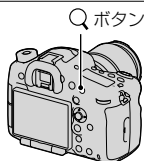
静止画を再生するか、動画を再生するかを選びます。

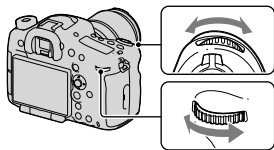
MENUボタン → ▶ 1 → [静止画/動画切換] → 希望のモードを選ぶ。

フォルダービュー(静止画)	静止画のみをフォルダーごとに表示する。
フォルダービュー(MP4)	動画(MP4)のみをフォルダーごとに表示する。
AVCHDビュー	AVCHD動画のみを表示する。

拡大して見る

静止画再生中に、画像の一部を拡大できます。写真のピントの具合を確認したいときなどに使います。

1 拡大したい画像を表示して、🔍 ボタンを押す。

2 後ダイヤルで希望の大きさに拡大する。

- 前ダイヤルを回すと、同じ拡大倍率のまま、前後の画像に切り換えられる。同じ構図で複数枚撮ったとき、ピントの合い具合を比較できる。

3 マルチセレクターの▲/▼/◀/▶で、拡大表示する場所を選ぶ。

拡大再生を終了するには

マルチセレクターの中央を押すと、拡大前の画像に戻ります。

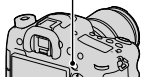
ご注意

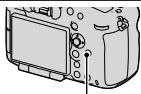
- APS-Cサイズ撮影時に［画像サイズ］が［S：2.0M］で撮影された画像は、拡大再生できません。

一覧表示で見る

再生時、同時に複数の画像を表示できます。

1 ボタンを押す。

一覧表示画面になる。

2 DISPボタンを繰り返し押して、希望の表示枚数画面を選ぶ。

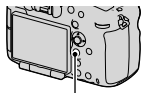
- 4画面→9画面の順に切り換わる。

1枚再生画面表示に戻るには

表示したい画像を選んでいる状態で、マルチセレクターの中央を押します。

希望のフォルダーを表示するには

マルチセレクターで左側のバーを選び、▲/▼で希望のフォルダーを選びます。また、左側のバーを選んでマルチセレクターの中央を押すと、静止画・動画の再生を切り換えることができます（171ページ）。

回転

1 回転したい画像を表示して、⤺ ボタンを押す。

2 マルチセレクターの中央を押す。

画像が左へ回転する。さらに回転させたいときは、手順2を繰り返す。

- 回転した画像は、本機の電源を切ったあとも、回転された状態のまま保持される。

通常再生画面に戻るには

もう一度 ⤺ ボタンを押します。

ご注意

- 動画は回転できません。
- パソコンに取り込んだ画像は、CD-ROM（付属）内の「PlayMemories Home」では、正しく回転された状態で表示されます。使用するソフトウェアによっては回転していない状態で表示されることがあります。

スライドショー

MENUボタン → ▶ 1 → [スライドショー] → [実行] を選ぶ。

撮影した画像を順番に表示する。全画像の表示が終わると自動的に終了する。

- スライドショー再生中に、マルチセレクターの◀/▶で、画像を戻す/送ることができる。
- 一時停止はできない。

途中で終了するには

マルチセレクターの中央を押します。

画像を切り換える間隔を変更するには

MENUボタン → ▶ 1 → [スライドショー] → [間隔設定]→希望の秒数を選ぶ。

繰り返し再生するには

MENUボタン → ▶ 1 → [スライドショー] → [リピート] → [入]を選ぶ。

3D画像を再生するには

HDMIケーブル(別売)で3D対応テレビと接続すると、3D画像を自動再生してお楽しみ頂けます。
テレビの取扱説明書も合わせてご覧ください。

MENUボタン → ▶ 1 → [スライドショー] → [画像種別] → [3Dのみ(3D表示)]を選ぶ。

ご注意

- 本機では3D画像を撮影することはできません。

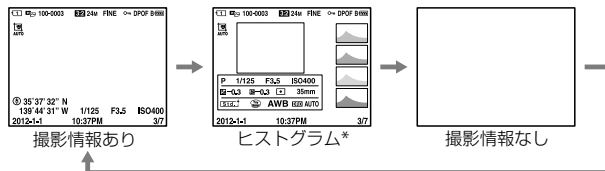
縦記録画像の再生

縦位置で撮影した画像を再生するときの向きを設定できます。

MENUボタン → ▶ 2 → [縦記録画像の再生] → 希望の設定を選ぶ。

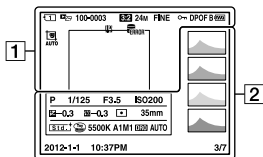
再生時の画面表示について

再生時の画面表示の切り換え

DISPボタンを押すたびに、下記のように画面表示が切り換わります。

* 画像に白とびまたは黒つぶれの箇所がある場合、ヒストグラム画面の画像の該当箇所が点滅します（白とび黒つぶれ警告）。

ヒストグラム表示時の画面表示一覧

［撮影情報あり］の画面表示については24ページをご覧ください。

1

表示	意味
1 2	メモリーカード（55、248）
	ビューモード（171）
100-0003	フォルダー番号−ファイル番号（219）

表示	意味
3:2 16:9	静止画の画像横縦比（149）

表示	意味
24M 10M 4.6M 20M 8.7M 3.9M 10M 4.6M 2.0M 8.7M 3.9M 1.7M WIDE STD	静止画の画像サイズ（147）
RAW RAW+J X.FINE FINE STD	静止画の画質（149）
	プロテクト（178）
DPOF	DPOF（プリント）指定（179）
	バッテリー残量警告（57）
B 1 2 100%	バッテリー容量（57）
FULL ERROR	管理ファイルフル警告（237）/管理ファイルエラー警告（237）
	温度上昇警告（13）

2

表示	意味
	ヒストグラム（94）
P A S M	撮影モード（72）
1/125	シャッタースピード（85）
F3.5	絞り値（83）
ISO200	ISO感度（133）
–0.3	露出補正（113）
–0.3	調光補正（129）
	測光モード（116）
35mm	レンズ焦点距離
Std. Vivid Ntrl Clear Deep Light Port. Land. Sunset Night Autm B/W Sepia	クリエイティブスタイル（140）
Toy Norm Pop Pos Pos Rtro SftH key Part R Part G Part B Part Y HC BW Soft Mid Pntg Mid Rich BW Mini AUTO	ピクチャーエフェクト（138）
AWB –1 0 +1 +2 WB 5500K A1 M1	ホワイトバランス（オート、プリセット、色温度、カラーフィルター、カスタム）（143）
D-R OFF DRO HDR HDR !	Dレンジオプティマイザー（135）/オートHDR/オートHDR画像警告（136）
2012 -1 - 1 10:37PM	撮影日時
3/7	画像番号/ビューモード内画像枚数

保護する(プロテクト)

画像を誤って消さないように保護(プロテクト)します。

1 MENUボタン → ▶ 1 → [プロテクト] → [画像選択]を選ぶ。

2 マルチセレクターの◀/▶で保護したい画像を選んで、中央を押す。

チェックボックスに ✔ マークが付く。

- 解除するときは、もう一度中央を押す。

3 他の画像も保護するときは、手順2を繰り返す。

- 一覧表示のときに、画面左側のバーを選んで、フォルダー内の画像をまとめて選択することもできる。

4 MENUボタンを押す。

5 ▲で[確認]を選び、マルチセレクターの中央を押す。

画像の保護をまとめて解除するには

表示しているフォルダーごとに画像の保護をまとめて解除します。

MENUボタン → ▶ 1 → [プロテクト] → [静止画全て解除]または[動画(MP4) 全て解除]、[AVCHDビュー動画全て解除]を選ぶ。

プリント指定する

DPOF指定する

撮影した静止画を、ご自分のプリンターでプリントする場合やプリント店に依頼する際に、あらかじめどの画像をプリントするかを指定しておくことができます。
指定方法は、下記の手順をご覧ください。
DPOF指定は、印刷後も残ったままとなります。印刷が終了したあとは、解除することをおすすめします。

1 MENUボタン → ▶ 1 → [プリント指定] → [DPOF指定] → [画像選択]を選ぶ。

2 マルチセレクターの◀/▶で画像を選び、中央を押す。

3 マルチセレクターの中央を押して ✓ マークをつける。

- プリント指定を解除するときは、もう一度画像を選んで中央を押す。

4 MENUボタンを押す。

5 マルチセレクターの▲で[確認]を選び、中央を押す。

ご注意

- RAW画像にはDPOF指定はできません。
- 枚数指定はできません。

日付を入れる

プリントする際に、プリンター側で日付を入れることができます。日付の入る場所（画面内/画面外、サイズなど）は、お使いのプリンターによって異なります。

MENUボタン → ▶ 1 → [プリント指定] → [日付プリント] → [入]を選ぶ。

ご注意

- プリンターによっては、この機能に対応していないものもあります。

コピーする

[再生メディア選択]で選ばれているメモリーカードから、もう一方のスロットに入っているメモリーカードに画像をコピーできます。
コピーは、ビューモード単位で可能です（171ページ）。

MENUボタン → ▶ 2 → [コピー]を選ぶ。

ご注意

- 画像が多いとコピーに時間がかかる場合があります。充分に充電したバッテリーをお使いください。

削除する

不要な画像を選んで削除したり、まとめて削除できます。
一度削除した画像は、元に戻せません。削除してよいか、事前に確認してください。

ご注意

- プロテクトされている画像は削除できません。

画像選択削除

1 MENUボタン → ▶ 1 → [削除] → [画像選択]を選ぶ。

2 マルチセレクター で削除したい画像を選び、中央を押す。

チェックボックスに ✓ マークが付く。
- 解除するときは、もう一度中央を押す。

合計枚数

3 他の画像も削除するときは、手順2を繰り返す。

- 一覧表示のときに、画面左側のバーを選んで、フォルダー内の画像をまとめて選択することもできる。

4 MENUボタンを押す。

5 マルチセレクターの▲で[確認]を選び、中央を押す。

ビューモード内のすべての画像を削除する

表示しているビューモード内のすべての画像を削除します。

1 MENUボタン → ▶ 1 → [削除] → [フォルダー内全て]または[AVCHDビュー動画全て]を選ぶ。

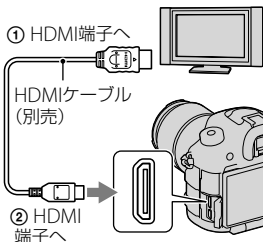
2 マルチセレクターの▲で[削除]を選び、中央を押す。

希望のフォルダーを表示するには

マルチセレクターで左側のバーを選び、▲/▼で希望のフォルダーを選びます。

テレビで見る

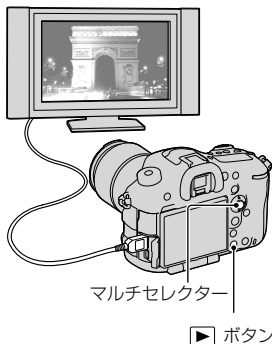
本機の画像をテレビで見るには、HDMIケーブル（別売）と、HDMI端子のあるハイビジョンテレビが必要です。

1 電源を切った状態で、本機とテレビを接続する。

2 テレビの電源を入れ、入力を切り換える。

- テレビの取扱説明書も合わせてご確認ください。

3 本機の電源を入れて、▶ ボタンを押す。

撮影した画像がテレビに表示される。
マルチセレクターの◀/▶で画像を選ぶ。

- 本機の液晶モニターは点灯しない。

ご注意

- HDMIケーブルはHDMIロゴがついているものをお使いください。
- 本機側はHDMIミニ端子、テレビ側はテレビの端子にあったタイプのHDMIケーブルをお使いください。

- テレビに正しく画面が表示されない場合は、セットアップメニューの[HDMI解像度]を接続するテレビに合わせて、[1080p]または[1080i]にしてください。
- 一部の機器では正常に動作しない場合があります。
- 本機と接続機器の出力端子同士を接続しないでください。故障の原因になります。

“ブラビア プレミアムフォト”について

本機は“ブラビア プレミアムフォト”に対応しています。
“ブラビア プレミアムフォト”に対応したソニー製テレビにHDMIケーブルで接続出力すると、写真を今までになかった感動のFull HD高画質で快適にお楽しみいただけます。
“ブラビア プレミアムフォト”対応のUSB端子つきソニー製テレビでは、付属のUSBケーブルでも接続できます。
“ブラビア プレミアムフォト”とは、写真らしい高精細で微妙な質感や色あいの表現を可能にする機能です。

HDMI情報表示

HDMIケーブル(別売)で本機とテレビを接続したとき、情報表示なしの画像をテレビに表示し、情報表示のある画像を本機の液晶モニターに表示します。

1 MENUボタン → 2 → [HDMI情報表示] → [なし]を選ぶ。

2 本機とテレビを接続する(184ページ)。

撮影している画像が、情報表示なしでテレビに表示される。
本機の液晶モニターには画像情報が入った状態で表示される。

ブラビアリンク

本機とブラビアリンクに対応のテレビをHDMIケーブルでつなぐと、テレビのリモコンで操作できます。

1 ブラビアリンクに対応したテレビと本機を接続する(184ページ)。

テレビの入力が自動で切り換わり、本機の画像が表示される。

2 リモコンの「リンクメニュー」ボタンを押す。

3 リモコンのボタンで操作する。

リンクメニューの項目

スライドショー	自動再生する。
一枚表示	1枚表示画面に戻る。
一覧表示	一覧表示画面にする。
静止画/動画切換	静止画を再生するか、動画を再生するかを選ぶ。
削除	画像を削除する。

ご注意

- HDMIケーブルで本機とテレビを接続する場合、操作できる項目が制限されます。
- 2008年以降に発売された「ブラビアリンク(リンクメニュー対応)」に対応したテレビで使用できます。また、リンクメニュー操作はお使いのテレビによって異なります。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- 他社のテレビとHDMI接続する場合、テレビのリモコン操作で本機が不要な動きをする場合は、🔧セットアップメニューの[HDMI機器制御]を[切]にしてください。

本体の設定を変更する

レンズなし時のレリーズ

本機を天体望遠鏡に取り付ける場合などは、レンズを取り付けていない状態でもシャッターを切れるように設定します。

MENUボタン → ✿1 → [レンズなし時のレリーズ] → [許可]を選ぶ。

ご注意

- 天体望遠鏡など、レンズ信号接点を持たないレンズをお使いの場合は、正確な測光が行えません。撮影結果を見て、手動で露出を合わせてください。

グリッドライン

構図合わせのための補助線であるグリッドライン表示を設定します。動画の撮影可能範囲も表示されます。

MENUボタン → ✿2 → [グリッドライン] → 希望の設定を選ぶ。

オートレビュー

撮影直後に、撮影した画像を確認することができます。その表示時間を変更できます。

MENUボタン → ✿2 → [オートレビュー] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- [縦記録画像の再生]が[縦向き]になっていても、オートレビュー時は縦方向で表示されません（175ページ）。
- オートレビュー時は、[レンズ補正（歪曲収差）]などの画像処理前の画像を最初に表示したあとに、処理後の画像を表示することがあります。

AELボタンの機能

AELボタンを押して固定した測光値を、AELボタンを押している間だけ保持するか（[押す間AEL]）、もう一度AELボタンを押すまで保持するか（[再押しAEL]）を設定できます。また、[押す間スポットAEL]/[再押しスポットAEL]を選ぶと、スポット測光での露出で固定されます（116ページ）。

MENUボタン → ✿4 → [AELボタンの機能] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 測光値がロックされている間は、液晶モニター/ファインダー内に ✱ が点灯します。解除し忘れのないようにしてください。
- ここでの「押す間」、「再押し」設定は、マニュアルモードでのマニュアルシフト（88ページ）にも影響します。
- パワーセーブや再生したあとなどには、[再押しAEL]で固定した測光値は解除されます。

AELボタンに他の機能を割り当てるには

AELボタンには、AEL機能の他に以下の機能を割り当てることができます。
露出補正/ドライブモード/フラッシュモード/フォーカスモード/フォーカスエリア/顔検出/スマイルシャッター/オートポートレートフレーミング/ISO感度/測光モード/調光補正/ホワイトバランス/DRO/オートHDR/クリエイティブスタイル/ピクチャーエフェクト/画像サイズ/画質/登録/押す間FELロック/再押しFELロック/被写体追尾/押す間AF/MFコントロール/再押しAF/MFコントロール/AFロック/AFオン/絞りプレビュー/撮影結果プレビュー/ピント拡大

ISOボタン、AF/MFボタン、プレビューボタンの機能

ISOボタン、AF/MFボタン、プレビューボタンには、他の機能を割り当てることもできます。

割り当てることのできる機能は［AELボタンの機能］と同じです（188ページ）。

MENUボタン → ✿4 → ［ISOボタンの機能］または［AF/MFボタンの機能］、［プレビューボタンの機能］ → 希望の設定を選ぶ。

カスタムキーの機能

お買い上げ時、カスタムボタンにはFELロックが割り当てられています（131ページ）が、他の機能を割り当てることもできます。
割り当てることのできる機能は、［AELボタンの機能］と同じです。

MENUボタン → ✿4 → ［カスタムキーの機能］ → 希望の設定を選ぶ。

電子先幕シャッター

電子先幕シャッターを使うと、短いレリーズタイムラグで撮影できます。

MENUボタン → ✿6 → ［電子先幕シャッター］ → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 大口径レンズを装着して、高速のシャッタースピードで撮影する場合、被写体や撮影環境によってボケ像が欠けることがあります。その場合は「切」に設定してお使いください。
- ミノルタ/コニカミノルタ製レンズを使用するときは［切］に設定してお使いください。
- 高速のシャッタースピードで撮影する場合、撮影条件によっては画面の明るさにムラが出ることがあります。その場合は［切］にしてお使いください。

モニター明るさ

本機は明るさセンサー（18ページ）により、周囲の明るさに合わせて、液晶モニターの明るさを自動調整します。
これを手動で変えたり、晴天時の屋外に最適な明るさにできます。

MENUボタン → 🔧1 → [モニター明るさ] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- [オート]設定時は、明るさセンサーを手などでおおわないようにしてお使いください。
- [オート]設定時にACアダプター AC-PW10AM（別売）を使うと、モニターの明るさは常に一番明るい設定になります。
- 室内で[屋外晴天]にすると明るすぎるため、室内での使用時は[オート]か[マニュアル]に設定してください。

ファインダー明るさ

本機は、被写体の明るさに合わせてファインダーの明るさを自動調整します。
これを手動で変えることもできます。

MENUボタン → 🔧1 → [ファインダー明るさ] → [マニュアル] → 希望の設定を選ぶ。

パワーセーブ

操作していないときにパワーセーブ（省電力）モードになるまでの時間を短くしてバッテリーの消耗を防ぎます。パワーセーブ時でも、シャッターボタン半押しなどの操作をすれば、撮影が再開できます。また一定時間操作しないと、モニターの明るさが暗くなります。

MENUボタン → 🔧2 → [パワーセーブ] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- ACアダプター AC-PW10AM（別売）使用時は、[強]に設定できません。

パワーセーブまでの時間を変更するには

自動的にパワーセーブになるまでの時間を設定できます。

MENUボタン → 🔧2 → [パワーセーブ開始時間] → 希望の時間を選ぶ。

ご注意

- テレビ接続時またはドライブモードが[リモコン]のときはパワーセーブモードになりません。
- [強]に設定すると、[パワーセーブ開始時間]の設定が[10秒]になります。

FINDER/LCD切換設定

液晶モニター表示とファインダー表示の自動切り換えを無効にして、FINDER/LCD切り換えボタンのみでの切り換えに設定できます。

MENUボタン → ⚙1 → [FINDER/LCD切換設定] → [マニュアル]を選ぶ。

APS-Cサイズ撮影

本機は35mmフルサイズに対応していますが、APS-Cサイズでの撮影も可能です。[入]にすると、どのレンズを使ってもAPS-Cサイズで記録されます。
DTレンズ装着時は、自動的にAPS-Cサイズ撮影になります。

MENUボタン → 🔧3 → [APS-Cサイズ撮影] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- [APS-Cサイズ撮影]を[入]にすると、画像サイズも自動的に変わります（147ページ）。

レンズ補正を設定する

レンズの周辺光量低下、倍率色収差、歪曲収差を自動で補正します（自動補正対応レンズのみ）。自動補正対応レンズは、専用サポートサイトでご確認ください。
http://www.sony.co.jp/DSLR/support/

レンズ補正（周辺光量）

使用するレンズによって画面の周辺部が暗くなる場合に、自動で光量を補正します。
お買い上げ時の設定は［オート］になっています。

MENUボタン → ✿6 → ［レンズ補正（周辺光量）］ → 希望の設定を選ぶ。

レンズ補正（倍率色収差）

使用するレンズによって画面周辺部で色ずれが起こる場合に、自動で色ずれを補正します。
お買い上げ時の設定は［オート］になっています。

MENUボタン → ✿6 → ［レンズ補正（倍率色収差）］ → 希望の設定を選ぶ。

レンズ補正（歪曲収差）

使用するレンズによって画面の歪みが起こる場合に、自動で歪みを補正します。
お買い上げ時の設定は［切］になっています。

MENUボタン → ✿6 → ［レンズ補正（歪曲収差）］ → 希望の設定を選ぶ。

メモリーカードへの記録方法を設定する

記録モード

スロット1、2両方のメモリーカードに同時に記録したり、画像によって記録先を変えたりできます。お買い上げ時の設定は［標準］になっています。

MENUボタン → 1 → ［記録モード］ → 希望の設定を選ぶ。

標準	［記録メディア選択］（56ページ）で選んだスロットに入っているメモリーカードにのみ記録する。
同時記録（静止画のみ）	［記録メディア選択］の設定に関わらず、静止画は両方のスロットに入っているメモリカードに記録される。動画は［記録メディア選択］で選んだスロットに入っているメモリーカードに記録される。両方のメモリーカードに記録される静止画のファイルは、同じ番号の記録フォルダーに同じファイル番号で保存される。
同時記録（動画のみ）	［記録メディア選択］の設定に関わらず、動画は両方のスロットに入っているメモリカードに記録される。静止画は［記録メディア選択］で選んだスロットに入っているメモリーカードに記録される。両方のメモリーカードに記録されるMP4動画のファイルは、同じ番号の記録フォルダーに同じファイル番号で保存される。
同時記録（静止画動画）	静止画・動画ともに、両方のメモリーカードに記録される。
振り分け（JPEG/RAW）	JPEGデータは［記録メディア選択］で選んだメモリーカードに記録され、RAWデータはもう一方のメモリーカードに記録される。

振り分け(静止画/動画)	静止画は[記録メディア選択]で選んだメモリーカードに記録され、動画はもう一方のメモリーカードに記録される。

ご注意

- 動画を同時記録するときは、下記のいずれかのメモリーカードが必要です。
  - UHS-I（UHSスピードクラス1）規格対応のSDカード
  - Class10以上のSDカード
  - “メモリースティック PRO-HG デュオ”
- 同時記録の場合、記録に時間がかかる場合があります。
- 同時記録または[振り分け(JPEG/RAW)]のとき、一方のスロットにメモリーカードがないなどの理由で記録できない場合、どちらのメモリーカードにも記録されません。

フォーマット

フォーマットすると、プロテクトしてある画像も含めて、すべてのデータが削除され、元に戻せません。

MENUボタン → ▬1 → [フォーマット] → スロットを選ぶ → [実行]を選ぶ。

ご注意

- フォーマット中はアクセスランプが点灯します。点灯中はメモリーカードを抜かないでください。
- メモリーカードのフォーマットは、本機で行ってください。パソコンでメモリーカードのフォーマットを行うと、フォーマットの形式によってはメモリーカードが使えなくなることがあります。
- メモリーカードによっては、フォーマットに数分かかる場合があります。
- バッテリー残量が1%以下のときは、フォーマットできません。

ファイル番号

MENUボタン → 1 → [ファイル番号] → 希望の設定を選ぶ。

連番	ファイル番号をリセットせず、9999までファイル番号を続ける。
リセット	新規のフォルダーにファイルを記録する場合にはファイル番号をリセットし、0001から番号を付ける。同一フォルダー内にファイルが存在している場合は、その続きから始まる。

ご注意

- [設定値リセット]を行うと、ファイル番号はリセットされます。

フォルダー形式

撮影した静止画は、メモリーカードの中のDCIMフォルダーの下に自動生成されたフォルダーに保存されます。

MENUボタン → 1 → [フォルダー形式] → 希望の設定を選ぶ。

標準形式	フォルダー名が、フォルダー番号＋MSDCFになる。 例：100MSDCF
日付形式	フォルダー名が、フォルダー番号＋年月日(西暦下1桁月日4桁)になる。 例:10020405（100フォルダー、2012年4月5日）

ご注意

- MP4動画のフォルダー形式は「フォルダー番号＋ANV01」で固定されます。

記録フォルダー選択

標準形式フォルダーを選択中でフォルダーが2つ以上存在する場合、撮影した画像を保存するフォルダー（記録フォルダー）を選べます。

MENUボタン → 1 → [記録フォルダー選択] → 希望のフォルダーを選ぶ。

ご注意

- 日付形式フォルダー設定中は、記録フォルダーの選択はできません。
- 同時記録時や振り分け時は、両方のメモリーカードの共通フォルダーしか選べないことがあります。共通フォルダーがない場合は、[フォルダー新規作成]で作成できます。

フォルダー新規作成

メモリーカードの中に、新しいフォルダーを作成します。
既存番号＋1のフォルダーが作成されます。次に撮影する画像は新しく作成したフォルダーに記録されます。静止画用のフォルダーとMP4動画用のフォルダーが同時に作成されます。

MENUボタン → 1 → [フォルダー新規作成]を選ぶ。

ご注意

- [記録モード]が[標準]以外のときは、両方のスロットに入っているメモリーカードの既存番号+1が両方のメモリーカードに作成されます。
- [記録モード]を[標準]以外に設定して撮影すると、自動的に新しいフォルダーが作成される場合があります。
- 他機で使用していたメモリーカードを本機に入れて撮影すると、自動的に新しいフォルダーが作成される場合があります。
- 1つのフォルダー番号に記録できる画像は最大4000枚です。容量を超えると、自動的に新しいフォルダーが作成される場合があります。

管理ファイル修復

パソコンでファイルを操作したなどの原因で、画像を管理しているファイルに何らかの異常が発生すると、メモリーカード内の画像が再生できなくなります。
そのような場合に管理ファイルの修復を行います。

MENUボタン → 2 → [管理ファイル修復] → スロットを選ぶ → [実行]を選ぶ。

ご注意

- 充分に充電したバッテリーをお使いください。残量の少ないバッテリーを使用して行うと、データを破損するおそれがあります。

アップロード設定(Eye-Fi)

市販のEye-Fiカードを使って、アップロード機能を使うことができます。
Eye-Fiカードが本機のメモリーカードスロット1に入っているときのみ自動アップロード機能の設定メニューが表示されます。

MENUボタン → 3 → [アップロード設定] → [入]を選ぶ。

通信状態の画面表示

	待機中で、送信画像が無い
	アップロード待機中
	接続中
	アップロード中
	エラー発生

ご注意

- 通信状態の画面表示は、[記録モード]を[標準]にしているときのみ表示されます。

- Eye-Fiカードはご使用の前に、無線LANアクセスポイントや転送先を設定してください。詳しくはEye-Fiカードに付属の取扱説明書をご覧ください。
- Eye-Fiカードはアメリカ、カナダ、日本、EUの一部の国で販売しています（2012年6月現在）。
- Eye-Fiカードに関する問い合わせは、その製造者・販売者に直接ご確認ください。
- Eye-Fiカードはご購入された国のみで使用が認められています。使用する国の法律に従ってお使いください。
- Eye-FiカードはワイヤレスLAN機能を持っています。飛行機の中など、使用を禁止されている場所では、Eye-Fiカードを本機に入れないでください。入っている場合は[アップロード設定]を[切]にしてください。アップロード機能が[切]になっていると画面上に OFF が表示されます。
- 新しいEye-Fiカードを初めて使うときは、カードをフォーマットする前に、カードに書き込まれているEye-Fiマネージャーのインストールファイルをパソコンにコピーしてください。
- Eye-Fiカードは、ファームウェアを最新版にバージョンアップしてからお使いください。バージョンアップについて詳しくは、Eye-Fiカードに付属の取扱説明書をご覧ください。
- 画像アップロード中はパワーセーブ機能は働きません。
- （エラー発生）が表示された場合は、メモリーカードを抜き差しするか、電源を入れ直してください。それでも表示される場合は、Eye-Fiカードが壊れている可能性があります。
- 無線LANの通信は他の通信機器の影響を受けることがあります。通信状態が良くないときは、接続先のアクセスポイントに近づいてください。
- アップロードできるファイルについては、Eye-Fiカードに付属の取扱説明書をご覧ください。
- [GPS機能]が[入]の状態で撮影した画像をアップロードすると、意図せずに撮影場所が第3者に知られる場合があります。
  その場合は[GPS機能]を[切]にして撮影してください（199ページ）。
- 本機はエンドレスモードに対応していません。Eye-Fi を使用する前に、エンドレスモードは必ずオフに設定してください。

撮影した位置をGPSで記録する

本機に内蔵されているGPS機能が位置情報を取得した状態で撮影を行うと、画像に位置情報が記録されます。
付属のソフトウェア「PlayMemories Home」を使うと、位置を記録した画像をパソコンに取り込んで地図と一緒に楽しむことができます。
詳しくは「PlayMemories Homeヘルプガイド」をご覧ください。

MENUボタン → 2 → [GPS設定] → [GPS機能] → [入]を選ぶ。

衛星からの電波の受信状況によって、画面に表示されるアイコンが変わります。

画面表示	GPS受信状況
非表示	[GPS機能]が[切]になっている。
	位置情報が記録できない状態。空の開けた場所に移動してください。
	位置情報を算出中。位置情報が記録可能になるまでお待ちください
	現在の正しい位置情報が記録可能な状態。
ERROR	GPS機能の異常が起きている。本機の電源を入れ直してください。

GPSの電波を受信するには

- 屋内や高い建物の近くではうまく測位できません。屋外の空の開けた場所に移動して、本機の電源を入れ直してください。
- 位置情報を取得できるまで数十秒から数分かかることがあります。GPSアシストデータを利用することで、測位時間を短くすることができます。

ご注意

- 電源を入れたときは、位置情報を取得できるまで数十秒から数分かかることがあります。取得できない状態で撮影すると、位置情報は記録されません。正しい位置情報を記録するためには、GPSの電波を受信できる状態にしてから撮影してください。
- 飛行機の離着陸時には、機内の案内に従って本機の電源をお切りください。
- GPS機能は、ご利用になる国や地域の規制に従ってお使いください。
- GPSについての詳しいご注意は247ページをご覧ください。

GPSアシストデータ

GPSアシストデータを本機に取り込むことによって、位置情報を取得するまでの時間を短くすることができます。付属のソフトウェア「PlayMemories Home」をインストール済みのパソコンにUSBケーブルを使って接続すると、自動的に最新のGPSアシストデータに更新することができます。

GPSアシストデータの有効期限を確認するには

MENUボタン → 🔧2 → [GPS設定] → [GPSアシストデータ確認] を選ぶ。

ご注意

- 更新時は、パソコンがインターネットに接続されている必要があります。
- アシストデータの有効期限が切れている場合、位置情報を取得するまでの時間を短くすることができません。定期的に更新することをおすすめします。アシストデータの有効期限は約30日以内です。
- [日時設定]をしていない、または設定時刻が大きくずれている場合、位置情報を取得するまでの時間を短くすることができません。
- 諸般の事情によりGPSアシストデータの提供サービスを終了させていただく場合があります。

パソコンにメモリーカードを挿入して、GPSアシストデータを更新するには

「PlayMemories Home」のメイン画面を表示して、[GPSサポートツール]を起動し、メモリカードのドライブを選択してGPSアシストデータを更新してください。
そのあとで更新したメモリーカードを本機に挿入してください。

GPS自動時刻補正

本機の起動中にGPSを利用して時刻情報を取得し、正確な時刻を維持できます。電源を切ったタイミングで時刻を補正します。

MENUボタン → 2 → [GPS設定] → [GPS自動時刻補正] → [入]を選ぶ。

ご注意

- [GPS機能]が[切]の場合は無効です。
- あらかじめ、[日時設定]を設定してください。
- 数秒の誤差が生じることがあります。
- 地域によっては、正確に機能しない場合があります。

好みの設定を登録する

よく使うモードや数値の組み合わせを3つまで本機に登録でき、モードダイヤルで簡単に呼び出せます。

1 本機を登録したい設定にする。

1 MENUボタン → 📷4 → [登録]を選ぶ。

3 マルチセレクターの◀/▶で登録先の番号を選び、マルチセレクターの中央を押す。

登録したあとも、変更可能。

登録できる項目

露出モード、絞り、シャッタースピード、ドライブモード、フォーカスモード、ISO、ホワイトバランス、露出補正、測光モード、DRO/オートHDR、クリエイティブスタイル、フラッシュモード、調光補正、顔検出、スマイルシャッター検出感度、被写体追尾、ピクチャーエフェクト、ローカルフォーカスエリア位置、📷静止画撮影メニューすべて（38 ～ 40ページ）、🎞動画撮影メニューすべて（40 ～ 41ページ）

登録を呼び出すには

モードダイヤルの「1」、「2」、「3」から呼び出したい番号を選んでください。

登録した内容を変更するには

呼び出したあとに希望する設定に変更し、同じ番号に再登録してください。

ご注意

- プログラムシフト、マニュアルシフトは登録できません。
- 一部の機能については、本機のダイヤルの位置と、実際に撮影に使われる設定とが一致しなくなります。本機のモニター情報を元に撮影してください。

設定を初期値に戻す

本機の主な設定が初期値に戻ります。

MENUボタン → 🔧4 → [設定リセット] → 希望の設定 → [確認]を選ぶ。

○はリセットされる項目、×はリセットされない項目です。

撮影機能				
項目	リセット後の設定値	設定値リセット	撮影モードリセット	カスタム設定リセット
露出補正(113)	±0.0	○	○	×
ドライブモード(117)	1枚撮影	○	○	×
フラッシュモード(123)	強制発光(撮影モードにより異なる)	○	○	×
フォーカスモード(96)	AF-A	○	○	×
フォーカスエリア(100)	ワイド	○	○	×
被写体追尾(101)	切([フォーカスモード]によって異なる)	○	○	×
顔検出(151) /スマイルシャッター (155)	入(登録顔優先)	○	○	×
オートポートレートフレーミング(153)	切	○	○	×
ISO (133)	AUTO	○	○	×
測光モード(116)	多分割測光	○	○	×
調光補正(129)	±0.0	○	○	×
ホワイトバランス(143)	オート(自動設定)	○	○	×
色温度・カラーフィルター (145)	5500K、カラーフィルター 0	○	○	×
カスタムホワイトバランス値(145)	5500K	○	○	×

DRO/オートHDR（135）	Dレンジオプティマイザー：オート	○	○	×
クリエイティブスタイル（140）	1/スタンダード	○	○	×
ピクチャーエフェクト（138）	切	○	○	×
シーンセレクション（75）	ポートレート	○	○	×
動画（164）	P	○	○	×
オートモード（73）	おまかせオート	○	○	×
テレコン連続撮影優先AE（80）	T10	○	○	×
静止画撮影メニュー				
項目	**リセット後の設定値**	**設定値リセット**	**撮影モードリセット**	**カスタム設定リセット**
画像サイズ（147）	L：24M	○	○	×
横縦比（149）	3：2	○	○	×
画質（149）	ファイン	○	○	×
パノラマ：画像サイズ（148）	標準	○	○	×
パノラマ：撮影方向（80）	右	○	○	×
全画素超解像ズーム（160）	入	○	○	×
デジタルズーム（160）	切	○	○	×
長秒時ノイズリダクション（161）	入	○	○	×
高感度ノイズリダクション（161）	標準	○	○	×
調光モード（130）	ADI調光	○	○	×
AF補助光（106）	オート	○	○	×
手ブレ補正（64）	入	○	○	×
AF駆動速度（39）	高速	○	○	×

色空間(162)	sRGB	○	○	×
サイレントコントローラーの機能(33)	フォーカスモード	○	○	×
露出値ステップ幅(40)	0.3段	○	○	×
フォーカス/レリーズ優先(40)	フォーカス優先	○	○	×
シャッター半押しAF (40)	入	○	○	×
シャッター半押しAEL (40)	入	○	○	×
動画撮影メニュー				
項目	**リセット後の設定値**	**設定値リセット**	**撮影モードリセット**	**カスタム設定リセット**
記録方式(166)	AVCHD	○	○	×
記録設定(166)	60i 17M (FH)	○	○	×
手ブレ補正(64)	切	○	○	×
AF追従感度(164)	中	○	○	×
オートスローシャッター (165)	入	○	○	×
サイレントコントローラーの機能(33)	録音レベル	○	○	×
音声記録(170)	入	○	○	×
風音低減(170)	切	○	○	×
音声レベル表示(168)	入	○	○	×
音声出力タイミング (169)	ライブ	○	○	×
カスタムメニュー				
項目	**リセット後の設定値**	**設定値リセット**	**撮影モードリセット**	**カスタム設定リセット**
アイスタートAF (42)	切	○	×	○

FINDER/LCD切換設定（191）	オート	○	×	○
赤目軽減発光（42）	切	○	×	○
レンズなし時のレリーズ（187）	禁止	○	×	○
プレミアムオート連続撮影（74）	オート	○	×	○
プレミアムオート画像抽出（74）	オート	○	×	○
グリッドライン（187）	切	○	×	○
オートレビュー（187）	2秒	○	×	○
DISPボタン（背面モニター）（92）	ファインダー撮影用/情報表示なし/水準器/ヒストグラム	○	×	○
DISPボタン（ファインダー）（92）	情報表示なし/水準器/ヒストグラム	○	×	○
AF RANGEボタンの機能（43、104）	AFレンジコントロール	○	×	○
AFレンジコントロールアシスト（43）	入	○	×	○
ピーキングレベル（109）	切	○	×	○
ピーキング色（109）	ホワイト	○	×	○
ライブビュー表示（94）	設定効果反映On	○	×	○
AELボタンの機能（188）	押す間AEL	○	×	○
ISOボタンの機能（188）	ISO感度	○	×	○
AF/MFボタンの機能（188）	押す間AF/MFコントロール	○	×	○
カスタムキーの機能（189）	再押しFELロック	○	×	○
プレビューボタンの機能（188）	絞りプレビュー	○	×	○

スマートテレコンバーターボタン（109、157）	スマートテレコンバーター	○	×	○
フォーカスホールドボタンの機能（46）	フォーカスホールド	○	×	○
MOVIE（動画）ボタン（46）	常に有効	○	×	○
前後ダイヤルの設定（47）	前:シャッター 後:絞り	○	×	○
ダイヤル露出補正（114）	切	○	×	○
露出補正の影響（47）	定常光＋フラッシュ	○	×	○
ブラケット順序（47）	0 → − → ＋	○	×	○
レンズ補正（周辺光量）（192）	オート	○	×	○
レンズ補正（倍率色収差）（192）	オート	○	×	○
レンズ補正（歪曲収差）（192）	切	○	×	○
電子先幕シャッター（189）	入	○	×	○
顔優先追尾（103）	入	○	×	○
再生メニュー				
項目	**リセット後の設定値**	**設定値リセット**	**撮影モードリセット**	**カスタム設定リセット**
静止画/動画切換（171）	フォルダービュー（静止画）	○	×	×
スライドショー －リピート（175）	切	○	×	×
スライドショー －間隔設定（175）	3秒	○	×	×
スライドショー －画像種別（175）	全て	○	×	×
一覧表示（173）	4枚	○	×	×

プリント指定ー日付プリント(179)	切	○	×	×
再生メディア選択(171)	スロット1	○	×	×
音量設定(49)	4	○	×	×
縦記録画像の再生(175)	縦向き	○	×	×
メモリーカードツールメニュー				
項目	**リセット後の設定値**	**設定値リセット**	**撮影モードリセット**	**カスタム設定リセット**
記録メディア選択(56)	スロット1	○	×	×
記録モード(193)	標準	○	×	×
ファイル番号(195)	連番	○	×	×
フォルダー形式(195)	標準形式	○	×	×
時計設定メニュー				
項目	**リセット後の設定値**	**設定値リセット**	**撮影モードリセット**	**カスタム設定リセット**
日付設定(62)	ー	○	×	×
エリア設定(62)	ー	○	×	×
セットアップメニュー				
項目	**リセット後の設定値**	**設定値リセット**	**撮影モードリセット**	**カスタム設定リセット**
メニュー呼び出し先(50)	先頭	○	×	×
削除確認画面(50)	「キャンセル」が先	○	×	×
モードダイヤルガイド(50)	切	○	×	×
モニター明るさ(189)	オート	○	×	×
ファインダー明るさ(190)	オート	○	×	×
ファインダー色温度(50)	0	○	×	×

GPS設定 − GPS機能（199）	切	○	×	×
GPS設定 − GPS自動時刻補正（201）	–	○	×	×
パワーセーブ（190）	標準	○	×	×
パワーセーブ開始時間（191）	1分	○	×	×
HDMI解像度（51）	オート	○	×	×
HDMI機器制御（51）	入	○	×	×
HDMI情報表示（185）	あり	○	×	×
アップロード設定（197）	入	○	×	×
USB接続（217）	オート	○	×	×
USB LUN 設定（218）	マルチ	○	×	×
電子音（52）	入	○	×	×
APS-Cサイズ撮影（191）	オート	○	×	×
AF微調整 − AF微調整設定（107）	切*	○	×	×
デモモード（52）	切	○	×	×
その他				
項目	**リセット後の設定値**	**設定値リセット**	**撮影モードリセット**	**カスタム設定リセット**
撮影情報画面（背面モニター）（92）	ファインダー撮影用	○	×	×
撮影情報画面（ファインダー）（92）	水準器	○	×	×
再生画面（176）	1枚再生（撮影情報あり）	○	×	×

* 設定値をリセットしても、調整値はリセットされません。

本機のバージョンを確認する

お手持ちのカメラのバージョンを表示します。本機のファームウェアのアップデートがリリースされたときなどに確認します。
レンズバージョンアップに対応したレンズを装着すると、レンズのバージョンも表示されます。

MENUボタン → 🔧4 → [バージョン表示]を選ぶ。

ご注意

- バッテリー残量が （残量が3個）以上でないと、アップデートは行えません。充分に充電したバッテリーを使うか、ACアダプター AC-PW10AM（別売）の使用をおすすめします。

ソフトウェアを使う

本機で撮影した画像をいっそうご活用いただくために、CD-ROM（付属）には以下のソフトウェアが収録されています。

- 「Image Data Converter」
- 「PlayMemories Home」
- 「Remote Camera Control」

インストールに関するご注意は215、216ページもご覧ください。

「Image Data Converter」を使う

次のことなどができます。

- RAW画像を再生し、トーンカーブやシャープネスなど多彩な補正機能で編集
- ホワイトバランスや露出、クリエイティブスタイルなどの画像の調整
- 表示、編集した静止画をパソコンに保存
  RAWデータのまま保存する方法と、汎用ファイルフォーマット形式で保存する方法があります。
- 本機で撮影したRAW画像/JPEG画像の表示、比較
- 5段階でランク付け
- カラーラベルの設定

詳しい使いかたはヘルプをご覧ください。
［スタート］→［すべてのプログラム］→［Image Data Converter］→［ヘルプ］→［Image Data Converter Ver.4］

「Image Data Converter」のサポート情報
http://www.sony.co.jp/ids-sj/

「PlayMemories Home」を使う

次のことなどができます。
- 本機で撮影した画像のパソコンへの取り込み、表示
- パソコンにある画像を、撮影日ごとにカレンダー上に整理して、閲覧
- 静止画の補正（赤目補正など）、プリント、メール送信、撮影日時の変更
- パソコンにある画像を、切り抜いたり（トリミング）、サイズ変更（リサイズ）などの編集
- 画像に日付を挿入して保存、印刷
- パソコンに取り込んだAVCHD動画から、ブルーレイディスク、またはDVD-Videoディスクの作成（ブルーレイディスク、DVD-Videoディスクの初回作成時には、インターネット接続環境が必要）。

ご注意

- 「PlayMemories Home」は、Macには対応しておりません。Macで再生する場合は、Macに搭載されているアプリケーションをご利用ください。
- [記録設定]を[60p 28M（PS）]または[60i 24M（FX）]、[24p 24M（FX）]にして撮影した動画は、「PlayMemories Home」でのAVCHD記録ディスク作成時に変換され、そのままの画質でディスクを作成することはできません。変換には時間がかかります。 そのままの画質で保存したいときは、ブルーレイディスクに保存してください。

詳しい使いかたは「PlayMemories Homeヘルプガイド」をご覧ください。
デスクトップ上の （PlayMemories Homeヘルプガイド）をダブルクリック、または[スタート] → [すべてのプログラム] → [PlayMemories Home] → [PlayMemories Homeヘルプガイド]

「PlayMemories Home」のサポート情報
http://www.sony.co.jp/pmh-sj/

「Remote Camera Control」を使う

パソコンと本機を接続して「Remote Camera Control」をご利用になると、次のことができます。

- 本機の設定、撮影をパソコンで行います。
- 撮影した画像を直接パソコンに記録します。
- インターバルタイマー撮影を行います。

MENUボタン → 🔧3→ ［USB接続］ → ［PCリモート］にしてから使います。詳しい使いかたは、ヘルプをご覧ください。
［スタート］ → ［すべてのプログラム］ → ［Remote Camera Control］ → ［ヘルプ］ → ［Remote Camera Control Ver.3］

ご注意

- インターバルタイマー撮影では、ドライブモードは1枚撮影になります。また、ピントが合っていないと、シャッターは切れません（マニュアルフォーカス時、📷 静止画撮影メニューの［フォーカス/レリーズ優先］が［レリーズ優先］になっているときはのぞく）。

パソコンの推奨環境（Windows）

付属ソフトウェアを使ったり、USB接続で画像を取り込んだりするには下記の推奨環境が必要です。

OS（工場出荷時にインストールされていること）	Microsoft Windows XP* SP3/Windows Vista SP2/Windows 7 SP1
「PlayMemories Home」使用時	**CPU：**Intel Pentium Ⅲ 800 MHz以上 （HD動画再生・編集時はIntel Core Duo 1.66 GHz以上/Intel Core 2 Duo 1.66 GHz以上、Intel Core 2 Duo 2.26 GHz以上（AVC HD（FX/FH））、Intel Core 2 Duo 2.40 GHz以上（AVC HD PS）） **メモリー：**Windows XP 512 MB以上（1 GB以上を推奨）Windows Vista/Windows7 1 GB以上 **インストール時に必要なハードディスク容量：**約500 MB **ディスプレイ：**1024×768ドット以上
「Image Data Converter Ver.4」/「Remote Camera Control Ver.3」使用時	**CPU/メモリー：**Pentium 4以上/1 GB以上 **ディスプレイ：**1024×768ドット以上

* 64bit版は除きます。ディスク作成機能のご使用には、Windows Image Mastering API（IMAPI）Ver.2.0 以上が必要です。

パソコンの推奨環境（Mac）

付属ソフトウェアを使ったり、USB接続で画像を取り込んだりするには下記の推奨環境が必要です。

OS（工場出荷時にインストールされていること）	**USB接続：**Mac OS X v10.3-v10.8 **「Image Data Converter Ver.4」「Remote Camera Control Ver.3」：**Mac OS X v10.5-v10.8
「Image Data Converter Ver.4」/「Remote Camera Control Ver.3」使用時	**CPU：**Intel Core Solo/Core Duo/Core 2 Duoなどのインテルプロセッサー **メモリー：**1 GB以上を推奨 **ディスプレイ：**1024×768ドット以上

ご注意

- 上記のOSでもアップグレードされた場合や、マルチブート環境の場合は、動作保証いたしません。
- 1台のパソコンで2台以上のUSB機器を接続している場合、同時に使用するUSB機器によっては、本機が動作しないことがあります。
- Hi-Speed USB（USB2.0準拠）のため、対応のUSBインターフェースに接続すると、高速な転送（hi-speed転送）が行えます。
- パソコンがサスペンド・レジューム機能、またはスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。

インストールする（Windows）

コンピュータの管理者権限でログオンしてください。

1 パソコンの電源を入れた状態で、CD-ROM（付属）をCD-ROMドライブに入れる。

インストール画面が表示される。

- インストール画面が表示されないときは、[コンピュータ]（Windows XPでは[マイコンピュータ]）→ （PMHOME）→ [Install.exe]の順にダブルクリックする。
- 自動再生画面が表示される場合は、「Install.exeの実行」を選択し、画面の指示に従ってインストールする。

2 [インストール]をクリックする。

「Image Data Converter」と「PlayMemories Home」にチェックが入っていることを確認して、画面の表示に従ってインストールする。

- 画面の指示に従ってカメラとパソコンを接続する（218ページ）。
- パソコンの再起動を求める画面が表示された場合は、画面の指示に従って再起動する。
- 使用環境によって、DirectXが引き続きインストールされることがある。

3 インストール後、パソコンからCD-ROMを取り出す。

下記のソフトウェアがインストールされ、デスクトップにショートカットが表示される。
「Image Data Converter」
「Remote Camera Control」
「PlayMemories Home」
「PlayMemories Homeヘルプガイド」

ご注意

- 2011年以前の機種に付属のソフトウェア「PMB」(Picture Motion Browser)がインストールされている場合、「PlayMemories Home」が上書きインストールされます。「PMB」の機能の一部が使用できなくなります。

インストールする(Mac)

コンピュータの管理者権限でログオンした状態で行ってください。

1 Macの電源が入った状態で、CD-ROM(付属)をディスクドライブに入れる。

2 CD-ROMアイコンをダブルクリックする。

3 [MAC]フォルダーの中の[IDC_INST.pkg]と[RCC_INST.pkg]を任意のフォルダーにコピーする。

4 コピー先のフォルダーの中の[IDC_INST.pkg]と[RCC_INST.pkg]をダブルクリックする。

以降、画面の指示に従ってインストールを進め、完了する。

本機とパソコンを接続する

USB接続方法を設定する

本機をパソコンなどとUSB接続するときの接続方法を設定します。

MENUボタン → 3 → [USB接続] → 希望の設定を選ぶ。

オート	接続するパソコンやその他USB機器に応じて、MTPとマスストレージのどちらで接続するのか自動的に選択される。Windows 7の場合にはMTPで接続され、Windows 7特有の機能が使用できる。
マスストレージ	本機とパソコン、その他USB機器をマスストレージ接続する。
MTP	本機とパソコン、その他USB機器をMTP接続する。Windows 7の場合にはMTPで接続され、Windows 7特有の機能が使用できる。それ以外(Vista/XP、Mac OS X)の場合には自動再生ウィザードが起動し、本機に設定されている記録フォルダー内の静止画をパソコンに取り込む。
PCリモート	CD-ROM(付属)内の「Remote Camera Control」を使って、パソコンから撮影したり、撮影した画像をパソコン内に保存したりする。

ご注意

- [オート]に設定しているときは、接続に時間がかかる場合があります。
- Windows 7接続時にデバイスステージ*が表示されない場合、[オート]に設定してください。

* 接続されたカメラなどを管理できるメニュー画面(Windows 7の機能)です。

USB接続モードを設定する（USB LUN設定）

本機をパソコンなどとUSB接続するとき、両方のスロット画像を表示するかスロット1だけを表示するか選べます。

MENUボタン → 3 → ［USB LUN 設定］ → 希望の設定を選ぶ。

マルチ	メモリーカードスロット1、メモリーカードスロット2両方のデータをパソコン上に表示する。
シングル	メモリーカードスロット1の画像のみ表示する。

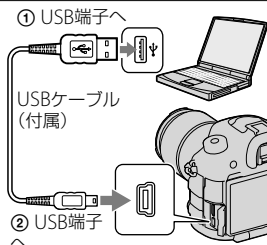
パソコンと接続する

1 充分に充電したバッテリーを本機に入れる、またはACアダプター AC-PW10AM（別売）を使い、本機とコンセントを接続する。

2 本機とパソコンの電源を入れる。

3 セットアップメニュー 3の［USB接続］が［マスストレージ］になっていることを確認する。

4 本機とパソコンを接続する。

- 初回接続時のみ、パソコンが本機を認識するための作業を自動的に行います。作業が終わるまでお待ちください。

画像を取り込んで見る（Windows）

「PlayMemories Home」を使うと、簡単に画像を取り込めます。「PlayMemories Home」の機能について詳しくは、「PlayMemories Homeヘルプガイド」をご覧ください。

「PlayMemories Home」を使わずに画像をパソコンに取り込むには

本機とパソコンを接続して自動再生ウィザードが起動したら、[フォルダを開いてファイルを表示] → [OK] → [DCIM]または[MP_ROOT]をクリックして、取り込みたい画像をパソコン内にコピーしてください。

ファイル名について

フォルダー	ファイルの種類	ファイル名
DCIMフォルダー	JPEGファイル	DSC0□□□□.JPG
	JPEGファイル（Adobe RGB）	_DSC□□□□.JPG
	RAWファイル	DSC0□□□□.ARW
	RAWファイル（Adobe RGB）	_DSC□□□□.ARW
MP_ROOTフォルダー	MP4ファイル（1440×1080 12M）	MAH0□□□□.MP4
	MP4ファイル（VGA 3M）	MAQ0□□□□.MP4

- □□□□（ファイル番号）は0001 ～ 9999の半角数字
- [画質]を「RAW+JPEG」で撮影した場合、RAWファイルとJPEGファイル名の数字部分は同じです。

ご注意

- AVCHD動画を取り込むなどの操作は「PlayMemories Home」を使用してください。
- 動画にGPS位置情報をつけたままパソコンに取り込む場合は、「PlayMemories Home」を使用してください。
- 本機とパソコンを接続した状態で、パソコンから本機のAVCHD動画ファイルやフォルダーを操作した場合、画像ファイルが壊れたり、再生できなくな

ることがあります。パソコンから本機のメモリーカード上のAVCHD動画を削除したり、コピーをしたりしないでください。このような操作をした結果に対し、当社は責任を負いかねます。

画像を取り込んで見る(Mac)

1 本機とパソコンを接続したら[デスクトップ画面上の新しく認識されたアイコン]→[取り込みたい画像の入ったフォルダ]の順にダブルクリックする。

2 画像ファイルをハードディスクアイコンにドラッグ&ドロップする。

ハードディスクに画像ファイルがコピーされる。

3 [ハードディスクアイコン] → [画像ファイル]の順にダブルクリックする。

画像が表示される。

Mac用ソフトウェアについて

その他Mac用ソフトウェアの詳細は以下のURLをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/imsoft/Mac/

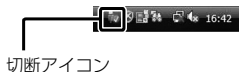
パソコンとの接続を切断する

以下の操作を行いたいときは、1 ～ 2の手順をあらかじめ行ってください。

- USBケーブルを抜く。
- メモリーカードを取り出す。
- 本機の電源を切る。

1 タスクトレイの切断アイコンをダブルクリックする。

- Windows 7のときは、 をクリックしてから、 をクリックする。

Windows Vista

2 [USB大容量記憶装置を安全に取り外します]をクリックする。

ご注意

- Mac使用時は、あらかじめメモリーカード、またはドライブのアイコンをゴミ箱にドラッグ＆ドロップしてください。パソコンとの接続が切断されます。
- Windows 7使用時は、切断アイコンが出ない場合があります。その場合は前記の手順を行わずに切断できます。
- アクセスランプが点灯しているときは、USBケーブルを抜かないでください。データが壊れることがあります。

動画のディスクを作成する

本機に記録したAVCHD動画からディスクを作成することができます。

動画ディスクの作りかたを選ぶ

本機で記録したAVCHD動画からディスクを作成することができます。ディスクの種類によって再生可能な機器が異なります。お使いの再生機器に合わせて、作成するディスクの種類を選択してください。
作成方法は、「PlayMemories Home」を使ってパソコンで作成する方法と、レコーダーなどのパソコン以外の機器を使って作成する方法を紹介します。

ディスクの種類/目的	記録できる動画画質			再生機器
	PS	FX	FH	
Blu-ray ハイビジョン画質（HD）で残したい	○	○	○	ブルーレイディスク再生機器（ソニー製ブルーレイディスクプレーヤー、プレイステーション 3など）
DVD ハイビジョン画質（HD）（AVCHD記録ディスク）で残したい	×*	×*	○	AVCHD規格対応再生機器（ソニー製ブルーレイディスクプレーヤー、プレイステーション 3など）
DVD 標準画質（STD）で記録して残したい	×*	×*	×*	一般的なDVD再生機器（DVDプレーヤー、DVD再生可能なパソコンなど）

* ［記録設定］を［60p 28M（PS）］または［60i 24M（FX）］、［24p 24M（FX）］にして撮影した動画は、「PlayMemories Home」でのAVCHD記録ディスク作成時に変換され、そのままの画質でディスクを作成することはできません。変換には時間がかかります。そのままの画質で保存したいときは、ブルーレイディスクに保存してください（224ページ）。

ハイビジョン画質(HD)の動画を記録したDVD（AVCHD記録ディスク)を作る

付属のソフトウェア「PlayMemories Home」を使って、パソコンに取り込んだAVCHD動画をハイビジョン画質(HD)のAVCHD記録ディスクに作成できます。

1 [PlayMemories Home]を起動して、（ディスク作成)をクリックする。

2 ディスク選択のドロップダウンリストから[AVCHD（HD)]を選ぶ。

3 ディスクに書き込むAVCHD動画を選ぶ。

4 [追加]をクリックする。

- ドラッグ＆ドロップでも追加できる。

5 画面の指示に従ってディスクを作成する。

ご注意

- あらかじめ「PlayMemories Home」をインストールしてください。
- 静止画、MP4動画はAVCHD記録ディスクに記録できません。
- ディスク作成には時間がかかることがあります。

AVCHD記録ディスクをパソコンで再生するには

「PlayMemories Home」を使って再生できます。「PlayMemories Home」上でディスクを挿入したDVDドライブを選択して、「Player for AVCHD」をクリックしてください。
詳しくは「PlayMemories Homeヘルプガイド」をご覧ください。

ご注意

- パソコンの環境によっては、動画がなめらかに再生できないことがあります。

ブルーレイディスクを作るには

パソコンに取り込んだAVCHD動画から、ブルーレイディスクを作成できます。
お使いのパソコンがブルーレイディスク作成に対応している必要があります。
ディスクは、BD-R（書き換え不可）、BD-RE（書き換え可）が使えます。追加記録はできません。
ブルーレイディスクを「PlayMemories Home」で作成するには専用のアドオンソフトウェアをインストールする必要があります。詳しくは、以下のURLをご覧ください。
http://support.d-imaging.sony.co.jp/BDUJ/
インストールには、お使いのパソコンをインターネットに接続する必要があります。
詳しい操作方法については「PlayMemories Homeヘルプガイド」をご覧ください。

ご注意

- [60p 28M（PS）]で撮影した動画から「PlayMemories Home」を使って作成したブルーレイディスクは、AVCHD規格 Ver.2.0に対応した機器でのみ再生できます。

標準（STD）画質のディスクを作る

1 [PlayMemories Home]を起動して、（ディスク作成）をクリックする。

2 ディスク選択のドロップダウンリストから[DVD-Video（STD）]を選ぶ。

3 ディスクに書き込むAVCHD動画を選ぶ。

4 [追加]をクリックする。

- ドラッグ＆ドロップでも追加できる。

5 画面の指示に従ってディスクを作成する。

ご注意

- あらかじめ「PlayMemories Home」をインストールしてください。
- MP4動画はディスクに記録できません。
- AVCHD動画を標準画質（STD）に変換するため、ディスク作成に時間がかかります。
- DVD-Videoディスクを初めて作成するときは、インターネット接続環境が必要です。

「PlayMemories Home」で使えるディスクの種類について

「PlayMemories Home」では以下の12 cmのディスクを使えます。
ブルーレイディスクについては、224ページをご覧ください。

ディスクの種類	特徴
DVD-R / DVD＋R / DVD＋R DL	書き換えできない。
DVD-RW / DVD＋RW	書き換えて再利用できる。

- 「プレイステーション 3」のシステムソフトウェアは常に最新版にアップデートしてお使いください。アップデートの詳細は、株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントのウェブサイトをご覧ください。
  http://www.jp.playstation.com/ps3/update/

パソコン以外の機器で動画ディスクを作成する

ブルーレイレコーダーなどでもディスクを作成することができます。機器によって作成できるディスクの種類が異なります。

<table>
<tr><th colspan="2">使用する機器</th><th colspan="2">作成できる
ディスクの種類</th></tr>
<tr><td></td><td>ブルーレイレコーダーを使ってブルーレイディスクや標準画質(STD)のディスクを作成する。</td><td>Blu-ray
ハイビジョン画質(HD)</td><td>DVD
標準画質(STD)</td></tr>
<tr><td></td><td>HDDレコーダーなどを使って標準画質(STD)のディスクを作成する。</td><td colspan="2">DVD
標準画質(STD)</td></tr>
</table>

ご注意

- 作成方法の詳細は、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。
- [60p 28M (PS)]で撮影した動画からブルーレイディスクを作成するには、AVCHD規格Ver.2.0に対応した機器が必要です。また、作成したブルーレイディスクを再生するには、AVCHD規格Ver.2.0に対応した機器が必要です。

困ったときは

困ったときは、下記の流れに従ってください。

❶227 ～ 235ページの項目をチェックし、本機を点検する。

❷バッテリーを取りはずし、約1分後再びバッテリーを入れ、本機の電源を入れる。

❸設定リセットをする（203ページ）。

❹『α』専用サポートサイトで確認する。
http://www.sony.co.jp/DSLR/support/

❺相談窓口に電話で問い合わせる。

バッテリー・電源

本機にバッテリーを入れられない。

- バッテリーの先端でロックレバーを押しながら入れてください（55ページ）。
- バッテリーはNP-FM500Hのみ使用できます。NP-FM500Hかどうか確認してください

バッテリーの残量表示が正しくない。またはバッテリー残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる。電源が入らない。

- 温度が極端に高いまたは低いところで使用しているときの現象です（242ページ）。
- バッテリーが消耗しています。充電されたバッテリーを取り付けてください（54ページ）。
- バッテリーの寿命です（250ページ）。新しいバッテリーと交換してください。
- バッテリーが正しく取り付けられているか確認してください（55ページ）。

電源が切れる。

- 操作しない状態が一定時間続くと、省電力設定(パワーセーブ)になります。シャッターボタンを半押しするなどの操作をすれば、パワーセーブは解除されます(190ページ)。

バッテリー充電中、CHARGEランプが点滅する。

- バッテリーはNP-FM500Hのみ使用できます。NP-FM500Hかどうか確認してください。
- 長時間使用していないバッテリーを充電すると、CHARGEランプが点滅することがあります。
- 点滅パターンは、速い点滅(約0.15秒)と遅い点滅(約1.5秒)の2種類があります。速い点滅のときは、バッテリーを取りはずし、もう一度同じバッテリーを確実に取り付けてください。
  再び速い点滅をしたときは、バッテリーの異常が考えられます。
  遅い点滅のときは、充電に適した温度外で充電しているため、充電を一時停止した待機状態になっています。充電に適した温度範囲に戻れば充電を再開し、CHARGEランプは点灯になります。
  バッテリーの充電は周囲温度が10℃〜 30℃の環境で行うことをおすすめします。

撮影する

ファインダーモード時、電源を入れても液晶モニターがつかない。

- [FINDER/LCD切換設定]が[マニュアル]になっています。FINDER/LCD切り換えボタンを押してください(191ページ)。

ファインダーの画像がはっきりしない。

- 視度を正しく調整してください(18ページ)。

ファインダーに画像が映らない。

- [FINDER/LCD切換設定]が[マニュアル]になっています。FINDER/LCD切り換えボタンを押してください(191ページ)。
- ファインダーに接眼してください。

シャッターが切れない。

- 書き込み禁止スイッチまたは誤消去防止スイッチのあるメモリーカードを使用し、スイッチが「LOCK」になっています。解除してください。
- メモリーカードの空き容量を確認してください。
- オートフォーカスのときにはピントが合わないとシャッターは切れません。
- レンズが正しく取り付けられていません。正しく取り付けてください（59ページ）。
- 本機を天体望遠鏡などに取り付けた場合は、[レンズなし時のレリーズ]を[許可]にして撮影してください（187ページ）。
- オートフォーカスの苦手な被写体（99ページ）を撮ろうとしています。フォーカスロック撮影またはマニュアルフォーカス撮影を行ってください（100、108ページ）。

撮影に時間がかかる。

- ノイズ軽減処理機能が働いています（161ページ）。故障ではありません。
- RAWモードで撮影しています（149ページ）。RAWモードでの撮影はデータ量が大きいため、撮影に多少時間がかかる場合があります。
- オートHDR処理中です（136ページ）。

同じ画像が数枚撮影される。

- ドライブモードが連続撮影、またはブラケット撮影になっています。[1枚撮影]にしてください（117ページ）。
- 撮影モードが「テレコン連続撮影優先AE」になっています（80ページ）。
- 撮影モードが「プレミアムおまかせオート」になっていて、[プレミアムオート画像抽出]が[切]になっています（74ページ）。

ピント（フォーカス）が合わない。

- 被写体が近すぎます。レンズの最短撮影距離を確認してください。
- マニュアルフォーカスになっている。[フォーカスモード]を[DMF]、[マニュアルフォーカス]以外にしてください（96ページ）。
- レンズにフォーカスモードスイッチが付いている場合は、「AF」にしてください。
- 光量が不足している。

アイスタートAFが働かない。

- [アイスタートAF]を[入]にしてください(42ページ)。
- シャッターボタンを半押ししてください。

正しい撮影日時が記録されない。

- 日付・時刻を合わせてください(62ページ)。
- エリア設定で現在地と異なる場所が設定されています。
  [エリア設定]を設定し直してください(62ページ)。

シャッターボタンを半押しすると絞り値、シャッタースピードが点滅する。

- 被写体が明るすぎる、または暗すぎるため、本機の調整の範囲を超えています。設定し直してください。

画像が白っぽくなる(フレア)。
光のにじみが現れる(ゴースト)。

- 逆光で撮影したため、レンズに余分な光が入っています。レンズフードを取り付けてください。

画像の隅が暗くなる。

- フィルターやフードをご使用の場合は、いったん取りはずしてお試しください。フィルターの厚みやフードの不適切な取り付けにより、画像にフィルターやフードが写り込むことがあります。また、レンズの光学的な特性により、画像周辺部が暗く写る場合(光量低下)があります。この場合は[レンズ補正(周辺光量)](192ページ)で補正することができます。

被写体の目が赤く写る。

- 赤目軽減モードにしてください(42ページ)。
- 被写体に近づいてフラッシュ調光距離内で撮影してください。「主な仕様」のフラッシュ光の届く範囲をご覧ください。

液晶モニターに点が現れて消えない。

- 故障ではありません。これらの点は記録されません(13ページ)。

画像がブレる。

- 暗いところでフラッシュを使わずに撮影したので、手ブレを起こしています。シャッタースピードが遅くなるので、三脚またはフラッシュの使用をおすすめします(123ページ)。

液晶モニター /ファインダー内の測光インジケーター ◀▶が点滅する。

- 被写体が明る過ぎる、または暗過ぎて、本機の測光範囲を超えています。

音声が正しく記録されない。

- 録音レベルを調節して音量を最低に絞ると、音声は記録されません。
- 録音レベルを調節して音量を最大にすると、音声が割れやすくなります。

画像を見る

再生できない。

- パソコンでフォルダー /ファイルの名前を変更したためです(219ページ)。
- パソコンで画像を加工したファイルや、本機以外で撮影した画像は本機での再生は保証いたしません。
- パソコン内の画像を本機で再生するには「PlayMemories Home」を使って画像をコピーしてください。
- USBモードになっています。USB接続を終了してください(220ページ)。

画像を削除する

削除できない。

- 画像のプロテクトを解除してください(178ページ)。

誤って消してしまった。

- 一度削除した画像は元に戻せません。誤消去を防止したい画像には、あらかじめプロテクトをかけてください(178ページ)。

GPS

GPSの電波を受信できない。

- [GPS機能]を[入]にしてください(199ページ)。
- 障害物の影響でGPS衛星の電波が受信できないことがあります。
- 位置情報を確実に測位するには、屋外の空の開けた場所に移動してから、本機の電源を入れ直してください。
- 各種アクセサリー（別売)を取り付けると、GPS衛星の電波を受信しにくくなることがあります。

位置情報の誤差が大きい。

- 周囲の建物などで電波が反射したり、受信した電波が弱いなど、状況により最大で数百メートルの誤差を生じます。

GPSアシストデータを取り込んでいるのに測位に時間がかかる。

- [日時設定]をしていない、または設定時刻が大きくずれています。正しく日にちを設定してください(62ページ)。
- アシストデータの有効期限が切れています。最新のGPSアシストデータに更新してください(200ページ)。
- GPS衛星の配置は常に変化しているため、ご使用になる場所や時刻などの条件によっては測位に時間がかかったり、測位できないことがあります。
- GPSは衛星から電波を受信し測位するシステムです。ビルや木立の陰など、電波を遮断・反射してしまう場所を避け、できるだけ屋外の空の開けた場所でご使用ください。

位置の情報が記録されていない。

- 動画にGPS位置情報をつけたままパソコンに取り込む場合は「PlayMemories Home」を使用してください。

パソコン

最新サポート情報は、『α』専用サポートサイトをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/DSLR/support/

対応しているOSがわからない。

- 「パソコンの推奨環境」を確認してください(214ページ)。

本機がパソコンに認識されない。

- 本機の電源が入っているか確認してください。
- バッテリー残量が少ないときは、充電されたバッテリーを取り付けてください(54ページ)、またはACアダプター（別売）を使用してください。
- 接続には、付属のUSBケーブルを使ってください(218ページ)。
- 一度パソコンと本機からUSBケーブルを抜いて再びしっかりと差し込んでください。
- パソコンのUSB端子に、本機/キーボード/マウス以外の機器が接続されているときは、取りはずしてください。

- USBハブ経由などでなく、本機とパソコンを直接接続してください（218ページ）。

画像をコピーできない。

- 本機とパソコンを正しくUSB接続してください（218ページ）。
- OSに対応した手順でコピーしてください（219、220ページ）。
- パソコンでフォーマットしたメモリーカードで撮影した場合、画像をパソコンへコピーできないことがあります。本機でフォーマットしたメモリーカードで撮影してください（194ページ）。

画像を再生できない。

- 「PlayMemories Home」をお使いの場合は、「PlayMemories Homeヘルプ」をご覧ください。
- パソコンメーカーまたはソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

USB接続をしたときに「PlayMemories Home」が自動起動しない。

- パソコンの電源を入れた状態でUSB接続をしてください（218ページ）。

メモリーカード

本機に入らない。

- メモリーカードを入れる向きが違っています。正しい向きにして入れてください（55ページ）。

記録できない。

- メモリーカードの容量がいっぱいになっています。不要な画像を削除してください（71、182ページ）。
- 本機では使えないメモリーカードが入っています（58、248ページ）。
- 記録するメモリーカードのスロットを[記録メディア選択]で選ぶ（56ページ）。

再生できない。

- [再生メディア選択]をご確認ください（171ページ）。

誤ってフォーマットしてしまった。

- フォーマットすると、メモリーカード内のデータはすべて削除され、元に戻せません。

プリントする

プリントできない。

- RAW画像はプリントできません。RAW画像をプリントするには、CD-ROMに付属の「Image Data Converter」でJPEG画像に変換してください。

画像の色合いがおかしい。

- Adobe RGBで撮影した画像を、Adobe RGB（DCF2.0/Exif2.21）に対応していないsRGB環境下のプリンターで印刷すると、低彩度な画像になります（162ページ）。

両端が切れてプリントされる。

- プリンターによっては、画像の上下左右が切れることがあります。特に横縦比が[16:9]のときは、左右が大きく切れることがあります。
- お手持ちのプリンターでプリントする場合は、あらかじめトリミングやふちなしプリント機能を解除しておいてください。機能の有無は、プリンターのメーカーにお問い合わせください。
- お店でプリントする場合は、画像の両端が切れないようにプリントできるかどうか、あらかじめお店にお問い合わせください。

日付を入れてプリントできない。

- 「PlayMemories Home」を使ってプリントすると日付挿入ができます（212ページ）。
- お店でプリントするときは、日付挿入を希望すれば、日付を入れてプリントできます。

その他

レンズがくもる。

- 結露しています。電源を切って約1時間そのままにしてから使用してください（242ページ）。

電源を入れると、「エリア/日付/時刻を設定してください」というメッセージが表示される。

- バッテリーが消耗したまま、または本機のバッテリーを取り出したまま放置したため、日時の設定が失われました。バッテリーを充電して、日時

を再設定してください(62、242ページ)。バッテリー充電のたびにリセットされる場合は、内蔵充電式バックアップ電池が消耗している場合があるため、相談窓口にお問い合わせください。

撮影残り画像数が減らなかったり、一度に2枚減ったりする。

- JPEG画像の場合、画像によって圧縮率や圧縮後のファイルサイズが変わるためです(149ページ)。

リセット操作をしていないのに、設定内容がリセットされる。

- 電源スイッチが「ON」のままバッテリーを取り出しました。バッテリーを取り出すときは、電源スイッチを「OFF」にして、アクセスランプが点灯していないのを確かめてから取り出してください(19、56ページ)。

本機が正常に作動しない。

- 本機の電源を切ってバッテリーを一度取り出し、入れ直してください。温度が上がっているときには、いったんバッテリーを取りはずし、本機の温度が下がってからこれらの処置を行ってください。
- ACアダプター(別売)使用時は、一度コードを抜いて、電源を入れ直してください。それでも直らない場合や何度も繰り返す場合は故障ですので、お買いあげ店または相談窓口にお問い合せください。

画面に ERROR が表示される。

- 手ブレ補正機能が作動していません。そのまま撮影できますが、手ブレ補正は機能しません。電源スイッチをいったん「OFF」にして、再度「ON」にしてください。それでも戻らない場合は、お買い上げ店または相談窓口にお問い合わせください。

画面に「--E-」が表示される。

- メモリーカードを一度取り出し、入れ直してください。それでも直らない場合は、メモリーカードをフォーマットしてください。

警告表示

画面には、次のような表示が出ることがあります。

エリア/日付/時刻を設定してください

- エリアと日付、時刻を設定する。長時間使用していない場合は内蔵の充電式バックアップ電池を充電する（62、242ページ）。

電池が少ないので実行できません

- イメージセンサーのクリーニングを実行しようとしたが、バッテリー残量が少ないので実行できない。バッテリーを充電するか、ACアダプター（別売）を使用する。

このメモリーカードは使えません フォーマットしますか？

- パソコンでフォーマットを行い、ファイルシステムを変更した。[実行]を選んでフォーマットを行ってください。本機で使用できるようになりますが、カード内のデータはすべて削除されます。また、フォーマットに多少時間がかかることがあります。それでもメッセージが出る場合は、カードを交換してください。

メモリーカードエラー

- 本機では使えないカードが入っている。または、フォーマットに失敗した。

メモリーカードを入れ直してください

- 本機では使えないメモリーカードが入っている。
- メモリーカードが壊れている。
- メモリーカードの端子が汚れている。

メモリーカードがロックされています

- 書き込み禁止スイッチまたは誤消去防止スイッチのあるメモリーカードを使用し、スイッチが「LOCK」になっている。解除する。

ノイズリダクション実行中

- 長秒時ノイズリダクション、高感度ノイズリダクションが機能した場合、シャッターが開いていた時間分だけ、ノイズ軽減処理を行う。この間は次の撮影はできない。

表示できない画像です

- 他のカメラで撮影した画像や、パソコンで画像を加工した場合は表示できないことがある。

レンズの装着を確認してください 非対応レンズの場合は、カスタムメニューでレリーズを許可にできます

- レンズが正しく装着されていない。またはレンズが取り付けられていない。
- 天体望遠鏡などにカメラを取り

付ける場合は、[レンズなし時のレリーズ]を[許可]にする。

DPOF指定できません

- RAW画像をDPOF指定しようとしている。

しばらく使用できません カメラの温度が下がるまでお待ちください

- 連続撮影したため、本機の温度が上がった。
本機の電源を切って、本機の温度が下がり再び撮影可能になるのを待ってから撮影してください。

[↓!]

- 長時間撮影したため、本機の温度が上がった。撮影を終了してください。

この動画記録方式では 撮影できません

- [記録方式]を[MP4]にしてください。

FULL

- 本機で日付を管理できる枚数を越えている。

ERROR

- 本機の管理ファイルへの記録ができない。「PlayMemories Home」で、すべての画像をパソコンに取り込み、メモリーカードを修復してください。

カメラエラー システムエラー

- 本機の電源を切ってバッテリーを一度取り出し、入れ直す。何度も繰り返す場合は相談窓口にお問い合わせください。

管理ファイルに不整合が見つかりました 修復しますか？

- 管理ファイルが破損しているため、AVCHD動画の撮影、再生ができない。画面の指示に従い修復してください。

拡大できません 回転できない画像です

- 他のカメラで撮影した画像は、拡大/回転できないことがある。

これ以上フォルダー作成できません

- 上3桁の番号が「999」のフォルダーがメモリーカード内にある。本機でこれ以上のフォルダーを作成できません。

本体のお手入れ

カメラ本体の清掃

- レンズ信号接点、ミラーなどマウントの内側にある本機の内部の部品には触れないでください。ミラーおよびその周辺のほこりは画像やカメラ性能に影響を与えることがあるため、市販のブロアー *で吹き飛ばしてください。イメージセンサーの清掃は239ページをご覧ください。
  * スプレー式のブロアーは故障の原因となりますので使用しないでください。
- その他、本体表面の清掃は、水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽く拭いたあと、からぶきします。本機の表面が変質したり塗装がはげたりすることがあるので、以下はご使用にならないでください。
  – シンナー、ベンジン、アルコール、化学ぞうきん、虫除け、日焼け止め、殺虫剤のような化学薬品類
  – 上記が手についたまま本機を扱うこと
  – ゴムやビニール製品との長時間の接触

レンズの清掃

- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
- レンズ面を清掃するときは、市販のブロアーでほこりなどを取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くように軽くふいてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけないでください。

イメージセンサーをクリーニングする

本機内にゴミやほこりが入ってイメージセンサー（光を電気信号に変える部分）に付着すると、撮影条件によっては、ゴミやほこりが画像に写り込むことがあります。付着した場合は、以下の手順でイメージセンサーの清掃を行ってください。

ご注意

- バッテリー残量が50%以下のときは、クリーニングモードは行えません。
- クリーニング中にバッテリー残量が少なくなった場合は、本機のブザーが鳴ってお知らせします。すぐにクリーニングを中断して、電源を切ってください。ACアダプター AC-PW10AM（別売）の使用をおすすめします。
- 清掃はすみやかに行ってください。
- スプレー式のブロアーは、水滴が本機内部に飛び散るので使用しないでください。

カメラで自動クリーニングを行う

1 バッテリー容量が充分にあることを確認する（57ページ）。

2 MENUボタン → 4 → [クリーニングモード] を選ぶ。

3 マルチセレクターの▲で [実行] を選び、中央を押す。

イメージセンサーが短時間振動して、ゴミをふるい落とす。

4 本機の電源を切る。

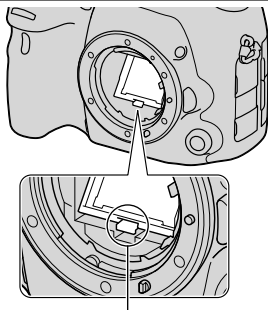
ブロアーを使って清掃を行う

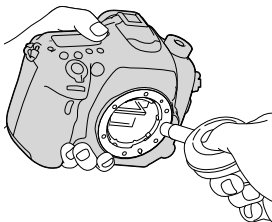
カメラで自動クリーニングを行ったあと、更に清掃が必要な場合には、以下の手順でブロアーを使った清掃を行ってください。

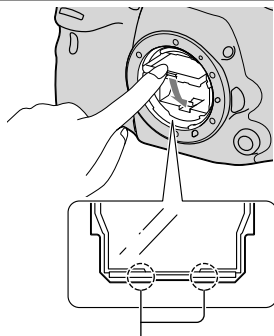
1 「カメラで自動クリーニングを行う」の1 ～ 3の手順でクリーニングモードを実行する。

2 レンズをはずす（60ページ）。

3 ミラーロックレバーを指先で押し、ミラーを跳ね上げる。

- ミラー表面には触らないように注意する。

4 ブロアーでイメージセンサー表面とその周辺のほこりを吹き飛ばす。

- ブロアーの先端をイメージセンサーに当てないようにして、マウントより中に入れない。
- ほこりが下に落ちやすいよう、本機をやや下向きにして手早く行う。
- ミラー裏面のほこりもブロアーで清掃する。

5 清掃終了後、カチッと音がするまで指でミラーを押し下げる。

- ミラーの枠の部分を指で押し下げる。ミラー表面には触れないように注意する。
- 確実にロックされるまで、ミラーを押し下げる。

どちらか一方を押して下げる

6 レンズを取り付けて、本機の電源を切る。

- レンズを取り付ける際には、ミラーが確実に下がっていることを確認する。

ご注意

- 清掃終了後、レンズを取り付ける際には、ミラーが確実に下がっていることを確認してください。レンズを傷つけたり、故障につながる場合があります。また、ミラーが下がり切っていないと、撮影の際、オートフォーカスでピント合わせができなくなります。
- ミラーを上げた状態のまま撮影することはできません。
- 上記の手順でクリーニングを行っても取れない場合は、相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

使用上のご注意

使用/保管してはいけない場所

- 異常に高温になる場所
  炎天下や夏場の窓を閉め切った自動車内は特に高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
- 直射日光の当たる場所、熱器具の近くでの保管。
  変色したり、変形したり、故障したりすることがあります。
- 激しい振動のある場所
- 強力な磁気のある場所
- 砂地、砂浜などの砂ぼこりの多い場所
  海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因になるばかりか、修理できなくなることもあります。
- 湿度の高い場所
  レンズにカビが発生することがあります。

保管方法

使用しないときは、必ずレンズフロントキャップまたはボディキャップを付けてください。ボディキャップを付ける際には、本機内部にほこりが入るのを防ぐため、ボディキャップのほこりを落としてから付けてください。

動作温度にご注意ください

本機の動作温度は約0 ～ 40℃です。動作温度範囲を超える極端に寒い場所や暑い場所での撮影はおすすめできません。

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の内部や外部に水滴が付くことです。この状態でお使いになると、故障の原因になります。

結露を起こりにくくするために

本機を寒いところから急に暖かい所に持ち込むときは、ビニール袋に本機を入れて、空気が入らないように密閉してください。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

結露が起きたときは

電源を切って結露がなくなるまで約1時間放置し、結露がなくなってからお使いください。特にレンズの内側に付いた結露が残ったまま撮影すると、きれいな画像を記録できませんのでご注意ください。

内蔵の充電式バックアップ電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入/切や電池の有無に関係なく保持するために充電式バックアップ電池を内蔵しています。充電式バックアップ電池は本機を使用している限り常に充電されていますが、使う時間が短いと徐々に放電し3か月程度まったく使わないと完全に放電してしまいます。充電してから使用してください。ただし、充電式バックアップ電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使うことができます。バッテリー充電のたびにリセットされる場合は、内蔵充電式バックアップ電池が消耗している場合があります。相談窓口にお問合せください（裏表紙）。

内蔵の充電式バックアップ電池の充電方法

本機に充電されたバッテリーを入れるか、ACアダプター（別売）を使ってコンセントにつないで、本機の電源を切ったまま24時間以上放置する。

レンズとアクセサリーについてのご注意

本機には、カメラの特性に適合するように設計されたソニー製レンズ/アクセサリー *のご使用をおすすめします。他社製品と組み合わせて使用した際の性能や、それによって生じた事故、故障につきましては保証いたしかねますので、あらかじめご了承ください。
* コニカミノルタ製を含みます。

メモリーカードについて

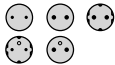
メモリーカードおよびカードアダプターにラベルなどを貼らないでください。故障の原因になります。

本機の廃棄/譲渡に関するご注意

個人情報保護のため、本機を廃棄、譲渡するときは以下の操作を行ってください。
- [設定リセット] → [設定値リセット]（203ページ）
- 個人顔の全削除（153ページ）

メモリーカードを廃棄/譲渡するときのご注意

本機やパソコンの機能による[フォーマット]や[削除]では、メモリーカード内のデータは完全には消去されないことがあります。メモリーカードを譲渡するときは、パソコンのデータ消去専用ソフトなどを使ってデータを完全に消去することをおすすめします。また、メモリーカードを廃棄するときは、メモリーカード本体を物理的に破壊することをおすすめします。

撮影・再生に際してのご注意

- メモリーカードの動作を安定させるために、メモリーカードを本機ではじめてお使いになる場合には、まず、本機でフォーマットすることをおすすめします。
  フォーマットすると、メモリーカードに記録されているすべてのデータは消去され、元に戻すことはできません。大切なデータはパソコンなどに保存しておいてください。
- 長期間、画像の撮影・消去を繰り返しているとメモリーカード内のファイルが断片化（フラグメンテーション）して、動画記録が途中で停止してしまう場合があります。このような場合は、パソコンなどに画像を保存したあと、[フォーマット]（194ページ）を行ってください。
- 必ず事前にためし撮りをして、正常に記録されていることを確認してください。

- 本機は防じん、防滴性に配慮して設計されていますが、防水性能は備えていません。雨中での使用時は、本機やレンズに雨がかからないようにしてください。使用後に汚れた場合は、本機を清掃してください。水、砂、ほこり、塩分などが本機に残っていると、故障の原因になります。
- ファインダーや取りはずしたレンズを通して、太陽や強い光を見ないでください。目に回復不可能なほどの障害をきたすおそれがあります。また故障の原因になります。
- 強力な電波を出すところや放射線のある場所で使わないでください。正しく撮影・再生ができないことがあります。
- 砂やほこりの舞っている場所でのご使用は故障の原因になります。
- 結露が起きたときは、結露を取り除いてからお使いください(242ページ)。
- 本機に振動や衝撃を与えないでください。誤作動したり、画像が記録できなくなるだけでなく、メモリーカードが使えなくなったり、撮影済みの画像データが壊れることがあります。
- 本機や付属品などは乳幼児の手の届く場所に置かないでください。メモリーカードなどを飲みこむ恐れがあります。万一飲みこんだ場合は、直ちに医師に相談してください。

海外で使用するには

バッテリーチャージャーやACアダプター AC-PW10AM（別売）は全世界（AC100V ～ 240V・50/60Hz）で使えます。ただし、地域によってはコンセントに差し込むための変換プラグアダプターが必要になる場合があります。あらかじめ旅行代理店などでおたずねのうえ、ご用意ください。

コンセント形状例		
地域	主に北米	主にヨーロッパ
変換プラグアダプター	不要	必要

ご注意

- 電子式変圧器（トラベルコンバーター）は不要です。故障の原因となるので使わないでください。

海外のテレビで見る（カラーテレビ出力方式）

本機で撮影した画像をテレビで見るときは、本機と同じカラーテレビ方式（NTSC）のテレビが必要です。

NTSC方式

日本、アメリカ、エクアドル、カナダ、韓国、コロンビア、ジャマイカ、スリナム、台湾、中央アメリカ、チリ、バハマ、フィリピン、ベネズエラ、ペルー、ボリビア、メキシコ、など

PAL方式

イギリス、イタリア、インドネシア、オーストラリア、オーストリア、オランダ、クウェート、クロアチア、シンガポール、スウェーデン、スイス、スペイン、スロバキア、タイ、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、ニュージーランド、ノルウェー、ハンガリー、フィンランド、ベトナム、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マレーシア、ルーマニア、など

PAL-M方式

ブラジル

PAL-N方式

アルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイ

SECAM方式

イラク、イラン、ウクライナ、ギリシャ、フランス領ギアナ、フランス、ブルガリア、モナコ、ロシア、など

AVCHD規格について

「AVCHD」規格は、高効率の圧縮符号化技術を用いて、1080i方式[*1]や720p方式[*2]のHD（ハイビジョン）信号を記録するハイビジョンデジタルビデオカメラ用に開発された規格です。映像圧縮にはMPEG-4 AVC/H.264方式を、音声にはドルビーデジタル方式、または、リニアPCM方式を採用しています。
MPEG-4 AVC/H.264方式は、従来の画像圧縮方式に比べ、さらに高い圧縮効率を持った優れた方式です。この方式により、8cmDVDディスク、ハードディスクドライブ、フラッシュメモリ、メモリーカードなどにデジタルビデオカメラの高画質なハイビジョン映像信号を記録することができます。

本機での記録・再生について

本機ではAVCHD規格に基づき、以下の仕様でHD（ハイビジョン）記録ができます。
映像[*3]：MPEG-4 AVC/H.264　1920×1080/60i、1920×1080/60p、1920×1080/24p
音声：ドルビーデジタル2ch
記録メディア：メモリーカード

*1 1080i 有効走査線数1080本、インターレース方式のハイビジョン規格
*2 720p 有効走査線数720本、プログレッシブ方式のハイビジョン規格
*3 本機は、上記以外のAVCHD規格で記録されたデータの再生には対応していません。

GPSについて

GPS衛星は、高度20,000kmの6つの軌道上に各4個、24個以上が設置されています。
GPS衛星からの電波を受信し、衛星の軌道情報(アルマナックデータ)と電波の伝播時間のデータなどから自分の位置を計算します。
位置を計算することを測位と呼び、衛星は3機以上受信できれば、緯度、経度がわかります。

- GPS衛星の配置は常に変化しているため、ご使用になる場所や時刻などの条件によっては測位に時間がかかったり、測位できないことがあります。
- GPSは衛星から電波を受信し測位するシステムです。ビルや木立の陰など、電波を遮断・反射してしまう場所を避け、できるだけ上空の開けた場所でご使用ください。
- GPS衛星からの電波が届かない以下のような場所や状況では、位置情報を記録できないことがあります。
  - トンネルの中・屋内やビルの陰
  - 高層ビルの間・建物の間の狭い道路
  - 地下・密集した樹木の間・高架の下・高圧電線など、近くに磁気を発生するものがある場合
  - 1.5GHz帯の携帯電話など、近くに同じ周波数帯の電波を発生するものがある場合
- [GPS機能]が[入]の状態で撮影した画像をインターネットに公開、共有すると、意図せずに撮影場所が第三者に知られる可能性があります。その場合は[GPS機能]を[切]にして撮影してください(199ページ)。

誤差について

- 本体電源を入れた直後に移動すると、移動しなかった場合にくらべて、測位までの時間が長くなることがあります。
- GPS衛星自体による誤差
  本機は、3個以上のGPS衛星からの電波を受信すると自動的に現在地を測位します。GPS衛星自体による誤差は、約30m程度ですが、測位する周辺の環境によってはさらに大きな誤差を生じることがあります。このような場合は、実際に居た場所と地図上での位置が異なることがあります。また、GPS衛星は米国国防総省により管理されており、意図的に精度が変更されることがあります。
- 測位時間による誤差
  本機では測位中に位置情報を約15秒ごとに取得しています。位置情報の取得と画像への書き込みに若干の時間差があるため、実際に画像を撮影した位置と地図上の位置が異なる場合があります。

飛行機内規制について

飛行機の離着陸時には、機内の案内に従って本体電源をお切りください。

その他の規制について

GPS機能は、ご利用になる国や地域の規制に従ってお使いください。

測地系について

本機では、測地系として、「WGS-84」を採用しています。

メモリーカードについて

メモリーカード使用上のご注意

- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 以下のような場所でのご使用や保管は避けてください。
  - 高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所
  - 直射日光のあたる場所
  - 湿気の多い場所や腐食性のものがある場所
- 長時間使用した直後のメモリーカードは熱くなっています。ご注意ください。
- アクセスランプ点灯中は、絶対にメモリーカードを取り出したり、バッテリーを取りはずしたり、電源を切らないでください。データが壊れることがあります。
- 強い磁気のそばにメモリーカードを近づけたり、静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合、データが壊れることがあります。
- 大切なデータは、パソコンのハードディスクなどにバックアップを取っておくことをおすすめします。
- メモリーカードの持ち運びや保管の際は、付属の収納ケースに入れてください。
- 水にぬらさないでください。
- 端子部には手や金属で触れないでください。
- 書き込み禁止スイッチや誤消去防止スイッチが「LOCK」になっていると画像の記録や消去などができなくなります。この場合はロックを解除してください。
- パソコンでフォーマットしたメモリーカードは、本機での動作を保証しません。本機でフォーマットしてください。
- お使いのメモリーカードと機器の組み合わせによっては、データの読み込み/書き込み速度が異なります。
- メモエリアに書き込むときは、あまり強い圧力をかけないでください。
- メモリーカード本体にラベルなどを貼らないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 小さいお子さまの手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲みこむおそれがあります。

本機で使用できる"メモリースティック"についてのご注意

本機で使用できるものは下記のとおりです。ただし、すべての"メモリースティック PRO デュオ"の動作を保証するものではありません。

"メモリースティック PRO デュオ" *1*2*3

"メモリースティック PRO-HG デュオ" *1*2

本機で使用可能です。

“メモリースティック デュオ”

本機では使用できません。

“メモリースティック”
“メモリースティック PRO”

本機では使用できません。

*[1]マジックゲート搭載の“メモリースティック デュオ”です。
“マジックゲート”とは、暗号化技術を使って著作権を保護する技術です。本機ではマジックゲート機能が必要なデータの記録/再生はできません。

*[2]パラレルインターフェースを利用した高速データ転送に対応しております。

*[3]動画撮影時はMark2マークの付いたもののみ使えます。

- 使用可能な“メモリースティック”についての最新情報は、ホームページ上の「“メモリースティック”対応表」をご確認ください。
  http://www.sony.co.jp/mstaiou/

“メモリースティック マイクロ”(別売)使用上のご注意

- 本製品は“メモリースティック マイクロ”(“M2”)に対応しています。
  “M2”は“メモリースティック マイクロ”の略称です。
- “メモリースティック マイクロ”を本機でお使いの場合は、必ず“メモリースティック マイクロ”をデュオサイズのM2アダプターに入れてからお使いください。デュオサイズのM2アダプターに装着されていない状態で挿入すると、“メモリースティック マイクロ”が取り出せなくなる可能性があります。
- “メモリースティック マイクロ”は小さいお子さまの手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲み込むおそれがあります。

バッテリー/バッテリーチャージャーについて

- バッテリーの残量や、充電環境によって、充電時間は異なります。
- 周囲の温度が10℃～ 30℃の環境で充電してください。これ以外では、効率のよい充電ができないことがあります。
- バッテリーチャージャーを取り付けるときは、お手近なコンセントをお使いください。
- 充電終了直後またはそれに近い状態のバッテリーを未使用のまま、何度も充電を繰り返さないでください。バッテリーの性能に影響します。
- バッテリーチャージャー（付属）で、"インフォリチウム"Mシリーズ以外のバッテリーを充電しないでください。指定以外のバッテリーを充電すると、バッテリーの液漏れ、発熱、破裂、感電の原因となり、やけどやけがをするおそれがあります。
- CHARGEランプが点滅した場合は、バッテリーの異常、または指定以外のバッテリーが挿入された場合が考えられます。指定のバッテリーかどうか確認してください。また、指定のバッテリーを挿入している場合は、一度バッテリーを抜き、新品のバッテリーなど、別のバッテリーを挿入してバッテリーチャージャーが正常に動作するか確認してください。バッテリーチャージャーが正常に動作する場合は、バッテリーの異常が考えられます。
- バッテリーチャージャーが汚れていると正常に充電できないことがあります。乾いた布などで汚れを拭き取ってください。

バッテリー使用上のご注意

- バッテリーはNP-FM500Hをご使用ください。NP-FM55H、NP-FM50、NP-FM30は使用できません。
- 使用状況や環境によっては、残量表示は正しく表示されません。
- バッテリーは防水構造ではありません。水などにぬらさないようにご注意ください。
- 高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所に放置しないでください。

バッテリーの上手な使いかた

- 周囲の温度が低いと、バッテリーの性能は低下し、使用できる時間は短くなります。また、連写の速度も遅くなります。バッテリーをポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前、本機に取り付けることをおすすめします。
- フラッシュ撮影や連続撮影、電源の入り切りなどを頻繁にしたり、液晶モニターを明るく設定すると、バッテリーの消費が早くなります。

バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをご購入ください。
- 寿命は、保管方法、使用状況や環境、バッテリーパックごとに異なります。

保管方法について

バッテリーを長持ちさせるためには、長時間使用しない場合でも、1年に1回程度充電して本機で使い切り、その後本機からバッテリーを取りはずして、湿度の低い涼しい場所で保管してください。

ライセンスについて

ライセンスに関する注意

本製品には、弊社がその著作権者とのライセンス契約に基づき使用しているソフトウェアが搭載されております。当該ソフトウェアの著作権者様の要求に基づき、弊社はこれらの内容をお客様に通知する義務があります。
ライセンス内容（英文）に関しては、CD-ROMの「LICENSE」フォルダ内にあるファイルをご一読ください。

本製品は、MPEG LA, LLC.がライセンス活動を行っているAVC PATENT PORTFOLIOLICENSEの下、次の用途に限りライセンスされています：
（i）消費者が個人的、非営利の使用目的で、MPEG-4 AVC規格に合致したビデオ信号（以下、AVC VIDEOといいます）にエンコードすること。
（ii）AVC Video（消費者が個人的に非営利目的でエンコードしたもの、若しくはMPEGLAよりライセンスを取得したプロバイダーがエンコードしたものに限られます）をデコードすること。なお、その他の用途に関してはライセンスされていません。プロモーション、商業的に利用することに関する詳細な情報につきましては、MPEG LA, LLC.のホームページをご参照ください。

GNU GPL/LGPL適用ソフトウェアに関するお知らせ

本製品には、以下のGNU General Public License（以下「GPL」とします）または、GNU Lesser General Public License（以下「LGPL」とします）の適用を受けるソフトウェアが含まれております。お客様は添付のGPL/LGPLの条件に従いこれらのソフトウェアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があることをお知らせいたします。
ソースコードは、Webで提供しております。
ダウンロードする際には、以下のURLにアクセスしてください。
http://www.sony.net/Products/Linux/
なお、ソースコードの中身についてのお問い合わせはご遠慮ください。

ライセンス内容（英文）に関しては、CD-ROMの「LICENSE」フォルダ内にあるファイルをご一読ください。

保証書とアフターサービス

必ずお読みください

記録内容の補償はできません

万一、カメラやメモリーカードなどの不具合などにより記録や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

保証書は国内に限られています

このカメラは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

"困ったときは"の項を参考にして故障かどうかお調べください。それでも具合の悪いときは相談窓口にご相談ください(裏表紙)。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の交換について

この商品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

部品の保有期間について

当社はカメラの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を製造打ち切り後7年間保有しています。

αハンドブックについて

「αハンドブック」は、CD-ROM（付属）に収録されています。電子データで見たいときにご覧ください。

- 「αハンドブック」を見るには、Adobe Reader が必要です。インターネットから無償でダウンロードできます。
  http://www.adobe.co.jp

Windowsをお使いの場合

1 パソコンの電源を入れ、CD-ROM（付属）をCD-ROMドライブに入れる。

2 [ハンドブック]をクリックする。

3 [インストール]をクリックする。

4 デスクトップ上のショートカットから起動する。

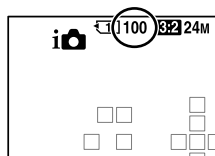
Macをお使いの場合

1 パソコンの電源を入れ、CD-ROM（付属）をCD-ROMドライブに入れる。

2 [Handbook] → [JP]の順に選び、[JP]フォルダー内の“Handbook.pdf”をパソコンにコピーする。

3 コピーが完了したら、“Handbook.pdf”をダブルクリックする。

撮影可能枚数/時間を確認する

メモリーカードを入れて電源スイッチを「ON」にすると、画面に、撮影可能枚数（現在の設定で撮影を続けると、あと何枚撮影できるか）が表示されます。

ご注意

- 撮影可能枚数が「0」で黄色く点滅したときは、メモリーカードの容量がいっぱいです。メモリーカードを交換するか、メモリーカード内の画像を削除してください（71、182ページ）。
- 撮影可能枚数が「NO CARD」で黄色く点滅したときは、メモリーカードが入っていません。メモリーカードを入れてください。

1枚のメモリーカードで撮影できる枚数

本機でフォーマットしたメモリーカードに記録できる撮影枚数の目安は次のとおりです。当社試験基準メモリーカード使用時の枚数です。撮影状況および使用するメモリーカードによって記録可能枚数は異なります。

画像サイズ：L 24M 横縦比3：2のとき* 本機でフォーマットしたメモリーカード

（単位：枚）

容量 / 画質	2GB	4GB	8GB	16GB	32GB	64GB
スタンダード	280	560	1100	2250	4600	9200
ファイン	195	395	800	1600	3200	6400
RAW＋JPEG	54	105	215	435	870	1750
RAW	74	145	295	600	1200	2400

* ［横縦比］を［16:9］に設定しているときは、上記の枚数より多く記録できます（RAW設定時はのぞく）。

1つのバッテリーで撮影できる枚数

充電したバッテリー（付属）で撮影できる枚数の目安は以下の通りです。使用状況によって撮影可能枚数は異なります。

液晶モニターモード時	約500枚
ファインダーモード時	約410枚

- 充電したバッテリーを使い、下記の条件で測定した数値です。
  - 温度が25℃
  - バッテリーチャージャーのCHARGEランプ消灯後、約1時間充電
  - 当社製の"メモリースティック PRO デュオ"（別売）使用
  - メモリーカードスロット1に"メモリースティック PRO デュオ"を挿入し、メモリーカードスロット2には何も入れない
  - ［画質］が［ファイン］
  - ［フォーカスモード］が［AF制御自動切り換え］
  - 30秒ごとに1回撮影
  - 10回に1度、電源を入/切する
  - ［GPS機能］が［切］
- 測定方法はCIPA規格による
  （CIPA：カメラ映像機器工業会、Camera & Imaging Products Association）

動画の記録可能時間

本機でフォーマットしたメモリーカードに記録できる、動画ファイルの合計記録時間の目安です。

本機でフォーマットしたメモリーカード

記録方式 サイズ ＼ 容量	2GB	4GB	8GB	16GB	32GB	64GB
AVCHD 60i 24M（FX）	10分	20分	40分	1時間30分	3時間	6時間
AVCHD 60i 17M（FH）	10分	30分	1時間	2時間	4時間5分	8時間15分
AVCHD 60p 28M（PS）	9分	15分	35分	1時間15分	2時間30分	5時間5分
AVCHD 24p 24M（FX）	10分	20分	40分	1時間30分	3時間	6時間
AVCHD 24p 17M（FH）	10分	30分	1時間	2時間	4時間5分	8時間15分
MP4 1440×1080 12M	20分	40分	1時間20分	2時間45分	5時間30分	11時間5分
MP4 VGA 3M	1時間10分	2時間25分	4時間55分	10時間	20時間5分	40時間15分

ご注意

- 撮影シーンに合わせて動画の画質を自動調節するVBR（Variable Bit Rate）方式を採用しているため記録時間が変動します。動きの速い映像を記録する場合、メモリーの容量を多めに使用してより鮮明な画像を記録しますが、その分記録時間は短くなります。また、撮影環境や被写体の状態、画質/画像サイズの設定によっても記録時間は変動します。
- 表の数値は連続撮影時間ではありません。
- 撮影環境や使用するメモリーカードによって記録時間が異なる場合があります。
- [!] が表示された場合は動画撮影を終了してください。
  本機の温度が上がっています。
- 動画の再生については70ページをご覧ください。

動画の連続撮影についてのご注意

- イメージセンサーを使った高精彩な動画や高速で連写を行うには多くの電力を必要とします。そのため連続して撮影し続けることでカメラ内部、特にイメージセンサーの温度が上昇します。温度の上昇は画質への影響やカメラ内部に対して負荷が生じるので自動的に電源が切れる仕様となっています。
- しばらく電源を切った状態から撮影を開始した場合、下記の連続動画撮影が可能です（記録開始から停止するまでの時間です）。

環境温度	連続動画撮影時間
20℃	約29分
30℃	約29分
40℃	約29分

- 連続動画撮影時間は温度環境や動画撮影前の使用状況により変動します。カメラの電源を入れ、構図確認や静止画撮影を繰り返し使用していた場合には、カメラ内部の温度が上昇しますので、上記の動画撮影時間より短くなります。
- 温度の上昇により動画撮影が停止した場合、電源を切ったまま数分間放置し、カメラの温度が下がってから撮影を再開してください。
- 以下の点に気を付けると、より長く動画を撮影することができます。
  – できるだけ直射日光を避ける
  – 使用しないときはこまめに電源を切る
- 1つの動画ファイルは約2GBで制限されます。連続記録中のファイルサイズが約2GBになると、[記録方式]が[MP4]の場合は、自動的に記録が止まり、[記録方式]が[AVCHD]の場合は、自動的に新しいファイルが作成されます。
- 動画の連続撮影は最長でも約29分で停止します。

主な仕様

本体

[形式]

カメラタイプ	レンズ交換式デジタルカメラ
使用レンズ	Aマウントレンズ* * DTレンズ使用時は自動的にAPS-Cサイズ撮影になります。

[撮像部]

撮像素子	35 mmフルサイズ(35.8 mm×23.9 mm)、CMOSイメージセンサー
総画素数	約24 700 000画素
カメラ有効画素数	約24 300 000画素

[手ブレ補正]

静止画撮影時	形式：イメージセンサーシフト方式 効果：シャッタースピード 約2.5段～ 4.5段(撮影条件・レンズにより異なる)
動画撮影時	形式：電子式

[アンチダスト]

システム	帯電防止コートとイメージセンサーシフト駆動の併用

[オートフォーカス]

形式	TTL位相差検出方式、 19点(11点クロスタイプ)、およびアシスト102点* * アシスト機能は対応レンズのみ使用できます。
検出輝度範囲	EV −1 ～ EV 18（ISO 100相当）
AF補助光	約1 m ～ 7 m

[ファインダー]

形式	電子式ビューファインダー
画面サイズ	1.3cm（0.5型）
総ドット数	2 359 296ドット
視野率	100%

倍率	0.71倍（50 mmレンズ、無限遠、視度−1 m^{-1}時）
アイポイント	最終光学面から約27 mm、接眼枠から約22 mm（視度−1 m^{-1}時）
視度調整	−4.0 m^{-1} ～＋3.0 m^{-1}（ディオプター）

[液晶モニター]

形式	7.5 cm（3.0型）TFT駆動
ドット数	1 228 800ドット

[露出制御]

測光素子	"Exmor" CMOSセンサー
測光方式	1200分割ライブビュー分析測光
測光範囲	EV −2 ～＋17（ISO100相当、F1.4レンズ使用）
ISO感度（推奨露光指数）	静止画撮影時:オート、ISO50 ～ 25600（1/3EVステップ） 動画撮影時:オート、ISO100 ～ 6400相当（1/3EVステップ） マルチショットNR：オート、ISO100 ～ 51200
露出補正	±5.0EV（1/3、1/2EVステップ切り換え可能）

[シャッター]

形式	電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター
シャッタースピード範囲	静止画撮影時：1/8000 ～ 30秒、バルブ 動画撮影時：1/8000 ～ 1/4秒（1/3段ステップ）、AUTO時は1/60秒まで（オートスローシャッター 1/30まで）
フラッシュ同調速度	1/250秒

[連続撮影]

連続撮影速度	テレコン連続撮影優先AE：毎秒最高約10枚/ Hi：毎秒最高約6枚/ Lo：毎秒最高約2.5枚 • 弊社測定条件による。撮影条件によっては連続撮影の速度が遅くなります。
最大連続撮影枚数（"メモリースティック PRO-HG デュオ"使用時）	テレコン連続撮影優先AE（毎秒最高約10枚）時 エクストラファイン：18枚/ファイン：22枚/スタンダード：24枚 連続撮影 Hi 時 エクストラファイン：14枚/ファイン：18枚/スタンダード：20枚/RAW+JPEG：11枚/RAW：13枚

- 被写体、メモリーカードの種類によって変わります。マニュアルでISO320以下に設定、もしくは高感度ノイズリダクションを[切]に設定した場合の数値です。

[拡大再生]

拡大倍率範囲　画像サイズ：L：約1.0 ～ 16.7倍/M：約1.0 ～ 11.8倍/S：約1.0 ～ 8.3倍

[記録方式]

静止画記録方式　JPEG（DCF Ver.2.0、Exif Ver.2.3、MPF Baseline）準拠、RAW（ソニー ARW 2.3フォーマット）

動画記録方式（AVCHD方式）
AVCHD規格 Ver2.0準拠
映像：MPEG-4 AVC/H.264
音声：Dolby Digital 2ch
ドルビーデジタルステレオクリエーター搭載
- ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。

動画記録方式（MP4方式）
映像：MPEG-4 AVC/H.264
音声：MPEG-4 AAC-LC 2ch

[記録メディア]

“メモリースティック PRO デュオ”、SDカード

[スロット]

SLOT1　“メモリースティック PRO デュオ”、SD（UHS-I対応）カード用マルチスロット

SLOT2　SD（UHS-I対応）カード用スロット
2メモリーカード間のオペレーション

[入出力端子]

USB端子　miniB、Hi-Speed USB（USB2.0）

HDMI端子　HDMIミニ端子

（マイク）端子　∅3.5 mmステレオミニジャック

（ヘッドホン）端子　∅3.5 mmステレオミニジャック

REMOTE端子

[電源]

バッテリー	リチャージャブルバッテリーパックNP-FM500H
消費電力(撮影時)	ファインダー使用時：約4.2 W 液晶モニター使用時：約3.6 W (SAL2470Zレンズ装着、静止画撮影時)

[その他]

マイクロホン	ステレオ
スピーカー	モノラル
PRINT Image Matching III	対応
Exif Print	対応
DPOF	対応
外形寸法	約147 mm×111.2 mm×78.4 mm（幅×高さ×奥行き、突起部を除く）
本体質量	約812 g（バッテリー、"メモリースティック PRO デュオ"を含む） 約733 g（本体のみ）
動作温度	0℃～ 40℃

シューアダプター ADP-MAA

質量	約12 g
外形寸法	約26 mm×20.1 mm×26 mm（幅×高さ×奥行き、突起部を除く）

バッテリーチャージャー BC-VM10A

定格入力	AC100 V – 240 V、50 Hz/60 Hz、9 W
定格出力	DC 8.4 V、0.75 A
動作温度	0℃～ 40℃
保存温度	−20℃～+60℃
最大外形寸法	約70 mm×25 mm×95 mm（幅×高さ×奥行き）
本体質量	約90 g

リチャージャブルバッテリーパックNP-FM500H

使用電池	リチウムイオン蓄電池	
最大電圧	DC 8.4 V	
公称電圧	DC 7.2V	
容量	公称容量	11.8 Wh（1 650 mAh）
	定格(最小)容量	11.5 Wh（1 600 mAh）
最大外形寸法	約38.2 mm×20.5 mm×55.6 mm（幅×高さ×奥行き）	
本体質量	約78 g	

本機や付属品の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

画像の互換性について

- 本機は、(社)電子情報技術産業協会(JEITA)にて制定された統一規格"Design rule for Camera File system"(DCF)に対応しています。
- 本機で撮影した画像の他機での再生、他機で撮影/修正した画像の本機での再生は保証いたしません。

商標について

- α はソニー株式会社の商標です。
- “Memory Stick”、“メモリースティック”、、“Memory Stick PRO”、“メモリースティック PRO”、MEMORY STICK PRO、“Memory Stick Duo”、“メモリースティックデュオ”、MEMORY STICK DUO、“Memory Stick PRO Duo”、“メモリースティックPRO デュオ”、MEMORY STICK PRO DUO、“Memory Stick PRO-HG Duo”、“メモリースティックPRO-HGデュオ”、MEMORY STICK PRO-HG DUO、“メモリースティックマイクロ”、“MagicGate”、“マジックゲート”および MAGICGATE はソニー株式会社の商標です。
- “InfoLITHIUM（インフォリチウム）”は、ソニー株式会社の商標です。
- “ブラビア プレミアムフォト”は、ソニー株式会社の商標です。
- AVCHD ProgressiveおよびAVCHD Progressiveロゴは、パナソニック株式会社とソニー株式会社の商標です。
- Blu-ray Disc™およびBlu-ray™はブルーレイディスクアソシエーションの商標です。
- Dolby、ドルビー、およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
- Microsoft、Windows、DirectX、Windows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface およびHDMIロゴは、HDMI Licensing LLC の商標もしくは米国およびその他の国における登録商標です。
- Mac、Mac OSはApple Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。
- Intel、Intel Core、MMX、PentiumはIntel Corporationの登録商標または商標です。
- SDXCロゴは、SD-3C, LLCの商標です。
- Eye-Fiは、Eye-Fi, Incの商標です。
- MultiMediaCardは、MultiMediaCard Associationの商標です。
- 「プレイステーション3」は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの商品です。また、“ ”“プレイステーション”および“PlayStation”は同社の登録商標です。
- Adobe は Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中には™、®マークは明記していません。

- “Works with PlayStation 3”ロゴは、特定のPlayStation 3専用ソフトウェアと連携することで、さらなる楽しみを提供する製品につけるマークです。

安全のために

→2ページもあわせてお読みください。

下記の注意事項を守らないと、**火災**、**大けが**や**死亡**にいたる危害が発生することがあります。

分解や改造をしない

火災や感電の原因となります。内部点検や修理は相談窓口にご依頼ください。

分解禁止

内部に水や異物(金属類や燃えやすい物など)を入れない

火災、感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電池を取り出してください。ACアダプターやバッテリーチャージャーなどもコンセントから抜いて、相談窓口にご相談ください。

禁止

運転中に使用しない

自動車、オートバイなどの運転をしながら、撮影、再生をしたり、液晶画面を見ることは絶対おやめください。交通事故の原因となります。

禁止

撮影時は周囲の状況に注意をはらう

周囲の状況を把握しないまま、撮影を行わないでください。事故やけがなどの原因となります。

禁止

指定以外の電池、ACアダプター、バッテリーチャージャーを使わない

火災やけがの原因となることがあります。

禁止

機器本体や付属品、メモリーカードは、乳幼児の手の届く場所に置かない

電池やアイピースカバーなどの付属品やメモリーカードなどを飲み込む恐れがあります。乳幼児の手の届かない場所に置き、お子様がさわらぬようご注意ください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

禁止

電池やショルダーベルト、ストラップを正しく取り付ける

正しく取り付けないと、落下によりけがの原因となることがあります。
また、ベルトやストラップに傷がないか使用前に確認してください。

指示

電源コードを傷つけない

熱器具に近づけたり、加熱したり、加工したりすると火災や感電の原因となります。また、電源コードを抜くときは、コードに損傷を与えないように必ずプラグを持って抜いてください。

禁止

可燃性/爆発性ガスのある場所でフラッシュを使用しない

禁止

下記の注意事項を守らないと、**火災、大けがや死亡**にいたる危害が発生することがあります。

フラッシュやAF補助光などの撮影補助光を至近距離で人に向けない

- 至近距離で使用すると視力障害を起こす可能性があります。特に乳幼児を撮影するときは、1m以上はなれてください。
- 運転者に向かって使用すると、目がくらみ、事故を起こす原因となります。

カメラのファインダーや取りはずしたレンズを通して、太陽や強い光を見ない

視力障害や失明の原因となります。

長時間、同じ持ち方で使用しない

使用中に本機が熱いと感じなくても皮膚の同じ場所が長時間触れたままの状態でいると、赤くなったり水ぶくれができたりなど低温やけどの原因となる場合があります。

以下の場合は特にご注意いただき、三脚などをご利用ください。

- 気温の高い環境でご使用になる場合
- 血行の悪いかた、皮膚感覚の弱い方などがご使用になる場合

下記の注意事項を守らないと、**けが**や**財産に損害**を与えることがあります。

水滴のかかる場所など湿気の多い場所やほこり、油煙、湯気の多い場所では使わない

火災や感電の原因になることがあります。

ぬれた手で使用しない

感電の原因になることがあります。

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所に置いたり、不安定な状態で三脚を設置すると、製品が落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

つづき

⚠注意 下記の注意事項を守らないと、**けが**や**財産に損害**を与えることがあります。

コード類は正しく配置する

電源コードやパソコン接続ケーブルは、足に引っ掛けると製品の落下や転倒などによりけがの原因となることがあるため、充分注意して接続・配置してください。

通電中のACアダプター、バッテリーチャージャー、充電中の電池や製品に長時間ふれない

長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

使用中は機器を布で覆ったりしない

熱がこもってケースが変形したり、火災、感電の原因となることがあります。

長期間使用しないときは、電源をはずす

長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントからはずしたり、電池を本体からはずして保管してください。火災の原因となることがあります。

フラッシュの発光部を手でさわらない

フラッシュ発光部を指・手袋などで覆ったまま発光しない。また、発光後もしばらくは発光部に手を触れないでください。やけど、発煙、故障の原因となります。

フラッシュ発光部を正常な位置に上げない状態で使用しない

指定外のアクセサリーを装着した場合や、撮影時のスタイル等で、フラッシュ発光部が上がりきらない状態で発光させると、火災の原因となることがあります。

レンズや液晶画面に衝撃を与えない

レンズや液晶画面はガラス製のため、強い衝撃を与えると割れて、けがの原因となることがあります。

電池や付属品、メモリーカード、アクセサリーなどを取りはずすときは、手をそえる

電池やメモリーカードなどが飛び出すことがあり、けがの原因となることがあります。

直射日光の当たる場所に放置しない

太陽光が近くの物に結像すると、火災の原因になります。やむを得ず直射日光下に置く場合は、レンズキャップを付けてください。

ヘッドホンを使用するような場合、大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
呼びかけられたら返事ができるくらいの音量で聞きましょう。

⚠危険 電池についての安全上のご注意とお願い

漏液、発熱、発火、破裂、誤飲による大けがや**やけど、火災など**を避けるため、下記の注意事項をよくお読みください。

⚠危険	● バッテリーパックは指定されたバッテリーチャージャー以外で充電しない。 ● 電池を分解しない、火の中へ入れない、電子レンジやオーブンで加熱しない。 ● 電池を火のそばや炎天下、高温になった車の中などに放置しない。このような場所で充電しない。 ● 電池をコインやヘアーピンなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。 ● 電池を水・海水・牛乳・清涼飲料水・石鹸水などの液体でぬらさない。ぬれた電池を充電したり、使用したりしない。	禁止
⚠警告	● 電池をハンマーなどでたたいたり、踏みつけたり、落下させたりするなどの衝撃や力を与えない。 ● バッテリーパックが変形・破損した場合は使用しない。	禁止
⚠注意	● 電池は、+、−を確かめ、正しく入れる。 ● 電池を使い切ったときや、長期間使用しない場合は機器から取り出しておく。	指示

お願い	リチウムイオン電池はリサイクルできます。不要になったリチウムイオン電池は、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼ってリサイクル協力店へお持ちください。
	Li-ion リチウムイオン電池
	充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については 一般社団法人JBRCホームページ http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html を参照してください。

索引

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ヤ行

ラ行

ワ行

アルファベット順